

シトノ意義ニ解スヘキモノニシテ不信任決議ノ如キ執行ノ伴ハサルモノニ就テモ再議ニ付シ得ルモノト考フ蓋シ再議ハ不法不當ナル決議ヲ翻サシメントスルモノニシテ執行ノ伴フト否トハ之ヲ區別スヘキ理由ナケレハナリ

執行停止ノ意義

又執行ノ停止ニ就テハ未タ著手セサルモノヲ停止スルコトノミヲサスカ或ハ已ニ著手後ノモノニツキ其繼續ヲ止ルコトヲモ含ムカニ就テ疑ヲ抱クモノアリ併シ法ハ單ニ執行ヲ停止スト規定シ其著手ノ前後ヲ區別セサルニヨリスヘテ之ヲ包含スルモノト解釋スヘキナリ
又吏員ノ選舉モ議決ニ屬スルヲ以テ若シ其選舉權限ヲ超ヘ法律命令ニ背キ公益ヲ害スル如キ場合ニモ再議ノ規定ハ通用セラルヘキモノナリ
市參事會、町村長ノ再議權ノ濫用ヲ防ク爲ニ越權及違法ヲ理由トシテ再議ヲ命スル場合ニ於テハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得セシメ(郡參事會ノ對シテハ府縣參事會ノ裁決ヲ經テ)公益ヲ害スルヲ理由トシテ再議ヲ命シタル場合ニハ行政訴訟ヲ許ササルモ内務大臣ニマテ訴願スルコトヲ許シタリ此行政

訴訟及訴願ハ市會町村會カ爲シ得ルニ止リ一個人ハ勿論市參事會、町村長モ爲スコトヲ得サルナリ

3. 監督官廳ヨリ越權、違法、害公益ヲ理由トシテ執行停止ノ命令アリタルトキハ右ト同一ノ手續ヲ取ラサルヘカラス而シテ此場合ニモ右ト同様ニ訴願及行政訴訟ヲ許シタリ

右ノ制限ノ外市參事會、町村長ハ必ス市町村會ノ議決ヲ執行スヘキモノニテ其議決カ單ニ市町村ノ爲ニ不便ナリト云フ理由ヲ以テ或ハ其議決ヨリハ尙一層善キ方法アリトノ理由ヲ以テ其執行ヲ拒ムコトヲ得サルナリ
又市町村會ノ議事ヲ準備スルハ市參事會、町村長ノ職務ニ屬スルヲ以テ市町村會カ議案ノ發案權ヲ有セサルハ勿論(市町村會ノ專權ニ屬スル事項ニ就テハ此限ニアラス例ヘハ會議細則ヲ定メ若クハ官廳ニ意見)監督官廳モ市參事會、町村長ニ對シ一定ノ議案ノ發案ヲ命スルコトヲ得サルナリ

二、市町村ノ設置ニ係ル營造物ヲ管理スル事若シ特ニ之カ管理者アルトキハ其事務ヲ監督スル事

市町村會
ノ議事ヲ
準備スル
ハ市參事
會、町村
長ニ屬ス

- 三、市町村ノ歳入ヲ管理シ歳入歳出豫算表其他市町村ノ議決ニ依テ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事
收支ヲ命令スル者ト收支ヲ掌ルモノヲ分離スルノ主義ニ出タルモノニシテ其收支ヲ掌ルモノハ收入役ナリ蓋シ會計ノ紊亂ヲ防ク爲ナリ故ニ市參事會員町村長及助役ハ收入役ヲ兼ヌルコトヲ得サルナリ
- 四、市町村ノ公私ノ權利ヲ保護シ市町村有財産ヲ管理スル事
權利保護ノ中ニハ時効中斷ノ如キ行爲ヲモ含ム
- 五、市町村吏員及使丁ヲ監督シ市長ヲ除ク外其他ニ對シ懲戒處分ヲ行フ事
其懲戒處分ハ譴責及市ニ在リテハ十圓町村ニアリテハ五圓以下ノ過怠金トス
- 六、市吏員ノ懲戒處分ニ就テハ後ニ別ニ之ヲ説クヘシ
- 六、市町村ノ諸證書及公文書類ヲ保管スル事
- 七、外部ニ對シテ市町村ヲ代表シ市町村ノ名義ヲ以テ其訴訟竝和解ニ關シ又ハ他應若クハ人民ニ商議スル事

八、法律勅令ニ依リ又ハ市町村會ノ議決ニ從テ使用料手数料市町村税及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

九、其他法律命令又ハ上司ノ指令ニ依テ委任ヲ受ケタル事務ヲ處理スル事

第二 市參事會ノ議事手續

定員數

市參事會ハ議長又ハ其代理者及名譽職參事會員定員三分ノ一以上出席スルニアラサレハ議決ヲ爲スコトヲ得ス而シテ其議決ハ多數決ニ依リ若シ可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

回避

市參事會ノ決議モ之ヲ議事録ニ發録セサルヘカラス
市參事會員ハ自己及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ就テハ市參事會ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス其爲會議ヲ開クノ定數ヲ缺クトキハ市會之ニ代テ議決ス(市會ノ場合ニハ府縣參事會代決シタルモ)予輩ハ之ヲ當ヲ得タルモノニアラスト考フ蓋シ行政機關ノ代決ヲ議事機關ニ於テ行フハ其理ヲ得サルコトナレハナリ故ニ寧ロ之ハ市長ノ專決ニ委ヌルヲ適當ト信スルナリ

第三 市長ト市參事會トノ關係

一、市長ハ市參事會ノ議決ヲ準備シ其議決ヲ執行スヘキモノナレトモ市參事會ノ議決越權違法害益ノトキハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ由リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ府縣參事會ノ裁決ヲ請フヘキコトハ市參事會ノ市長ニ對スルト同シ而シテ之ニ對シ同シク訴願及行政訴訟ヲ許シタリ

專決處分

二、急施ヲ要スル場合ニ於テ市參事會ヲ召集スル暇ナキトキハ市長ハ市參事會ノ事務ヲ專決處分シ次回ノ會議ニ於テ其處分ヲ報告スルコトヲ得

市長代理

三、市長ハ市參事會ノ名ヲ以テ文書ノ往復ヲ爲シ及之ニ署名ス

四、市參事會員ハ市長ノ職務ヲ補助シ市長故障アルトキハ之ヲ代理ス市長ハ市會ノ同意ヲ得テ市參事會員ヲシテ市行政事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得而シテ分掌ハ事務上ノ責任ヲ共ニ移スモノナリ市條例ヲ以テ助役及名譽職參事會員ノ特別ナル職務竝ニ市長ノ代理ノ順序ヲ規定スヘク若シ條例ニ規定ナキトキハ府縣知事ノ定ムル處ニ從ヒ上席者之ヲ代理ス

第四 町村助役ノ職掌

最初ノ町村制ノ案ニハ町老村老或ハ町村年寄トアリシモモツセ氏ノ案ニ於テ之ヲ助役ニ改メタリ助役ハ町村長ノ事務ヲ補助スルモノニシテ町村長故障アルトキハ之ヲ代理シ助役數名アルトキハ上席者之ヲ代理ス。マタ町村長ハ町村會ノ同意ヲ得テ助役ヲシテ町村行政事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

分掌ノ數

市長カ市會ノ同意ヲ得テ市參事會員ニ市行政事務ノ一部ヲ分掌セシムルモ町村長カ町村會ノ同意ヲ得テ助役ニ分掌セシムルモ何レノ場合ニ於テモ其分掌ノ事務ハ分掌ヲ命セラレタルモノノ職權ニ屬スルモノナルニヨリ市參事會員若クハ助役ノ名ヲ以テ往復ヲ爲スヘキモノトス從テ其分掌事務ニ就テハ市參事會員町村助役ハ一個ノ行政廳トシテ其事務上ノ責任ヲ負擔スルモノニシテ市參事會町村長ハ只之ニ對シ監督上ノ責任ヲ有スルニ過キサレナリ

第五 市町村長ノ委任事務

市長、町村長ハ市制第七十四條、町村制第六十九條ニヨリ國若クハ他ノ公共團體ノ機關トシテ法律命令ニ從ヒ左ノ事務ヲ管掌ス

此事務ヲ市參事會ニ委任セスシテ市長ニ委任シタルハ他ノ一般ノ行政官廳ノ例ニ倣ヒテ行政事務ノ敏捷ノ處理ヲ目的トシタルニ出ツ又此事務ハ市長ニ委任サレタルモノナルニヨリ固ヨリ市長ハ市參事會ノ參與ヲ受ケスシテ之ヲ專行スルコトヲ得

一、司法警察官タルノ職務

市町村長ハ刑事訴訟法第四十七條第二項第六號ニ依リ司法警察官トシテ檢事ヲ輔佐シ以テ犯罪ヲ捜査スルノ職權ヲ有スルモノトス而シテ其司法警察官タルノ職權ノ範圍ニツキ或ハ市町村長ノ職務内ノ事務ニ關スル犯罪ニ付キテノミ司法警察官タルモノナリトノ說アリト雖モ其範圍ニ付何等ノ制限ナキニヨリ市町村事務ニ關スル犯罪ニノミ限ラルルモノニアラスシテ警視警部等ト均シク總テノ犯罪ヲ捜査スルノ權限アルモノトス只其管轄區域内ニ於テノミ爲スヘキ土地ノ制限アルモ事物ニ關スル權限ノ

司法警察官トシテ
職務ノ範圍

制限ナキナリ

二、法律命令ニ依テ其管理ニ屬スル地方警察ノ事務

但別ニ官署ヲ設ケテ地方警察事務ヲ管掌セシムルトキハ此限ニアラス

1. 地方警察ノ意義

地方警察ナル語ハ國ノ警察ニ對スルコトニシテ其意義ヲ確定スルコトハ番ニ市町村長ノ職掌ニ關スルノミナラス地方警察處分ニ對シテハ訴願ヲ許スモ國ノ警察處分ニ對シテハ訴願ヲ許ササルニ依リ人民ノ利益救濟ノ方法ニモ關スルモノトス故ニ地方警察トハ果シテ如何ナル意義ヲ有スルヤヲ先ツ考ヘサルヘカラス之ニツキ左ノ四說アリ

第一說 地方官廳ノ行フ警察ナリ

第二說 地方團體ノ行フ警察ナリ

第三說 一地方住民ノ利害ニ關スル警察ナリ

第四說 一地方ノ區域内ニ於テ行フモ其目的ヲ達シ得ル處ノ警察ナリ
我制度ノ地方警察カ右ノ第一說ニアラサルコトハ辯スルヲ要セサルコ

地方警察
トハ市町
村ノ區域
内ニ於テ
行ハルモ
目的ヲ以
テシテ
シテ
警察作用
ヲ得ルヲ
云フ

ウユルランベルヒ巴丁、ブラウンシワイヒ等ノ如ク市町村ナル團體ニ警察事務ヲ委任スルノ主旨ナルトキハ市制第七十四條町村制第六十九條ニ市町村長ノ職務トシテ特ニ之ヲ掲クルノ理由ナケレハナリ故ニ地方警察ノ意義ニツキ疑問トナルハ第三說ニ依ルカ第四說ニ依ルカニアリ普國ノ千八百五十年三月十一日ノ法律第六條ニ於テハ地方警察作用トシテ市町村住民ノ利害關係アル事項ヲ列擧シ且其他市町村住民ノ利害關係アル警察事務ト規定シタルニ依リ我制度モ此意義ニ依リタル如ク推定セラレ得ルト雖モ警察作用ニシテ地方住民ニ多少ノ利害關係ヲ有セサルコトナキニ依リ此說ニ依リ國ノ警察ト地方警察トヲ正確ニ區別スルコト困難ナリ故ニ第四說ニ依リテ解釋スルヲ至當ナリト考フ

2. 別ニ官署ヲ設クルノ意義

市制第七十四條町村制第六十九條第一號但書ニ別ニ官署ヲ設ケテ地方警察事務ヲ管掌セシムルトキハ此限ニアラズト規定シ市町村制施行以

後現今ニ至ルマテ此規定ヲ適用シ警察署及警察分署等ヲ各地方ニ配置シ市町村長ヲシテ地方警察事務ヲ行ハシムルコトナシト雖モ若シ今日ノ如ク爲ストキハ市制第七十四條及町村制第六十九條第一號後半ハ無用ノ規定ト云ハサルヲ得サルニ依リ恐ラク之ハ市制町村制ノ精神ニ違反スルモノナリ故ニ此規定ハ特別ノ事情アル土地ニ於テ市町村長ヲシテ地方警察事務ヲ擔任セシムル能ハサルトキハ別ニ官署ヲ設ケ得ルノ餘地ヲ存セシメントノ主旨ヲ以テ設ケラレタルモノト信ス又獨逸諸國ニ於テハ地方警察事務ヲ市町村長ヲシテ行ハシムルノ例少カラサルヨリ考フルモ其精神ヲ以テ但書ヲ設ケタルコト疑ナシ併シ町村長ニ地方警察事務ヲ擔任セシムルトキハ情實ニ流ルト敏健ヲ缺クノ恐アルニ依リ町村制第六十九條第一號ノ後半ヲ削除シ現在ノ警察署長ノ行フ地方警察事務ハ須ラク之ヲ郡長市長ニ移スヘキナリ

三、浦役場ノ事務

之ニ屬スル事務ノ中海員ノ雇入雇止ニ關スル事務ハ管海管廳トシテ之ヲ

掌ルニ依リ市町村長トシテ掌ル事務ハ漂流物品金圓等ノ保管出納及賣却
代金徴收等ナリ

四、國ノ行政竝ニ府縣郡ノ行政ニシテ市町村ニ屬スル事務

之ニ屬スル事務ハ府縣制國稅徴收法府縣稅徴收ニ關スル勅令、戶籍法、衆議
院議員選舉法、傳染病豫防法、精神病者監護法、墓地埋葬取締規則、徵兵令、徵發
令、小學校令、害蟲驅除法、耕地整理法、行旅病人及行旅死亡人取扱法、土地收用
法、河川法等ニ散見セリ

右列記ノ事務ハ監督官廳ノ許可ヲ得テ市ニ於テハ市參事會員ノ一名ニ町村
ニ於テハ助役ニ分掌セシムルコトヲ得此分掌ハ市町村行政ニ關セサルニヨ
リ市町村會ノ同意ヲ得ルヲ要セサルナリ

東京、京都、大阪ノ三市及人口二十萬以上ノ市ニシテ有給區長ヲ置ク處ニ於テ
ハ監督官廳ノ許可ヲ得テ區長ニ分掌セシムルコトヲ得分掌ニ監督官廳ノ許
可ヲ必要トスルハ國若クハ上級團體ノ事務ナルヲ以テナリ
此事務執行ノ費用ハ當然市町村ノ負擔ニ屬スヘキモノニアラスト雖モ便宜

機關ニ別ニ法令
受テ委任ヲ行
行ノ事務ヲ執行
費用ヲ行

上市町村ノ負擔ト定メラレタリ

町村制ノ第一ノ草案ニ於テハ町村長ニ警察命令及罰則ヲ定ムルノ權限ヲ與
ヘ、タレントモモツセ氏立案ノ草案ニハ之ヲ除キ別ニ法律ヲ以テ此等ノコトヲ
定ムルコトトナシタリシカ今日ニ至ル迄其制定ヲ見サルナリ

第四項 補助機關

第一目 選任

第一 收入役

一、有給職ナリ

初メノ草案ニハ之ヲ町村長助役ト同シク名譽職ト爲シタルモ金錢ノ取扱
ヲ爲サシムルモノナルニヨリ名譽職ニテハ到底適任者ヲ得ルコト難キヲ
考ヘ遂ニ有給職ト改メタルナリ

二、市ノ收入役ノ任期ハ六年ニシテ町村ノ收入役ノ任期ハ四年ナリ

三、市ノ收入役ハ市參事會ノ推薦ニヨリ市會之ヲ選任シ町村ノ收入役ハ町

村長ノ推薦ニヨリ町村會之ヲ選任ス而シテ共ニ監督官廳ノ認可ヲ要ス其
他選舉方法認可ヲ得サル場合ニ處スル方法認可ヲ得ル迄臨時代理者若ク
ハ官吏ヲ派遣スルコト或種類ノモノハ收入役ヲ兼ヌルヲ得サルコト公民
タルヲ要セサルコト在職中公民權ヲ有スルコト等スヘテ市助役有給町村
長有給町村助役ニ於ケルト異ルコトナキナリ

四、身元保證金ヲ納付セサルハカラス

其額ハ市町村會ニテ之ヲ決定ス

收支命令者ト實際ノ出納者トヲ獨立分離セシムル爲町村長助役ハ收入役ヲ
兼ヌルコトヲ得サルモノト爲セルモ收入支出ノ寡少ナル町村ニ於テハ郡長
ノ許可ヲ得テ町村長又ハ助役ヲシテ收入役ノ事務ヲ兼掌セシムルコトヲ得
併シ町村長ニ收入役ノ事務ヲ擔任セシムルトキハ收支命令ト實地出納トノ
分離ハ自ラ消滅シ會計不整理ヲ來スノ虞ナキニアラサルニヨリ可成的助役
ヲシテ兼掌セシムルカ或ハ比隣ノ小町村共同シテ收入役ヲ置キ得ルコトト
爲スヲ得策ト考フルナリ

町村長ヲ
シテ兼掌
シテ事務
シムルハ
シテ兼掌
シムルハ
絕對ニ不
當ナリ

第二 書記其他必要ノ附屬員並使丁

一、有給ナリ

二、人員ハ市町村會ニテ之ヲ議定ス

三、市ニ於テハ市參事會之ヲ任用シ町村ニ於テハ書記其他ノ附屬員ハ町村
長ノ推薦ニヨリ町村會之ヲ選任シ使丁ハ町村長之ヲ任用ス

小町村ニ於テハ町村長ニ相當ノ書記料ヲ給與シテ書記ノ事務ヲ委任スルニ
トヲ得此便法ヲ設ケ且其書記料ヲ定ムルハ固ヨリ町村會ノ職權ニ屬スルモ
ノトス若シ町村長ニシテ其金額ニ不足アリト爲ストキハ町村制第七十八條
ノ手續ニヨリテ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ルナリ

第三 區長及其代理者

一、區長ハ舊制度時代ノ人民總代又ハ組長ナリ

凡ソ市及區域廣濶若クハ人口稠密ノ町村ニ於テハ役場ト人民トノ間ノ交
涉其他處務便宜ノ爲市參事會若クハ町村長ノ意見ヲ以テ之ヲ數區ニ分チ
每區ニ區長及其代理者各一名ヲ置クコトヲ得 (此等ノ市ニ於テハ區
長代理者ヲ置カス)

町村長ヲ
給與シテ
書記料ヲ
給與シテ
事務ヲ任
務ヲ委任
スルコト
ヲ得

二、區長ハ名譽職ナリ

併シ東京、京都、大阪ノ三市及人口二十萬以上ノ市ニ於テハ區長ヲ有給吏員ト爲スコトヲ得

三、任期ハ條例若クハ市町村會議決ノ定ムル處ニ依ル

四、選任ノ手續ハ左ノ如ク區々ナリ

1. 東京、京都、大阪ノ三市及人口二十萬以上ノ市ニ於テハ市參事會區長ヲ選任ス
2. 區會ヲ設クル市町村ニ於テハ區會ニテ之ヲ選舉ス
3. 區會ナキ市町村ニ於テハ市町村會ニ於テ之ヲ選舉ス

第四 委員

之ハ自治ノ效果ヲ舉クル上ニ於テ最モ有用ナル機關ニシテ之ニ關スル主要ノ點ヲ舉クレハ左ノ如シ

- 一、市町村ノ議決ヲ以テ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得
- 二、合議體ノ機關ニシテ之ヲ組織スル者ハ名譽職ナリ

區長選任
ノ手續區
々ナリ

委員ハ必
度上必設
カクサル
モラサル
ラサニモ
自治行政
上右用ナ
機關ナリ

委員ノ組
織

三、任期及員數ニ就テハ定マルモノナシ故ニ市町村會ノ議決若クハ條例ヲ

以テ之ヲ定ムルコトヲ得レトモ學務委員ニ就テハ其員數ハ十人以下トシ
公民ヨリ出ツル委員ノ任期ハ四年ト限定セラレタリ

四、市ニ於テハ委員ハ市參事會員ノ中ヨリ之ヲ選舉スルカ或ハ市會議員中

ヨリ之ヲ選舉スルカ或ハ市參事會員及市會議員中ヨリ之ヲ選出スルカ或
ハ市參事會員、市會議員及市公民中選舉權ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ選フカ
ノ四方法ノ一ニヨラサルヘカラス而シテ委員中市會議員ヨリ出ツルモノ
ハ市會ニ於テ市公民中ヨリ出ツルモノハ市參事會ニ於テ其他ノモノハ市
長ニ於テ之ヲ選任ス又委員長ハ何レノ場合ニ於テモ市參事會員ノ一名之
ニ當ルコトト爲セリ

町村ニ於テハ委員ハ町村會議員中ヨリ之ヲ選舉スルカ或ハ町村公民中選
舉權ヲ有スルモノヨリ之ヲ選出スルモノトス而シテ委員長ハ町村長又ハ
其委任ヲウケタル助役之ニ當ルモノナリ

市町村長ハ委員長タルト否トニ拘ハラズ隨時委員會ニ出席シ議長トナリ

其議決ニ加ハルコトヲ得

常設委員ノ組織ニ關シテハ市町村條例ヲ以テ上述シタルモノト異リタル別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

學務委員中ニハ何レノ場合ニ於テモ市町村立小學校男教員ヲ加フルコトヲ要シ其教員ノ委員ハ市町村長ニ於テ之ヲ任免ス

其他市町村ハ必要ニ應シ民法上ノ契約ニヨリ人ヲ雇入レ以テ市町村ノ事務ニ關係セシメ得ルノミナラス專門ノ學術技藝ヲ具フルモノニ特別ノ事務ヲ囑托スルコトヲ得ルナリ例ヘハ工學家又ハ醫學家ニ技師又ハ病院長ノ職ヲ囑托スルカ如シ

雇及囑托

第二目 職務權限

第一 收入役

最初ノ町村ノ法案ニテハ租稅取立役トアリシモモツセ案ニ於テ之ヲ收入役ト爲シ市町村ノ收支ヲ掌リ其他會計事務ヲ處理スルモノト爲セリ而シテ收

支ノ命令官ト收支ノ實行者トヲ區別シタルニヨリ收入役ハ市參事會、町村長又ハ監督官廳ノ命令ナルニアラサレハ絶對ニ支拂ヲ爲スコトヲ得ヌ又收入役ハ市參事會、町村長ノ命令ヲ受クルモ其支出カ豫算表中ニ豫定ナキカ又ハ其命令カ市町村制第九條ノ規定(豫算超過又ハ豫算外ノ支出ヲ爲サントスルトキハ豫備費ヨリ支出スルカ又ハ市町村會ノ認定ヲ經ルヲ要)ニ據ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス若シ之ニ背キタル支拂ヲ爲シタルトキハスヘテ收入役ノ責任ニ歸スルモノナリ

第二 書記

書記ハ市町村長ニ隸屬シ庶務ヲ分掌ス

第三 區長及其代理者

區長及其代理者ハ市參事會、町村長ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區内ニ關スル市町村行政ヲ補助執行ス
東京、京都、大阪ノ三市ニ於テハ區長ハ市長、市參事會又ハ市收入役ノ指揮命令ヲ受ケ若クハ委任ニヨリ市ノ公共事務及法律命令ヲ以テ市ニ屬シタル事務ニシテ區内ニ關スルモノヲ管掌ス尙其他此三市ノ區長ハ市參事會ノ監督ヲ

有給區長

區長ヲ設
置スル理
由

受ケテ區ニ屬スル事務ヲ處理シ且區書記其他附屬員ヲ指揮監督スルノミナ
 ラス法律命令ノ規定ニヨリ又ハ府知事ノ指揮命令若クハ委任ニヨリ區内ニ
 關スル國及府ノ行政事務ヲ管掌ス(明治三十一年勅令
 第二百十號參照)
 東京、京都、大阪ノ三市ヲ除ク外人口二十萬以上ノ市ニシテ有給ノ區長ヲ置ク
 區ノ區長ハ大體右ノ東京、京都、大阪ノ三市ノ區長ト其權限ヲ同クスルモノナ
 リ(明治三十三年勅令
 第九十八號參照)
 區長ヲ設ケタル立法上ノ理由ハ町村制草案ノ理由書ニ於テ之ヲ盡シタリ曰
 ク「現今各地方ニ於テ或ハ人民總代ト云ヒ或ハ組長杯ト稱シ戶長役場ト人民
 トノ間ノ往復即布告達類ヲ每戶ニ告示スルコト又ハ國稅、地方稅、町村費ヲ取
 纏ムルコト其他町村内種々ノ世話事ヲ擔當スルモノアリテ戶長、人民トモニ
 其便利ヲ知ル曩ニ町村費ノ改稱アリ其費目ノ制限ヲ訓示シタルニヨリ右總
 代人、組長杯ノ設置ハ之ヲ公認セサルノ實況ニ至リタルニ實際缺クヘカフサ
 ルモノタルヲ以テ人民ノ協議ヲ以テ之ヲ置キ眞ノ協議費ヲ以テ些少ノ手當
 ヲ給シ來ル地方往々有之今之ヲ公認シテ官民ノ便宜ヲ助ク但總代人等ノ名

稱ハ町村會ノ設置アル今日ニ於テハ穩當ナラス依テ町村用掛ノ名稱ニ一定
 セントスト復此用掛ヲ改メテ區長ト爲シタルモノナリ

第四 委員

委員ヲ設
置スル理
由

委員ヲ設クル主旨ニ就テハ市制町村制理由書ニ「委員ヲ設クルハ市町村人民
 ヲシテ自治ノ制ニ習熟セシメンカ爲ニ最效益アリ委員アルトキハ多數ノ公
 民ヲシテ市町村ノ公益ノ爲ニ力ヲ盡スコトヲ得セシメ自治ノ效用ヲ舉クル
 コトヲ得ヘシ何トナレハ市町村公民ハ特リ會議又ハ參事會ニ加ハルノミナ
 ラス委員ノ列ニ入リテ市町村ノ行政ニ參與シ之ニ依テ自ラ實務ノ經驗ヲ積
 ミ能ク施政ノ難易ヲ了知スルコトヲ得ヘシ又地方ノ事情ヲ表白スルノ機會
 ヲ得テ大ニ專務吏員ノ短處ヲ補フコトヲ得ヘシト説明シ若シ此機關ヲ有效
 ニ且正當ニ運用セシムルトキハ自治行政ハ能ク其成績ヲ舉クルコトヲ得委
 員ハ自治制ノ最緊要ナル機關タルモノナリ然ルニ市制町村制實施後ノ實績
 ヲ見ルニ單ニ名譽ノ爲單ニ日當ノ爲或ハ黨派間ノ權勢平衡ノ爲委員タルコ
 トヲ希望シ競争スルモノナキニアラス從テ委員ハ自治行政ヲ補助セスシテ

却テ之ヲ妨害スルコトナキニアラス故ニ今日ノ状態ニ於テハ委員ハ濫リニ之ヲ設置スルコトヲ避ケサルヘカラサルナリ

委員ハ市參事會、市長、町村長ノ監督ニ屬シ市町村行政事務ノ一部ヲ分掌シ又ハ營造物ヲ管理シ若クハ監督シ又ハ一時ノ委託ヲ以テ事務ヲ處辨スルモノナルモ常設委員ノ職務權限ニ關シテハ市町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

委員ハ必シモ合議體ヲ爲スモノニアラス處務ノ便宜上或ハ單獨ニ行動スルコトヲ得

又委員ハ獨立ノ地位ヲ有セス外部ニ向テ市町村ヲ代表スヘキモノニアラサルニヨリ市町村會ニ對シ委員ノ名義ヲ以テ議案ヲ發シ報告ヲ爲スコトヲ得サルナリ

第五項 市町村吏員ノ法律上ノ地位

第一目 市町村吏員ノ範圍

市町村吏員トハ行政廳ヲ組織スルト行政廳ヲ補助スルトヲ問ハススヘテ市町村ノ行政事務ヲ行フモノヲ指スナリ故ニ市町村會議員ハ此中ニ包含セサルナリ恰モ官吏中ニ國會議員ヲ包含セサルカ如シ又民法上ノ契約ニヨリ雇入レラレ若クハ囑托セラレタルモノカ官吏ニアラサルカ如ク市町村ニ於テモ雇入レラレタルモノ若クハ囑托セラレタルモノハ市町村吏員中ニ包含セラレサルナリ只茲ニ疑トナルハ名譽職市參事會員及使丁カ市町村吏員タルヤ否ニアリ

第一 名譽職市參事會員

第十四回議會ニ提出セラレタル瀆職法案ニハ市參事會員ヲ加ヘアリシニヨリ其後明治三十四年法律第三十七號トシテ瀆職法カ發セラレタルトキニ單ニ議員、會員、委員トナリタリシモ其會員中ニハ市參事會員ヲ含ムモノナリトノ見解ヲ抱クモノナキニアラス併シ市參事會員ハ名譽職タルト否トニ拘ハラススヘテ市行政事務ノ執行ヲ以テ其權限ト爲スノミナラス市制ニ吏員タルコトヲ明記スルニヨリ性質上市町村吏員タルコト疑ナシ或ハ名譽職タルコト、任期アルコト、隨意ニ退職シ得サルコト、就職ノ形式カ選舉ニシテ任期ニ

名譽職市參事會員ハ吏員ナリ

活維持ノ資料ヲ別ニ有スルモノナルニヨリ給料ハ勿論其退職後ニ於テモ退
隱料ヲ受クルコトナシ

吏員ノ就
職要件

第四 名譽職吏員ハ公民ヲシテ公共ノ爲且行政事務慣熟ノ爲法律上ノ義務ト
シテ就職セシムルモノナルニヨリ専門ノ技能智識ヲ要件ト爲ササルモ有給
職吏員ニハ專ラ其適材ナルコトヲ根據トシテ就任セシムルモノナルニヨリ
或ハ試験ニ合格シタルコト或ハ一定ノ經歷ヲ有スルコト或ハ一定ノ資格ヲ
備フルコトヲ就職ノ要件ト爲スヲ普通ノ例トナセリ

我市町村吏員中名譽職タルモノハ名譽職市參事會員町村長町村助役市町村ノ
區長及其代理者(例外アルコトハ)市町村委員等ニシテ市長市助役收入役書記其
他ノ附屬員ハ有給職ナリ

嘗テ東京市長ニツキ市長カ辭表ヲ提出シタル場合ニ其辭任ノ效力ハ直ニ生ス
ヘキヤ或ハ三箇月ノ經過ヲ待ツテ始メテ生スルヤノ疑問ヲ生シタリ(市制第五
十五條箇月前ニ申立ツルコトキハ隨
長ハ三時退職ヲ求ムルコトヲ得)官吏ノ關係ハ其辭表提出ノトキ直ニ消滅セサ
ルト同ク市長タルノ地位モ辭任ノ申出ニヨリ直ニ消滅スルモノニアラスシテ

市會カ其辭任ヲ承認セサル以上ハ消滅セス故ニ其承認前ハ何時ニテモ市長ニ
於テ其辭表ヲ撤回スルコトヲ得ルナリ

第三目 市町村吏員ノ權利義務

第一 市町村吏員ノ權利

一、給料ヲ受クルコト

之ハ有給吏員ニ限り受クルコトヲ得ルモノニシテ其給料額ハ市町村會ノ
議決ヲ以テ定マルモノトス併シ市長ノ給料額ハ内務大臣ノ許可ヲ要シ市
助役ノ給料額ハ府縣知事ノ許可ヲ要シ町村長及町村助役ノ給料額ハ郡長
ノ許可ヲ要ス若シ内務大臣ニ於テ之ヲ許可スヘカラスト認ムルトキハ内
務大臣自ラ之ヲ確定シ府縣知事若クハ郡長ニ於テ之ヲ許可スヘカラスト
認ムルトキハ府縣參事會若クハ郡參事會ノ議決ニ之ヲ付シテ確定セシメ
サルカラサルナリ

又市ニ於テハ市長助役其他有給吏員ノ給料額ハ市條例ヲ以テ之ヲ規定ス

ルコトヲ得

二、退隱料ヲ受クルコト

之マタ有給吏員ニ限り受クルコトヲ得ルモノニテ市町村ハ其條例ヲ以テ有給吏員ノ退隱料ヲ設クルコトヲ得

退隱料ノ
停止及廢止

隨時自己ノ任意ヲ以テ退職シタルモノ及懲戒處分ヲ以テ解職セラレタルモノハ退隱料ヲ受クルコトヲ得サルノミナラス退隱料ヲ受クルモノモ官職又ハ府縣郡市町村及公共組合ノ職務ニ就キ給料ヲ受クルトキハ其間停止セラルマタ其後更ニ退隱料ヲ受クルノ權ヲ得ルトキハ其額舊退隱料ト同額以上トナル場合ニハ舊退隱料ハ全然廢止サルルモノナリ

三、實費辨償及報償ヲ受クルコト

名譽職タル町村長及行政事務ノ一部ヲ分掌スル名譽職町村助役ハ職務取扱ノ爲ニ要スル實費辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ受クルコトヲ得市町村ノ區長及委員モ職務取扱ノ爲ニ要スル實費辨償ノ外市町村ノ議決ニ依リ勤務ニ相當スル報酬ヲ受クルコトヲ得

其他市町村ノ名譽職員ハスヘテ職務取扱ノ爲ニ要スル實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得(此中ニ議員カ包含サルルヤ)實費辨償額及報酬額ハ市町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ確定ス

給料、退隱料、實費辨償、報酬ニ關シ異議アルトキハ關係者ノ申立ニヨリ府縣參事會、郡參事會(市ニ於テハ府縣參事會、町村ニ於テハ郡參事會)之ヲ裁決シ之ニ對シ不服アルモノハ順次ヲ追フテ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

遺族ニ對
スル給與

此外ニ市町村吏員ニ對シ退職給與金若クハ一時慰勞金、市町村吏員ノ遺族ニ對シ弔祭料、遺族扶助料若クハ死亡給與金ヲ給與シ得ルヤ否ヤト云フニ市制町村制ニハ之ニ關スル明文ナシト雖モ市會町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ與フルハ妨ケナシト信ス蓋シ市制町村制ハ退隱料ヲ與フルヲ許シテ遺族扶助料ヲ與フルヲ禁スルノ精神ナルコトヲ考フルヲ得サレハナリ

第二 市町村吏員ノ義務

一、市長、市助役及有給町村長、有給町村助役ハ官吏ト同様ニ左ノ制限ヲ受クルモノナリ

府縣知事
郡長ノ認
可アルハ
營業ヲ爲
スコトヲ
得

1. 他ノ有給ノ職務ヲ兼任スルコトヲ得ス
2. 株式會社ノ社長及重役ト爲ルコトヲ得ス
3. 府縣知事若クハ郡長(町村長助役ニ就テハ郡長)ノ認可アルニアラサレハ營業ヲ爲スコトヲ得ス
2. 名譽職吏員ハ其任期中隨意ニ退職スルコトヲ得ス
3. スヘテ市町村吏員ハ其品位ヲ保チ財産上ノ信用ヲ維持セサルヘカラス
4. スヘテ市町村吏員ハ忠實及服從ノ義務並ニ職務ヲ充タスノ義務ヲ有スルモノトス

第四目 市町村吏員ノ責任

第一 懲戒上ノ責任

市町村吏員カ其義務ニ違反シ職責ヲ完フセサルトキハ懲戒處分ヲ受ク而シテ其處分方法ハ譴責過怠金及解職ノ三種ト定メラル

一、譴責

市參事會ハ市長以外ノ市吏員使丁ニ對シ町村長ハ助役以下ノ町村吏員使丁ニ對シ譴責ヲ爲スコトヲ得而シテ府縣知事ハスヘテノ市吏員ニ對シ府縣知事郡長ハスヘテノ町村吏員ニ對シ譴責ヲ爲スコトヲ得

二、過怠金

市參事會町村長府縣知事郡長ハ右ノ譴責ニ就テ述ヘタルト等シク市町村吏員及使丁ニ對シ過怠金ヲ科スルコトヲ得レトモ其過怠金ノ額ニ左ノ如キ制限アリ

市參事會 十圓以下

町村長 五圓以下

府縣知事 二十五圓以下

郡長 十圓以下

三、解職

市町村吏員職務ニ違フコト再三ニ及ヒ又ハ其情狀重キモノ又ハ行狀ヲ亂リ廉恥ヲ失フモノ財産ヲ浪費シ其分ヲ守ラサルモノ又ハ職務舉ラサルモ

過怠金ノ
制限

ノハ懲戒裁判ヲ以テ其職ヲ解クコトヲ得併シ隨時解職スルコトヲ得ルモ
ノニ對シテハ懲戒裁判ニ依ラスシテ右ニ列記シタル懲戒權所有者ニ於テ
解職ヲ爲スコトヲ得

懲戒裁判

市吏員ニ對スル懲戒裁判ハ府縣知事其審問ヲ爲シ府縣參事會之ヲ裁決シ
町村吏員ニ對スル懲戒裁判ハ郡長其審問ヲ爲シ郡參事會之ヲ裁決ス(府縣
及郡長ノ審問ハ必シモ口頭タルヲ要
セス書面ニテモ之ヲ爲スコトヲ得)

市參事會ノ懲戒處分ニ不服アルモノハ府縣知事ニ訴願シ町村長ノ懲戒處
分ニ不服アルモノハ郡長ニ訴願シ郡長ノ懲戒處分ニ不服アルモノハ府縣
知事ニ訴願シ郡參事會ノ懲戒裁判ニ不服アルモノハ府縣參事會ニ訴願シ
結局行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得マタ府縣知事ノ懲戒處分府縣參事會ノ
懲戒裁判ニ不服アルモノハ直ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二 市町村ニ對スル賠償ノ責任

市町村吏員及使丁カ其職務ヲ盡サヌ又ハ權限ヲ超ヘタルカ爲市町村ニ對シ
テ賠償スヘキコトアルトキハ(吏員ノ一私人ニ對スル賠償責任
ハ官吏ノ一私人ニ對スルト同シ)市制第二百二十

吏員カ市
町村ニ對
スル賠償
責任

五條町村制第二百二十九條ニヨリ市吏員ニ對シテハ府縣參事會之ヲ裁決シ町
村吏員ニ對シテハ郡參事會之ヲ裁決ス之ニ不服アルトキハ行政訴訟(郡參事
會ノ裁
決ニ對シテハ府縣參
事會ニ訴願シタル上)ヲ提起スルコトヲ得(行政裁判法第
十六條參照)併シ府縣參事會郡參
事會ハ訴願訴訟ノ提起ニ拘ハラス假ニ義務アル吏員ノ財產ヲ差押フルコト
ヲ得而シテ其市制町村制ノ規定ハ市町村吏員及使丁カ退職シタル後ト雖モ
適用セラルルナリ

元來市町村吏員カ職務上ノ義務ニ背キ又ハ權限ヲ超ヘタル行爲ノ爲ニ市町
村ニ對シ損害賠償ノ責ニ任セサルヘカラサル場合ハ主トシテ會計吏員カ其
職責ヲ完フセス若クハ其他ノ吏員カ單ニ法規權限ノ解釋ヲ誤リテ違法行爲
ヲ爲シタル場合ヲ指スモノナレトモ吏員カ權限外ノ行爲ヲ爲シテ以テ市町
村ニ損害ヲ與ヘタル場合即吏員カ一私人トシテノ行爲ニヨリ市町村ニ損害
ヲ加ヘタル場合ヲモ之ニ包含スルモノト見サルヘカラス而シテ此後ノ場合
ハ純然タル民事上ノ損害賠償ノ性質ヲ有スルモノナルニヨリ民事裁判所ノ
管轄ニ屬スヘキモノナレトモ市制町村制ニ於テ其場合ヲ區別スルコトナク

スヘテ府縣參事會郡參事會ノ裁決ニ付セシメタルニヨリ市町村吏員ノ加ヘタル損害ニ關シ市町村ヨリ損害賠償ノ訴訟ヲ民事裁判所ニ提起シ得サルモトトス蓋シ法カ其區別ヲ爲ササリシハ市町村吏員ノ行爲ノ判定ヲ爲スハ之ニ近接スル府縣參事會郡參事會ヲ以テ適當ノ機關ト認メタルヲ以テナリ

收入役カ違法ノ支拂ヲ爲シ若クハ豫算ニナキ支拂ヲ爲シタルトキハ其賠償ノ責ニ任セサルヘカラサルカ如キハ此中ニ包含サルルコト勿論ナリト雖モ市町村吏員ノ行爲ニ對シ市町村カ賠償シタルモノニ對シ其吏員カ之ヲ償還スルコトモ包含サルルヤ否ヤニツキテハ少シク考究ヲ要ス此疑問ヲ決スルニハ先ツ如何ナル場合ニ市町村カ市町村吏員ノ行爲ニツキ賠償ヲ爲スヘキヤヲ論究セサルヘカラス之ニ就テハ官吏カ其職務上ノ行爲ニツキ人民ニ損害ヲ與ヘタル場合ニ國庫カ賠償ノ責任ヲ擔任スルト同一ノ範圍内ニ於テ市町村モ賠償ノ責任ヲ負フモノト考フヘキナリ即人民ニ損害ヲ與ヘタル吏員ノ行爲カ私法上ノ行爲ナルトキハ市町村ハ於テ賠償スヘキモ公法上ノ行爲ナルトキハ賠償スルヲ要セス蓋シ民法第四十四條ノ規定ハ市町村吏員ノ公法上ノ行爲ニ適用サレシテ其他ニ特別ノ規定ナキヲ以テナリ

吏員カ人民ニ損害ヲ與ヘタル場合ニ於テ市町村カ賠償スルノ責任アリ

市町村ノ賠償責任

法學士 有吉 忠 一

官吏カ其職務ヲ施行スルニ際シテ他人ニ損益ヲ加ヘタル場合ニ國家ハ其損害ヲ賠償スルノ責任アリヤ否ヤト云フ事カ學者ノ間ニ議論ノアル如ク市町村ノ吏員カ其事務ヲ處理スル際ニ其吏員ノ故意又ハ過失ニ依リ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ市町村ハ其損害ヲ賠償スルノ責任カ有ルカ無イカト云フ事ハ學問上研究ノ價值アルノミナラス實際數々起リ得ル問題テアツテ現ニ英吉利亞米利加杯テハ市町村ニ對スル損害賠償事件ノ判決例ハ殆ント數ヘ盡サレヌ程澤山アル然ルニ我國ニ於テハ未タ學者ノ間ニ之ニ關スル學說ヲ聞カナイ又多分有ルコトトハ信スルカ實際ノ判決例アルコトヲ承知シナイ英米各國ニ於テ彼レカ如ク多キハ英米各國ノ人民カ自己ノ權利ヲ保護スルハ獨リ自己ノ利益ニ關スルノミナラス國家及社會ニ對スル公共ノ義務テアルト信スルカラテアツテ我國ニ於テ此ノ如ク少ナキハ他人ノ爲ニ自己ノ利益ヲ犧牲ニスルハ高尚ナル美德テアルト云フ觀念ノ強イノト又一ツニハ「泣ク子ト地頭ニハ勝テヌ」ト云フ諺カ深ク染ミ込メ居ルカラテアラウ強チ歐米諸國ノ風習ニ心醉スル譯テハ無イカ不法ニ自家ノ權利ヲ毀損サレ乍ラ黙ツテ其儘ニ放任スルハ社會ノ秩序ヲ維持スル所以テハアルマイ公共ノ爲ニ自家ノ利益ヲ犧牲

ニ供スベキ場合ハ、憲法ニ保障セルカ如ク法令ノ規定ニアルヘキテアル、此ノ如キ法令ノ規定ニヨラスシテ不法ニ自家ノ權利ヲ毀損セラレタル場合ニ、或ハ訴訟ニヨリ或ハ行政訴訟ニヨリ、或ハ又司法裁判ニヨリ、夫々其不法ヲ矯正シ自家ノ權利ヲ保護スルノ途ヲ講スルハ、社會ヲ組織スル一員トシテノ義務テハアルマイカ。固ヨリ法律上ノ權利ハ拋棄スルコトヲ得ルヲ以テ原則トスルカ故ニ、訴訟訴訟ノ權利ヲ拋棄シタカラト云フテ、法律上義務違反トハ云ヘナイ。併シ所謂「泣ク子ト地頭」ノ諺ノ如ク、對手方カ國家又ハ府縣市町村ノ如キ公共團體タルノ故ヲ以テ不法行為ヲ默認スルハ、社會ニ忠實ナル所以テハナイト云フノテアル。茲ニ市町村ノ賠償責任ヲ論スルハ、政體健全ノ風ヲ助長セントスル考テハナイ、只如何ナル場合ニ市町村ハ損害ヲ賠償スルノ責任カアルカヲ研究シテ、當局者ノ一考ヲ煩ハシタイ計リテアル。學者ノ未タ手ヲ付ケサル未發ノ理論ヲ闡明センヲ云フ大膽ナル計畫テハ固ヨリナイ

市町村ニ損害ヲ賠償スルノ責任カ有ルカ無イカト云フ問題ハ、如何ナル場合ニ起ルテアラウカト云フニ

第一 他人ノ蒙リタル損害カ直接市町村吏員ノ行為ニ基キタルコト

第二 其市町村吏員ノ行為ハ、其吏員ノ權限内ニ屬スル事務ナルコト

第三 其事務ハ市町村ノ事務ナルコト

以上三個ノ要件ヲ備ヘタル事實ニ就テ始メテ疑問カ生スルノテアツテ、此要素カ缺クテ居ルナラハ殆ント問題トハナラヌ程明白ナノテアル。則チ市町村ノ吏員テモナ

イ者カ他人ニ損害ヲ蒙ラシメタカラトテ、市町村ハ其損害ヲ賠償スルノ義務アル可キ謂ハナイ。例ヘハ市町村立病院ノ醫師カ、重大ナル過失ニヨリテ手術以外ニ患者ニ負傷セシメ、小學校ノ教員カ生徒ノ身體ヲ毀傷シタルカ如キ、病院ノ醫師學校ノ教員ハ過失ニ對スル責任ヲ免ル能ハサルヘシト雖モ、市町村カ之ニ對シテ賠償ヲ負フノ義務ハナイノテアル。次ニヨシ他人ニ損害ヲ加ヘタルハ市町村吏員ナリシトスルモ、若シ其吏員ノ行為カ、其吏員ニ與ヘラレタル權限ニ屬スル事項テナカツタナラハ、市町村ハ其損害ヲ賠償スル責任ヲ持タナイ。何故トナレハ、其吏員ノ權限ニ屬セナイ事項ハ市町村ノ事務テハナイ、曰ハハ其吏員一己ノ行為テアルカラテアル。例ヘハ學務委員カ堤防修築ノ請負契約ヲ締結シタカラトテ、市町村ハ之カ爲メニ束縛セラルルモノテナイ、從テ之ヲ違約シタルカ爲メニ生シタル損害ヲ賠償スルノ責任テ生セナイ、第三ニ市町村ノ事務テナイ事項、例ヘハ郡ノ事務ニ就テ市町村カ損害賠償ノ責任ヲ生スヘキ道理カナイコトハ言ハストモ明カナル所テアル。ソコテ疑問トナルヘキ問題ハ、他人ノ蒙リタル損害カ、直接市町村ノ吏員ノ行為ニ原因シ、而シテ其吏員ノ行為ハ自己當然ノ權限内ノ事務ニ關シ、其事務カ市町村ノ事務テアル場合ニ起ルノテアル。以下説ク所ハ此三個ノ要件ヲ備ヘタル行為ニ就テ云フノテアル

市町村ノ吏員カ他人ニ加ヘタル損害ニ對シ、市町村カ其損害ヲ賠償スルノ責任アリト否ヤノ問題ヲ解釋スルニハ、先ツ市町村ノ事務ヲ區別シテ論スル必要カアル

市町村ニハ二種類ノ事務カアル、

一 市町村ニ委任セラレタル國ノ行政事務(市制第三十條町村制第三十二條)

二 市町村固有ノ自治ノ事務(市制及町村制第二條)
ト此ニツテアル、ソコテ若シ他人ニ損害ヲ加ヘタル市町村員吏ノ行為カ、國ノ行政事務ヲ施行スル際ニ起ツタモノテアルナラハ、其損害ヲ賠償スルノ責任カ市町村ニアルカ無イカト云フ問題ハ、國家ノ官吏カ其職務施行ニ際シテ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ、國家カ賠償ノ責任ニ負スヘキヤ否ヤト云フ問題ト同一ニ歸著スルノテアル。官吏カ故意又ハ過失ニ依リ、他人ノ權利ヲ毀損シタル場合ニ、國家ハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スルノ責任カアルカ無イカト云フニ就テハ、二個ノ主義カアル、一ハ英吉利ニ於ケルカ如ク、國政事務ノ施行ヨリ生スル損害ニ就テハ、國家ハ一切損害ヲ賠償シナイト云フノト、他ノ一ハ、獨逸ヤ佛蘭西ニ於ケルカ如ク、國家ハ時トシテ自ラ私法上ノ關係ノ下ニ立ツ事カアル、斯ル場合ニハ、國家ハ私法ノ規定ニ基イテ、一私人ト均シク其損害ヲ賠償スルノ責任ニ任スヘシト云フノ主義テアル、英國ハ世人ノ知レル如ク、頗ル裁判所ヲ尊重スル所テアツテ、其權限モ甚タ廣ク、單ニ民事、刑事、非訟事件等普通諸國ノ裁判所カ管轄スル事件ノミナラス、行政裁判所、權限爭議裁判所等ノ管轄ニ屬スヘキ事柄ニ就テモ其職權ヲ行フテ居ルノテアル。而シテ英國ノ法律ハ多ク慣習ヲ基トセルモノナルカ故ニ、一度裁判所カ國家ニ對シテ損害ノ賠償ヲ要求スル事件ニ對シ、「國王ハ惡事ヲ爲サス」ト云フ原則ヲ官吏ノ行為ニマテ適用シ、官吏カ其權限内ニ於テ爲シタル行為ハ、假令過失ニヨリテ損害ヲ他人ニ加ヘタリトスルモ、之ヲ以

テ損害賠償ヲ要求スル原因トナスヘキモノニアラストノ判決ヲ下セシヨリ、今日ニ至ル迄數ヘキレヌ程ノ澤山ナル事件ニ對シ、判決ノ理由ハ、古トハ大ニ異ナツテ居ルカ其判決ハ皆少同様に國家ニ賠償ノ責任ヲシト云フテ居ル、且其賠償責任ヲシト云フノカ、獨逸ヤ佛蘭西ニ於ケルカ如ク、單ニ公法上ノ行為ニ止マラス、廣ク私法上ノ行為ニ就テモ賠償ノ責任ヲ認メテ居ラヌ、之ニ就テハ、今日識者ノ間ニ議論カアツテ、其理由ニキコトヲ唱導スルモノカ段々アル。又實際ノ判決例ニ於テモ、單ニ政府カ所有財産管理ノ爲メニナシタル行為ニ關シテ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ハ、政府カ公務ヲ施行シタル場合ト同様ニ見ルヘキモノテナイト云フ理由カラ、賠償ノ責任アリトセルモノカ段々見エル。イツレ早晚此説カ行ハルル様ニナルテアラウト思ハルル。併シ現今テハ未タ前ノ判決カ其勢力ヲ維持シテ居ルノテアル。我國ノ制度ハ此二ノ主義ノ孰レヲ採ツテ居ルカト云フニ、獨逸ヤ佛蘭西ト同一ノ主義ヲ採ツテ居ル、其コトハ民法ノ明文ニ於テ國家ヲ除外スルノ規定ハ固ヨリナク、又此ノ如キ事柄ニ就テノ特別ノ法規モ發布サレテ居ラヌカラ、國家ト雖モ私法上ノ行為ヲ爲ス場合ニハ、私人ト均シク民法ノ規定ニ準據スヘキハ論ヲ俟タナイ所テアル。隨テ官吏ノ行為テアツテモ、國家カ純然タル私法上ノ關係ニ立ツ場合ニ起ツタモノナル時ハ、之カ爲ニ生シタル他人ノ損害ハ、國家カ之ヲ賠償スルノ責任カアルト云ハナケレハナラヌ。(民法第五章)
官吏ノ行為カ純然タル私法上ノ行為テナカツタ場合、即チ公法ノ範圍ニ屬スルモノ

テアツタ場合ニハ特別ノ明文ノ無イ限リハ事務ノ施行ノ爲ニ生シタル損害ヲ賠償シナイト云フコトハ、執レノ國ニモ行ハレテ居ル原則テアル。其立法上ノ理由ニハ種種ノ學說モアラウケレトモ、解釋論トシテハ、要スルニ國家ノ公權ヲ施行スル行政行爲ト云フモノハ、私法ノ目的トナルヘキモノテハナイ、隨テ私法ニ於ケル損害賠償ノ原則ヲ適用スヘキモノテナイ、必ス特別ノ法規ニ待タナケレハナラヌモノテアルト云フノテアル。併シ社會ノ生存ノ爲ニハ個人ノ權利ヲ安固ニスルコトカ段々必要ニナツテ來ル今日ノ場合テアルカラ、國家ハ斯ル場合ニモ損害ヲ賠償スルノ規定ヲ設クルモノカ多クナツテ來ル。現ニ我國ニ於テモ、獸疫豫防法ノ如キハ、牛、牛、牛、牛ノ蔓延スル際ニ、其傳染ヲ豫防スルカ爲ニ、健全ナル牛ヲ撲殺スル場合ニハ、之ニ補償ヲ與フルノ規定カアル。又土地收用法ニ於テ、公共ノ事業ノ爲ニ國家カ土地ヲ收用スル場合ニモ之ニ向ツテ補償ヲ與フルノ規定カアル。或ハ又軍事ノ必要ノ爲ニ食料等ヲ徵發スルト云フヤツタ場合ニモ、補償ヲ與ヘルト云フ規定マテアルト云フノハ、如何ニ國家公權ノ施行トハ云ヘ、攫リニ個人ノ權利ヲ毀損スヘキモノテナイ。ナルヘク個人ノ權利ハ保護セテハナラヌト云フコトヲ認メタカラテアル。併シ此ノ如キ補償ヲ與ヘルト云フ特別ノ規定アル場合ハ格別トシテ、斯ル規定ノナイ場合ニハ、公權ノ施行ヨリ生シタル損害ニ對シテ、國家ハ賠償ノ責任カナインカ原則テアル。

以上ハ官吏ノ行爲ニ對スル國家ノ賠償責任ニ就テ述ヘタノテアルカ、誠テ市町村ニ委任セラレタル國ノ行政事務ヲ施行シタル市町村吏員ノ行爲ニヨツテ、他人ニ損害

ヲ加ヘタ場合ニ市町村ノ之ニ對スル賠償責任ハ如何テアルカト云フニ、テウ下同シ原則カ適用セラレルノテアル。何故カト云フニ、前ニモ述ヘタル如ク、國家公權ノ施行ハ私法ノ目的トハナラヌモノテアルカラ、其施行ノ局ニ當ルモノカ、政府ノ官吏テアル場合ト、市町村ノ吏員テアル場合トニヨツテ區別ノアルヘキ理由カナイカラテアル。我國ニ於テハ、市町村長ハ一方ニ於テハ市町村ノ自治機關タルト同時ニ、他方ニ於テハ國ノ行政機關タル性質ヲ持ツテ居ルカラシテ、國ノ行政事務ヲ市町村ニ委任スル場合ニハ、多ク市町村長ヲ指シテ委任シテ居ルソレ故ニ、國ノ行政事務ニ就テ、市町村カ直チニ損害賠償ノ責任ヲ持ツカドウカト云フ問題カ實際ニ起ルコトハ頗ル稀レテアル。併シ一二ノ例ヲ舉クレハ、例ヘハ傳染病豫防法第十五條ニ、傳染病流行シ、若ハ流行ノ虞アルトキハ、市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ、市制第六十一條、町村制第六十五條ニ依リ、傳染病豫防委員ヲ置キ、檢疫豫防ノ事ニ從ハシム可シトアルニヨリ、之ニ基キテ設置シタル豫防委員カ、同法第十六條ニ從ヒ、清潔方法及消毒方法ヲ施行スルニ當リテハ、個人ニ損害ヲ來ス場合カ起ルノハ、應々テアル。斯ウ云ウ場合ニ此豫防委員ノ爲シタル行爲ニ就テハ、市町村ハ監督上ノ責任コソ持テ、民法上ニ於ケル損害賠償ノ責任ハ持タヌノテアル。英吉利ニ於テハ、警察上ノ諸規則ヲ設クルカ如キ、國政事務マテ市町村ニ委任サレテ居リ、市町村カ或ル範圍マテ警察權ヲ施行スルノ權限ヲ持ツテ居ルカラ、此ノ問題ノ起ルコトハ實ニ屢々テアル。我國ノ市制町村制ニ於テモ、市長及町村長ニ地方警察ノ事務ヲ取扱ハシムルト云フ規定ハ、明文ニ存シテハ居

ルケレトモ、市制第七十四條町村制第六十九條未タ其管理ヲ命スル法律命令カ發布サレテ居ラマカラ、市町村ノ有スヘキ警察權ハ實際空文ニ屬シテ居ル、此點ニ關スル英米二國ニ於ケル二三ノ實例ヲ舉クテ見ルト、亞米利加ノチエスタート云フ市ニ於テ煙火工場カ爆發シタカ爲ニ、マクテードト云フ人カ大ナル損害ヲ受ケタコトカアル。然ルニ此チエスタート市ハ、住民ニ危險ヲ及ホス懼アル火藥ヤ煙火ノ製造ヲ禁止スル條例ヲ發布スル權能ヲ與ヘラレテ居ツタ。夫レニモ拘ハラズ、市カ此條例ヲ發布シナカツタカ爲ニ、煙火工場カ依然トシテ其製造ヲ繼續シ、遂ニ爆發ヲ來スニ至ツタノテアルカラ、畢竟市カ其公務ヲ怠ツタ所ヨリ損害ヲ蒙ツタノテアル。夫レ故市ハマクテードニ對シテ損害ヲ賠償スヘキ義務カアルト云フテ、被害者マクテードヨリ訴訟ヲ起シタ。然ルニ裁判所ハ、此ノ如キ條例ヲ發布スルコトハ國ノ事務ニ屬スル事項テアルカラ、チエスタート市ハ損害ヲ賠償スルノ義務カナイト判決シタ。又亞米利加ノアトランタト云フ町ノ或ル部分ニハ、火防ノ爲ニ木造ノ家屋ヲ建テルコトヲ禁止スルノ勅令カ有ツタニモ拘ラズ、某ナルモノニ木造ノ家屋ヲ建築スルノ許可ヲ與ヘタ。然ルニ、幾許ナラスシテ此木造ノ家屋ヨリ火ヲ失シ、其隣家ノフチルシスト云フ人ノ家ヲ燒イタ。ソコテフチルシスハ元來アトランタ町カ實行ノ義務アル勅令ノ規定ヲ實行シナカツタカ爲ニカカル事件カ起ツタノテアルカラ、畢竟町ノ怠慢ヨリ此損害ヲ被ツタノテアル。夫故ニ、アトランタハ自己ノ被ツタ損害ヲ賠償スルノ責カアルト申立テタ。然ルニ裁判所ハ勅令ヲ實行シナカツタト云フコトハ、アトランタ町カ政府ニ

對シテ違法ノ責任ヲ問ハルルノ問題トハナルケレトモ、私人ニ對シテ損害ヲ賠償スルノ義務ヲ生スルモノテナイ、何故トナレハ、之レハ國ノ行政事務ニ屬スル事柄ヲアツテ、單ニ此アトランタ町夫レ自身ノ利益ニノミ關スル問題テナイカラテアルト判決シタ。又ニニューヘブント云フ市ニ於テ、機械汽器ノ検査ノコトハ市ノ事務ニ委任サレテ居ツタ。市ハ之カ爲ニ特ニ検査員ヲ用ヰテ居ツタカ、其検査員カメツト云フ人ノ工場ノ蒸汽機械ヲ検査ニ行ツテ、必要モナキニ非常ナル壓力ヲ無理ニ起サシメタカ爲ニ、其機械カ遂ニ破裂シタ。メツトハ、之レハ検査員ノ不注意ヨリ起ツタモノテアルカラ、市ニ賠償ヲシテ貰ヒタイト訴ヘタ。裁判所ハ、之レ市一個ノ利益ニ關スルモノニアラスシテ、國家全般ノ利益ニ關スル國ノ事務テアルカラ、市ニ於テ此事務ノ施行ヨリ生シタル損害ヲ賠償スルノ義務ハナイト判決シタ。以上ノ例ヲ以テ見ルニ、市町村カ其吏員ノ過失ニヨリ發布スヘキ條例ヲ發布シナカツタリ、施行スヘキ法令ヲ施行シナカツタリ、又ハ施行スルニ際シテ不注意ノ爲ニ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ、其事務カ國ノ公權ヲ施行スル場合テアツタナラハ市町村ニ損害賠償ノ責任カナイトハ明カテアラウ。是迄ハ國ノ行政事務ニ就テノ市町村ノ賠償責任ヲ述ヘタノテアルカ。第二ニ市町村吏員ノ施行シタ事務カ、市町村固有ノ自治ノ事務ニ屬シタ場合ハドウテアルカト云フニ、之ニ就テハ更ニ二個ニ區別シテ論シナケレハナラヌ。即チ一ハ公法上ノ事務テアツテ、他ノ一ハ私法上ノ事務テアル。公法上ノ事務トハ、例ヘハ道路ヲ

築造シタリ、橋梁ヲ架設シタリ、病院ヲ立テタリ、水道ヲ設ケタリ、其他條例ヲ發布シ規
 則ヲ設ケルカ如キモノヲ云フノテアル。私法上ノ事務トハ、例ヘハ役場ノ用ニ供スル
 器具調度ヲ買入レタリ、或ハ市町村有ノ不動産ヲ賣却シタリ、或ハ工事ノ請負契約ヲ
 締結シタリ、或ハ貸借契約スルト云フカ如キ諸般私法上ノ行為ヲ爲ス場合ヲ云
 フノテアル。市制及ヒ町村制ノ第二條ニ、市町村ハ、一個人ト均シク權利ヲ有シ義務ヲ
 負ヒ、凡ソ公共ノ事務ハ自ラ之ヲ處理ス。下云フ規定カアル。此箇條ハ、公法上ノ事務モ
 私法上ノ事務モ包括シテ市町村カ行ヒ得ル旨ヲ規定シタモノテアルカラ、市町村ノ
 事務ノ中ニ此二ツノ區別カアリ得ヘキハ明カテアル。而シテ市町村ノ吏員カ、私法ニ
 屬スル市町村ノ事務ヲ施行スル場合ニ他人ニ損害ヲ被ラシメタラハ、市町村ノ責
 任ハ何ウテアルカト云フニ、此場合ニ於ケル市町村ノ責任ノ有無ヲ見ルニハ私法ノ
 規定ニヨラナケレハナラヌ。何トナレハ、此ノ場合ニハ、市町村ハ一個人ト均シク私法
 ノ支配ノ下ニ立ツテ居ルカラテアル。而シテ民法第四十四條ニハ、法人ハ、理事其他ノ
 代理人カ、其職務ヲ行フニ付キ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責任ニ任スト規定シテ
 アルカラ、市町村ノ吏員カ、其職務ヲ行フニ付キ他人ニ損害ヲ加ヘタル時ハ、市町村ハ
 其責任ヲ負ケレハナラヌ。併シ其事務ハ私法上ノ事務ニ屬スル場合ニ限ルノテア
 ル。之ニ就テ面白イ實例カアル。ウチルセスタート云フ市テ、ナリパアト云フ人カ、市
 ノ公會堂ノ傍ニアル穴ノ中ニ陥ツテ怪我ヲシタ。時ハ夜テアツタニモ拘ラヌ、燈火モ
 立テテナク、圍ヒモシテナク、全ク適當ナル處置カシテナカツタ處カラ、被害者ガリハ

ア、市吏員ノ不注意ヨリ起ツタ損害ヲアルカラ、市ヨリ賠償ヲシテ貰ヒタイト請
 求シタ、所カ、裁判所ハ、事實ヲ審査シテ判決シテ曰フニハ、元來市ノ公會堂ヲ維持スル
 ト云フコトハ、單ニ市ノ利益ノ爲ノミナラス、國家公共ノ爲ニ必要ナル事務ヲアルカ
 ラ、之カ管理上ニ不注意カアツタ爲ニ損害ヲ被ツタモノカアツタモ、市ニ對シテ其賠
 償ヲ求ムルコトヲ得ナイノカ原則テアル。然ルニ、本件ノ公會堂ハ、ウチルセスター市
 カ、此事件ノ起ル以前ヨリ、一私人某ナル者ニ貸貸ヲシテ居ルモノテアツテ、市ノ公會
 堂トシテ使用シテ居ツタノテハナイ、且ツ其横ニ穴カ有ツタノハ、此貸貸契約ニ基キ
 市カ修繕ノ義務ヲ負フテ居ル所カラ、其修繕ニ著手中、工事ノ必要ノ爲メニ掘ツタモ
 ノテアル。夫レ故、其事務ハ全ク私法ノ範圍ニ屬スルモノテアルカラ、市ハ一人ト等
 シク、其吏員ノ不注意ヨリシテ他人ニ及ホシタル損害ヲ賠償スルノ義務ガアルト述
 ヘタ。之ハ亞米利加ニ於ケル著名ナル實例テアルカ、我國ニ於テモカカル事柄ハ少ナ
 クナイノテアル。例ヘハ買買契約ヲ締結シ乍ラ之ニ違約シタリ、或ハ請負契約ヲ不當
 ニ解除シタリ、或ハ所有財産管理上ノ不注意ヨリシテ他人ニ損害ヲ及ホシタルコト
 ハ、實際屢々起ル處ノ事柄テアル。カ、私法ノ範圍ニ屬スル行為ニ就テハ、市町村ト
 雖モ私法ノ適用ヲ受ケルノテアルカラ、民法上損害ヲ賠償スルノ義務カアルト云ハ
 ナケレハナラヌ

次ニ、市町村吏員ノ施行シタ職務カ公法上ノ事務テアツタ場合ニ、市町村ノ損害賠償
 ノ責任ハドウテアルカト云フニ、此場合ハ我國ニ於テハ損害賠償ノ責任ハナイト云

フテ宜シイ。英吉利ニ於テハ、此ノ如ク、市町村ノ損害賠償ノ責任ヲ、公法上ノ事務ト私法上ノ事務トニヨツテ區別シテ居ラヌ。實際ノ慣例ニ基キテ、若シ其事務カ國家一般ノ利害ニ關スルノ事務テアツタラハ市町村ニ損害賠償ノ責任ハナイカ、市町村限リノ利害ニ關スル事務テアツタ合ニハ、之レハ市町村一個ノ私益ニ屬スル事柄テアルカラ、市町村ニ賠償ノ責任カアルトナツテ居ル。夫レ故彼ノ道路ニ關スル實例ヲ見ルニ、英吉利テハ、道路ノ維持及修繕ハ、國道ト里道トナ間ハ、市町村ノ義務ニナツテ居ル。然ルニ國道ヲ修繕スル際ニ起ツタ損害ニ付テハ、市町村ハ賠償ノ義務ヲ持ツテ居ラヌ。里道ノ場合ニハ賠償ノ義務カアルコトトナツテ居ル。是レ國道ハ國家一般ノ利益ニ關シ、里道ハ市町村限リノ利益ニ關スルモノト看做サレテ居ルカラテアル。其他水道ノ敷設、瓦斯ノ供給、下水ノ築造等ノ如キ事柄ハ、皆ナ其市町村限リノ利益ニ關スル問題テアツテ、市町村チ一個ノ人ト見立ツレハ則チ一個人ノ私益ニ關スル事柄テアルカラ、市町村ハ一個人ト等シク、此等ノ事柄ニ付テ他人ニ損害ヲ及ホシタ場合ニハ、之ヲ賠償スルノ責任カアル。併シ我國テハ、是等ノ事柄、即チ道路ノ維持修繕、水道ノ敷設、瓦斯ノ供給、下水ノ築造等ノ如キハ、市町村カ公共事務トシテ取扱フモノテアツテ、私益ノ爲ニスルモノテナイ。假令ヒ事實ニ於テハ多額ノ收入ノ財源トナリ、利益ヲ得ル事柄テアツテモ、皆ナ是レ公共ノ營造物トシテ管理スルノテアル。即チ此等ノ事柄ヲ處理スル事務ハ、私法ノ規定ノ下ニ行フニアラスシテ、公法上ノ機能ニヨリテ行フノテアル。從テ英國トハ例ヲ異ニシテ、我國ニ於テハ、他ノ公法上ノ

諸般ノ事務ト等シク、市町村ニ損害賠償ノ責任カナイト云ハナケレハナラヌ。然ラハ何故ニ公法上ノ自治事務ニ付テハ、市町村ハ損害賠償ノ責任ヲ持タヌカト云フニ、國家公權ノ施行ヨリ生シタル損害ヲ賠償スルヤ否ヤト云フコトハ、公法ノ規定ニヨツテ定マルヘキモノテアツテ、私法ノ規定ヲ直チニ之ニ適用スヘキモノテナイカラテアル。市町村カ、市制町村制ニ基キテ住民ノ權利義務ニ關スル規定ヲ設クルカ如キハ、國家ヨリ公權ノ施行ヲ委託セラレタモノテアル。カカル場合ニ他人ニ損害ヲ生セシメタルトキハ、特別ナル明文アレハ固ヨリ其規定ニ從フ可キハ勿論ナレトモ、若シ何等ノ規定モナカツタトキニハ、適用スヘキ法規カナイカラシテ、國家ト同シク賠償ノ責任ヲシト云ハネハナラヌ。現今ニテハ、此ノ如キ規定ハ未タ設ケラレテ居ラヌカラ市町村ハ、公法上ノ自治事務ニ付テハ損害賠償ノ責任カナイトナル。有賀博士ノ著述ニ係ル國法學ノ中ニ、官吏ノ賠償責任ヲ論セラレタル章ノ註ニ於テ同博士カ市町村ノ吏員ノ行為ニ對スル市町村ノ賠償責任ヲ一寸叙ヘテ、民法第四十四條ノ「法人ハ理事其他ノ代理人カ、其義務ヲ行フニ付キ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スルノ責任ニ任ス」トアル規定ヲ適用スヘキモノテアルト説カレタルノハ、少シク蓋ササル所カアル。此民法ノ規定ハ、前ニモ述ヘタル如ク、自治ノ事務カ單ニ私法ノ範圍ニ屬スル場合ニ適用スルコトヲ得ルモノテアツテ、公法ノ範圍ニ屬スル事務ニ付テハ適用スヘキモノテナイ。公法上ノ事務ニ付テハ別ニ公法ノ規定ヲ必要トスルノテアル。況ヤ國ノ行政事務ニ付テハ、尙ホ更民法ノ適用ヲ受ク可キモノテナイ。故ニ有賀博士ノ説ハ、市町

村ノ一部ノ事務ニ付テハ誤レリト云フ可カラサルモ、全部ニ付テハ適用スヘキモノ
テナカラウト思ハレル
之ヲ要スルニ、市町村カ其吏員ノ職務施行ノ爲ニ他人ニ加ヘタル損害ニ付テ賠償ノ
責任ヲ負フ場合ハ、私法上ノ行爲ヲ爲サシメタル場合ニ限ルノテアツテ、公法上ノ行
爲ニ付テハ、全ク賠償ノ責任ハナイノテアル。但シ監督上ノ責任ハ別問題テアル

第五目 市町村吏員タルノ關係消滅

其關係消滅ノ場合ヲ列舉スルトキハ左ノ如シ

- 第一 死亡
- 第二 任期滿了(任期アルモ)
此場合ニ更ニ再選セラルルコトヲ妨ケサルナリ
- 第三 辭職
名譽職吏員ニシテ其辭職ノ理由正常ニ立タサルトキハ名譽職拒辭ノ制裁ヲ
受クルコト勿論ナリ、マタ市長、市助役、有給町村長、有給町村助役及市町村收入
役ハ其任期中ニ辭職セントスルトキハ三箇月前ニ申立ヲ爲ササルヘカラサ

辭職ノ制
限

停職

ルナリ併シ重病其他已ムヲ得サル事故ニヨリ職責ヲ全フスル能ハサルトキ
ハ絶對ニ三箇月以内ニ退職スルヲ得スト云フニアラサルナリ

第四 資格要件ノ消滅

名譽職吏員カ公民權ヲ喪失若クハ停止シマタハ陸海軍ノ現役ニ服シ若クハ
戰時事變ニ召集セラレタルトキハ自ラ解職スヘキノミナラス職務ニ就キタ
ルカ爲公民タルノ權ヲ得ヘキ職務ニアルモノモ之ト同様ノ場合ニハ自ラ解
職セラルルモノナリ

第五 懲戒的解職

懲戒的解職ハ懲戒裁判ニ依ルモノニシテ監督官廳ハ其懲戒裁判ノ裁決前吏
員ノ停職ヲ命シ並給料ヲ停止スルコトヲ得

又官吏ハ懲戒免官ヲ受クルトキハ二年間官職ニ就クコトヲ得ストノ制限ア
ルモ市町村吏員ニハ之ニ類似ノ制限存セサルナリ

第六 任意ノ解職

市町村吏員ニ對シテハ官吏ニ對スル如ク地位ノ保障ナキニヨリ別段ノ規定

又ハ規約アルモノヲ除ク外選任權ヲ有スルモノニ於テ何時ニテモ之ヲ解職スルコトヲ得ルナリ

第五款 市町村ノ事務

第一項 事務ノ區別

第一 固有事務及委任事務

市町村其他公共團體設立ノ目的ハ行政事務ノ一部ヲ委任シテ行ハシメントスルニアルニヨリ市町村ノ事務ハスヘテ國家ヨリ與ヘラレタルモノナリ此點ヨリ云ヘハ市町村ノ事務ハスヘテ委任事務ト云ハサルヘカラスマタ行政事務モ市町村ニ與ヘラレタル以上ハ一般ノ委任ニ依ルト特別ノ委任ニ依ルトヲ問ハススヘテ市町村ノ事務トシテ之ヲ行フモノナリ其點ヨリ云ヘハ市町村ノ事務ハスヘテ固有事務ト云ハサルヘカラス然ルトキハ委任事務固有事務ノ區別ハ無意義ニ歸スルト雖モ此兩者ノ區別ハ然ラスシテ委任ノ方法ニ基クモノナリ即市町村ノ存立目的トシテ委任セラレタル事務ハ市町村ノ

自治體ノ生存目的ヲ爲スモ事務ト委任云フ

固有事務ニシテ市町村制以外ノ法律ヲ以テ特別ニ市町村ニ委任セラレタル事務ヲ市町村ノ委任事務ト稱スルナリ尙ホ詳シク云ヘハ市制町村制第二條ニ明記セラルル市町村ノ公共事務ハ特別ノ委任ヲ待クスシテ市町村カ自己ノ事務トシテ行フモノナルニヨリ固有事務ニシテ國稅徵收法ニヨリテ市町村ニ委任セラレタル國稅徵收ノ事務ノ如キハ特別ノ委任ニカカルヲ以テ委任事務ノ適例タルナリ

若シ固有事務及委任事務ノ區別カ上述シタルモノナルトキハ寧ロ一般委任事務特別委任事務ト稱スヘキモノニシテ固有事務委任事務ノ名稱ハ適當ナルモノニアラス然ルニ一般ニ此區別ノ名稱ヲ用フルハ市町村ニ關スル觀念ノ沿革ニ基クモノニテ埃太利市町村制ニ於テ市町村ノ事務ヲ分テ獨立事務及委任事務ト爲シタルモ同一ノ思想ニ根據スルモノナリ

抑モ歐洲ノ都市ノ發達ヲ見ルニ國家ノ行爲ヲ待タスシテ成立シタル都市少ナカラス而シテ其中ニハ遂ニ獨立ノ國家ヲ爲シタルモノアルモ(三獨逸ハンザ市ノ如シ)マタ國家ヲシテ自己ノ從來有シタル權利ヲ其儘認メシメタルモノモアリ茲

ニ於テ市町村ハ家族ト同シク國家以前ヨリ成立ス國家ハ市町村ノ結合ナリ
 國家以前ヨリ成立シタル國家ハ固ヨリ自己固有ノ活動ノ範圍ヲ有ス其範圍
 ノ事務ハ市町村ノ固有ノ事務ナリトノ説ヲ生シタリ今日ニ於テモギルケ氏
 ノ如キ團體本位論者ハ尙此説ヲ抱持セルモノニテ其説ハ已ニ十八世紀ニ一
 ノ勢力ヲ爲シ佛國大革命ノトキニ立法司法行政三權ノ外ニ市町村權 (Pouvoir
 municipal)ヲ認メタルモ十九世紀ノ始メニスタイン氏カ市ノ自治制度ノ完美ヲ
 計リタルモ千八百三十一年ノ白耳義憲法カ市町村ノ權利ヲ保障シタルモ千
 八百四十九年ノ奧國市町村制カ市町村ノ獨立事務ヲ認メタルモ皆此説ノ影
 響ヲ受クルモノナリ併シ此説ハ一ノ誤解ニ陥リタルモノニテ市町村成立ノ
 歴史ト今日ノ市町村ノ性質トヲ混同スルモノナリ固ヨリ今日ノ市町村ニシ
 テ國家ノ成立以前ニ存在シタルモノアルヘシト雖モ其時ノ團體ハ今日ノ市
 町村ト同様ニ公共團體タルノ性質ヲ有スルモノニアラス現在ノ自治公共團
 體トシテノ市町村ハ國法ニヨリテ始メテ成立スルモノナルニヨリ只市町村
 ノ團體ノ起原カ國家成立以前ニアリタルノ故ヲ以テ自治公共團體タル市町

自治體其
 モノニ委
 任セラレ
 タル委任
 事務ト自
 治體ノ機

村カ國家ノ成立以前ニ成立シタルモノナリト云フヲ得サルナリ
 固有事務及委任事務ノ區別ハ右所述ノ如ク市町村ノ成立ニ關スル誤解ニ基
 クモノナルニヨリ適當ノ用語ニアラスト雖モ我制度上之ニ類スル例ハ尙他
 ニ存セサルニアラス例ヘハ地方官官制警視廳官制等ニ於テ職權又ハ委任ニ
 依リ命令ヲ發スルコトヲ得ト定メタルハ一般ニ委任シタル職權ニ基キ又ハ
 特別ノ委任ノ爲ニ命令ヲ發シ得ルノ意義ニシテ職權モ結局委任ニヨリ生ス
 ルコトナルニヨリ職權ト委任トノ區別ハ畢竟委任ノ方法(一般ノ委任ト特別ニ
 依レルニ異ナラサルナリ)
 國若クハ他ノ公共團體カ市町村ニ特ニ其事務ヲ委任スルトキハ法律ノ規定
 ニ依ラサルヘカラス蓋シ市町村制ノ規定ノ例外トシテ特ニ市町村ニ義務ヲ
 負擔セシムルモノナレハナリ(府縣稅徵收ノ委任ハ明治三十三年勅令八一號
 ニ依ルモ之ハ府縣制一四一條ニ基クモノナリ)
 法律命令カ市長町村長其他市町村ノ機關ニ特ニ國政事務若クハ府縣郡ノ行
 政事務ヲ委任シテ行ハシムルコトアリ(市制第七十四條町村制第六十九條小學
 校令徵發令徵兵事務條例戶籍法等參照)
 併シ之ハ市町村ナル團體ニ委任シタル事務ニアラサルニヨリ此事務ト前ノ

關ニ委任
セラレタ
ル事務ト
ハ之ヲ區
別スルヲ
要ス

必要事務
トハ自治
體カ法律
上ハ行ハ
サルヘカ
ラナルヲ
云フ

隨意事務
トハ之ヲ
行フト否
トカフト
體ノ自由
決定ニ由
ルヲ云フ

市町村ノ委任事務トハ混同スヘカラス市町村ノ委任事務ハ市町村カ自己ノ事務トシテ之ヲ行フヘキモノナルニヨリ反對ノ明文ナキ以上ハ其費用ハ當然市町村ニ於テ負擔スヘキモノナリト雖モ(市村法學士ハ委任事務ノ費用ヲ市町村其モノニ負擔セシメントスルトキハ法令ヲ以テ明)之ニ反シ市町村ノ機關ニ委任セラレタル事務ハ國政事務又ハ府縣郡ノ行政事務トシテ之ヲ行フモノナルニヨリ其費用ハ特ニ市町村ノ負擔トストノ明文ナキ以上ハ市町村ニ於テ負擔スヘキモノニアラスマタ市町村會ノ權限ノ上ヨリ云フモ市町村ノ委任事務ハ市町村會ノ議決權ノ範圍内ニアルモ市町村ノ機關ニ委任セラレタル事務ハ市町村會ノ議決ヲ經ルヲ要セサルナリ

第二 隨意事務及必要事務

市町村ハ其團體ノ費用ヲ以テ不必要ナル事務ヲ爲シ得ルモノニアラサルニヨリ其點ヨリ云ヘハスヘテ必要事務ナリ併シ茲ニ必要事務トハ市町村ニ於テ其事務ヲ行フ必要アルコトカ法規ニヨリテ已ニ定マリ市町村カ自ら行フノ必要アルヤ否ヤヲ決定スルノ餘地ナキ事務ヲ指スモノナリ例ヘハ市町村

カ小學校令ニヨリ小學校ノ設立維持ヲ爲スノ事務ヲ云フカ如シ之ニ反シ隨意事務トハ市町村カ自ら其事務ノ必要ナルヤ否ヤヲ考ヘ自ら必要ト認ムル場合ノミ之ヲ行フコトヲ得ル事務ヲ指スモノニテ市町村ノ固有事務タル公共事務ノ多クハ之ニ屬スルモノナリ
市町村ノ委任事務ハ特別ノ法令ニヨリ委任セラレタル事務ナルカ故ニ市町村ハ之ヲ行フノ要否ヲ判斷スルノ自由ナシ之ニ反シ固有事務ノ多クハ隨意事務ナルニヨリ委任事務ト固有事務トノ區別ハ必要事務ト隨意事務トノ區別ニ照應スルカ如シト雖モ固有事務中ニモ市町村ノ需要ニ缺クヘカラサル必要事務ナキニアラサルニヨリ全然相照應スルモノト考フヘカラサルナリ
必要事務ト隨意事務トノ區別ノ必要ハ強制豫算ノ執行ニ關係スルモノニテ監督官應ハ必要事務ノ費用ニ就テハ強制豫算ノ權利アルモ隨意事務ノ費用ニ關シテハ強制豫算ノ規定ヲ適用スルコトヲ得サルナリ(市制町村制第八十八條市制第一百八十二條參照)

第二項 公共事務ノ範圍

公共事務ノ固有事務

市町村ノ固有事務トハ前ニモ述ヘタル如ク市町村制ニヨリ市町村ニ與ヘラレタル事務ニシテ即市制町村制第二條ノ公共事務ナリ其公共事務トハ市町村ノ公共ノ利益ニ關スルモノニシテ市町村ノ區域限リ執行シ得ルモノヲ指スナリ例ヘハ衛生、道路、勸業、救貧ニ關スル行政事務ノ如シ埃太利及獨逸諸國(然ラズハ)ニ於テハ地方警察事務ヲ以テ市町村ノ事務ト爲セリト雖モ我國ニテハ市町村長ニ之ヲ委任シタルニ止リ(市制第七十四條、町村制第六十九條參照)市町村ノ事務ト爲ササルナリ市町村ハ市町村制外ノ特別ノ法令ヲ以テ委任セラレタル外ハ公共事務ノ範圍ニ屬スルモノニアラサレハ市町村ハ之ヲ爲スコトヲ得ス然ルニ左ニ列記スル事項ニ關シ市町村ノ權能ニ屬スルヤ否ヤニツキ疑義ナキニアラサルニヨリ之ニ關スル卑見ヲ各項ニツキ述ヘント欲ス

第一 寄附若クハ補助

現行ノ府縣制第一百一條及郡制第八十八條ニ於テハ府縣郡ハ其公益上必要ナ

市町村ハ寄附若クハ補助ヲ爲スコトヲ得ル

ルトキハ寄附若クハ補助ヲ爲スコトヲ得トノ明文アルモ市制町村制ニハ此ノ如キ明文ナシ茲ニ於テ市町村カ寄附若クハ補助ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤノ疑ヲ惹起シタルナリ之ニ關シ從來行政裁判所ハ極メテ狹キ見解ヲトリ市町村ハ絶對ニ國又ハ他ノ公共團體又ハ一人ノ事業ニ寄附又ハ補助ヲ爲スノ權能ナキモノト爲セリ其理由ハ市町村制第八十八條ニ依ルモノニアラサレハ市町村ハ支出ヲ爲スコトヲ得ス而シテ同條ニアル必要ナル支出トハ市町村第二條ノ事務ニ必要ナル支出ヲ云フモノニシテ補助寄附ノ如キハ市町村制第二條ノ市町村公共事務ニアラス從テ第八十八條ノ必要支出ニアラスト云フニアリ併シ此見解ハ市町村制第八十八條ヲ誤解シタルモノニアラサルヤヲ疑ハサルヲ得ス何トナレハ右第八十八條ハ市制第一百十八條町村制第一百二十二條ニ照應スルモノニテ唯市町村ノ義務的支出ヲ規定シタルニ止リ之ニ依リテ市町村ノ支出ノ範圍ヲ限定シタルモノニアラス即市町村ハ其以外ニ隨意事務ニ關スル支出ヲ爲スコトヲ得ルモノナレハナリ併シ市町村制第八十八條ノ解釋ヲ行政裁判所ノ見解ノ如クスルモ寄附若クハ補助ヲ爲ス

コトハ市町村制第二條ノ公共事務ニアラストノ行政裁判所ノ意見ニ就テハ疑ヲ容レサルヲ得ス行政裁判所ハ市町村ノ公共事務ヲ以テ市町村カ義務トシテ又ハ其公益上行ハサルヲ得サル事務即市町村自ラ當然處理スヘキ事務ナリト爲セトモ市町村制第二條ノ公共事務トハ此ノ如キ狹キ意義ノモノニアラス前ニモ述ヘタル如ク市町村ノ公共ノ利益ニ關スルモノニシテ市町村ノ區域内ニ於テ爲シ得ルモノヲ指スモノナルニヨリ若シ他ニ寄附若クハ補助ヲ爲スコトカ市町村住民公共ノ利益ヲ増スモノナルトキハ即其寄附補助ノ目的事業カ市町村住民ノ公益ヲ増進スル性質ノモノナルトキハ其事業カ國家ノ事業タルト他ノ公共團體ノ事業タルト將タ一私人ノ事業タルト問ハス市町村カ之ニ對シテ爲ス處ノ寄附若クハ補助ハ市町村公共事務ノ一部ナリト見ルヲ妨ケサルナリ已ニ寄附若クハ補助其コトヲ以テ公共事務ノ一部ナリトスレハ市町村カ之ヲ爲スモ毫モ其權限ヲ超ユルモノニアラサルナリ例ヘハ市町村カ府縣ノ教育事業若クハ土木事業ニ寄附ヲ爲スカ如シ織田法學博士ハ之ニ關シ理論上市町村カ無償行爲ノ能力ヲ有セザルノ理ナ

シト雖モ法律ハ一方ニ基本財産維持ノ義務ヲ命シ他ノ一方ニハ無制限ニ無償行爲ヲ爲スコトヲ許ストセハ矛盾ノ感ナキヲ得ス殊ニ府縣郡ニハ基本財産維持ノ義務ヲ命セサルモ法律ハ尙ホ其公益上必要アル場合ニ限り寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得トスルニ對照セハ解釋上市町村カ無制限ニ此能力ヲ有スルコトヲ肯定シ難シ故ニ若シ府縣制郡制ノ規定蛇足ナラスンハ市町村制ニモ亦相當ノ規定ナキ能ハス畢竟法律ハ此點ニ於テ未タ備悉セサルナリト論スト雖モ予輩等モ固ヨリ市町村カ無制限ニ無償行爲ヲ爲シ得ルコトヲ主張スルニアラス寄附若クハ補助カ市町村公共ノ利益ナルコト明ナルニ拘ハラス府縣制第百一條郡制第八十八條ノ如キ規定ナキコトヲ根據トシテ之ヲ爲シ得サルモノト解釋スルハ市町村ノ權能ヲ解スルコト餘リ狹キニ過キ市制町村制ノ精神ニ却テ反スルモノナリト考フルニ過キスマタ府縣制郡制ニ寄附補助ノ規定アリテ市制町村制ニ其規定ナキハ立法者カ反對ノ意思ヲ表示スルモノノ如シト雖モ府縣制郡制ト市制町村制トハ制定ノ年月ヲ異ニシ起案者モ異ニスルコトナレハ府縣制郡制ハ府縣郡ノ寄附補助ノ權能ヲ

明ニシタルニ止マルモノト見ルヘク市制町村制ハ寄附補助禁止ノ精神ヲ有スルモノト必シモ見ルヘキニアラサルナリ併シ此ノ如キ疑義ヲ生スルハ行政事務ノ進行ヲ妨クルニヨリ立法論トシテハ市制町村制ニモ府縣制第一百條郡制第八十八條ノ如キ規定ヲ設クルヲ必要ト信スルナリ

第二 營利事業 (Gewerbliche Unternehmungen)

市制町村制第二條ニ於テ市町村ハ法律上一個人ト均シク權利ヲ有シ義務ヲ負擔シ云々トアルモ之ハ只市町村ノ人格ヲ有スルコトヲ示シタルニ過キスシテ市町村ハ一個人ト均シク如何ナル行爲ヲモナシ如何ナル事業ヲモ營ミ得ルコトヲ認メタルモノニアラスマタ普國ニ於テハ市町村公課法第三條ニ於テ「少クトモ事業資本ノ利息償還元金其他該事業ノ爲ニ要スル諸費ヲ辨償シ得ル見込アルニ非レハ市町村ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス但シ公共ノ利益上必要已ムヲ得サル事業ハ此限ニアラス」ト規定セルモ我國ニテハ市町村業ヲ爲シ得ルコトヲ直接ニ認メタル規定全ク存在セス故ニ我國ニテハ市町村カ營利事業ヲ爲シ得ルヤ否ヤノ問題ニ對シ消極的ノ答ヲ爲スモノ少ナカ

市町村ハ
絕對ニ營
利事業ヲ
爲スコト
ヲ得サル
カ

ラス其根據ハ左ノ四點ニアリ

- 一、明文上此ノ如キ權能ヲ市町村ニ對シ認メタルモノナシ而シテ市町村ハ法ノ明示ノ目的以外ニ何等ノ事項モ行フコトヲ得ルモノニアラス
- 二、市町村制第八十八條ニヨリ市町村ノ支出ハ必要ナル支出ニ限ラルルモノトス而シテ營業資金ノ支出ハ市町村ノ必要支出ト云フヲ得ス
- 三、營造物ノ使用料ニ付テハ監督官廳ノ許可ヲ經ルヲ要スレトモ營利事業ノ收利ノ方法ニ就テ此ノ如キ規定ナシ若シ市町村カ營利事業ヲ爲シ得ルモノナルトキハ營造物ト比シテ其權衡ヲ失フモノト云ハサルヲ得ス
- 四、市制町村制理由書ニ市町村ニ於テ其費途ヲ支辨スルカ爲ニ左ノ歲入アリ一不動産資金營業(瓦斯局水道等)類ノ所得云々トアルモ瓦斯水道ノ如キハ營造物ト見ルヘキモノナルニヨリ市制町村制理由書ハ營利事業ト營造物トヲ混同スルモノトス

併シ此理由ヲ以テ市町村カ營利事業ヲ絕對ニ爲シ得スト主張スルハ當ヲ得タルモノニアラス予輩ハ營利事業ノ目的ニシテ市町村公共ノ利益ヲ進捗ス

ルニアルトキハ市町村ニ於テ之ヲ營ミ得ルモノト考フルナリ依テ先ツ右ノ
四點ヲ考フルニ

- 一、此點ハ論者ノ言ノ如シ要ハ營利事業ヲ爲スコトカ公共事務ト名ツケ得ルヤ否ニアリ而シテ公共事務トハ市町村公共ノ利益ヲ進ムル事務ヲ廣ク指スモノナルニヨリ所謂營利事業市町村ノ公共ノ利益ヲ目的トスルトキハ之ヲ公共事務ト見ルヲ妨ケサルナリ
- 二、此點ニ就テハ消極的論者ハ市町村制第八十八條ヲ誤解スルモノト考フ第八十八條ノ必要支出ニ就テハ強制豫算ノ制ヲ適用スルコトヲ得ルモ市町村ハ其必要支出以外ニ支出ヲ爲シ得サルノ意義ニアラサルナリ
- 三、此點ニ就テハ論者ノ言一應其理由ヲキニアラサルモ營造物ノ使用料ハ通常公法上ノモノニシテ且營造物ノ使用ヲ人民ニ強制スルコトアルニヨリ監督官廳ノ許可ヲ必要ト爲シタルモ營利事業ノ收得ハ私法上ノモノニシテ且其事業ノ利用ヲ人民ニ強制スルコトナキニヨリ監督官廳ノ許可ヲ必要トセサルモ營造物ニ比シテ不權衡ナリト云フヲ得ス

市町村ニ對シテハ
絕對ニ營利事業
ニシテ得ルヲ
爲スルニシテハ
營利事業ニシテハ
爲スルニシテハ

市町村ノ
營利事業
ヲ爲スル
ニシテハ
必要ノ

- 四、此點ハ積極的論者カ市制町村制理由書ヲ引用シタルニ對シ反駁ヲ爲シタルニ過キスシテ消極論ノ根據ニアラス
併シ市町村カ營利事業ヲ爲シ得ルハ市町村公共ノ利益ヲ目的トスル場合ニ限ラルルニヨリ左ノ要件ヲ具ヘサルヘカラサルナリ
 - 一、少數者ノ需要ニ止ルモノハ之ヲ營ムコトヲ得ス
 - 二、少數者ノ利益ノミヲ計ルモノハ之ヲ營ムコトヲ得ス
 - 三、人民ノ營業トノ競争ヲ爲スコトヲ得ス
 - 四、收利ノ見込全ク無キカ或ハ却テ損失ノ豫見セラルルモノハ之ヲ營ムコトヲ得ス(前掲普國市町村公課法第三條參照)
- 今參考ノ爲歐洲地方團體ニ於テ營利事業トシテ爲ス所ノモノヲ舉クレハ水道、瓦斯、電燈、市街鐵道、市場、屠獸場、港灣、運河、公共浴場、貯蓄銀行、公共質業、勞働保險、廉價飲食店、貧民貸長屋等ノ如シ
- 又本問ノ營利事業ハ商業タルト否トヲ問ハサルモノニシテ漁業、鑛業、開墾殖林ノ如キハ商業ニアラサルモ本問ノ中ニ包含サルモノトス而シテ商行爲

ニ就テハ商法ノ適用ヲ受クルモノナリ(商法第二條參照)又單ニ財產ノ管理行為ニ止ルモノハ本問ニ全ク關係ヲ有セサルナリ例ヘハ銀行ニ預金ヲナシ會社ノ株券ヲ買入レ若クハ不用家屋ヲ賃貸シテ收得ヲ爲シ或ハ所有土地ヲ開墾殖林スルカ如シ

次ニ營造物ト營利事業トノ區別ヲ述ヘンニ其異ル點ハ左ノ四項ニアリ

一、目的 營造物ハ福利行政ノ爲ニ設クルモノニシテ其目的ハ直接ニ人民ノ使用ニ供シ以テ其幸福ヲ増進スルニアルモ營利事業ノ目的ハ人民ノ公共ノ利益ヲ計ルト共ニ收益ヲモ計ルニアリ

二、使用ノ強制 營造物ニ於テハ其使用ヲ強制スルコトアルモ營利事業ニ於テハ人民ニ其利用ヲ強制スルコトナシ

三、使用料ノ強制徴收 市町村營造物ノ使用料ハ市町村税ト同ク之ヲ強制的ニ徴收シ得ルモ營利事業ノ收益ハ之ヲ拂ハサルモノニ對シテハ司法上ノ手段ニ依ルノ外ナキナリ

四、監督 營造物ノ使用料徴收及營造物ノ規則ニ就テハ監督廳ノ許可ヲ要スルモ營利事業ニ就テハ監督廳ノ許可ヲ要スルコトナシ

營造物ト營利事業トノ區別

市町村ハ土木工事ノ受負トシテ得

スルモ營利事業ニ就テハ監督廳ノ許可ヲ要スルコトナシ
此ノ如ク營造物ト營利事業トノ間ニハ區別存スルカ如キモ營利事業ニシテ人民ノ利用ニ供セラルルモノハ營造物ト區別スルコト極メテ困難ナリ故ニ水道電燈瓦斯電車事業ノ如キハ一方ヨリ見レハ營造物ニシテ他ノ一方ヨリ見レハ營利事業ノ如キ觀アリ之ヲ強テ區別スレハ收支相同キカ若クハ收支相償ハサル場合ニハ營造物ニシテ收益カ支出ニ大ニ超過スル場合ニハ營利事業ナリト云フノ外ナキナリ

第三 土木請負事業

今日ニ至ルマテ府縣土木工事ヲ地元市町村ニ於テ受負ヒタルノ例少ナカラサルノミナラス地元以外ノ市町村ニ於テモ直接利害ノ關係アル府縣ノ土木工事ヲ受負ヒタルノ例モナキニアラスト雖モ之ハ市町村ニ於テ直接利害關係アルカ爲ニ府縣ノ委任ニ依リ其土木事業ヲ自己ノ行政事務ノ一部トシテ行フモノト解スヘキナリ

市町村ノ權能ニ就テ

市町村ニ關シテハ左ノ疑問アリ

第一市町村ハ營利事業ヲ爲シ得ルヤ否

第二市町村ハ選舉權ヲ行フヲ得ルヤ否

第三市町村ニ對シ榮典ヲ授與シ得ルヤ否

第四市町村ハ寄附補助ヲ爲シ得ルヤ否

第五市町村ニ對シ當然警察上ノ規則ハ適用セラルルヤ否

第六市町村ニ對シ刑事上ノ制裁ヲ科シ得ルヤ否

第七租稅未納ノ市町村ニ對シ滯納處分ヲ施行シ得ルヤ否

此等ノ疑問ニ關シ卑見ノアル處チ一言セントスルニ就テハ先ツ市町村ノ法律上ノ性質ヲ略述シ然ル後其性質ヨリ推シテ以テ此疑問ニ對スル解答ヲ試ミント欲スルナリ

市町村ハ自治公共團體ノ一種ニシテ其公共團體ノ定義及公共團體ト私法團體トチ區別スル標準ニ就テハ種々ノ說アリト雖モ現今ノ定説ニ依レハ公共團體トハ國家ノ委任ヲ受ケテ國ノ行政事務中團體ニ直接利害關係アル公共事務ヲ行フコトヲ存立ノ目的ト爲スモノヲ指スモノニシテ公共團體ト私法團體トチ區別スル標準ハ團

體員ニ對シ命令權ヲ行フコトヲ得ルヤ否ニアルモノナリ併シ私法團體即私法人ハ私法上ノ行爲ヲ爲シ得ルノミニテ公法上ノ行爲ヲ全ク爲スコトヲ得スマタ公共團體即公法人モ公法上ノ行爲ヲ爲シ得ルノミニテ私法上ノ行爲ヲ全ク爲スコトヲ得ストノ誤見ニ陷ラザランコトヲ注意スヘキナリ故ニ公共團體即公法人モ私法人ト等ク財產上ノ權利義務ヲ有シ得ルヤ勿論ニテ之レ我市制町村制ニ於テモ市町村ハ法律上一箇人ト均シク權利ヲ有シ義務ヲ負擔シ云々トアル所以ナリト雖モ市町村ハ個人ト等シク如何ナル事業ヲモ爲シ得ルヤ否ニ就テハ大ニ疑アリ之レ次ノ(第一)ニ述フルノ點ナリ

第一市町村ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ルヤ

市町村ハ其公共事務ヲ行フヲ以テ其存立ノ目的ト爲スニヨリ明文ヲ以テ特別ニ許サレサル以上ハ公共事務以外ノモノヲ行フヲ得ス從テ單ニ營利ノミチ目的トスル事業ノ如キハ之ヲ爲スコトヲ得スト云ハサルヲ得サルナリ或ハ「歐洲ニ於テハ市町村ニ於テ水道事業、瓦斯事業、電氣事業、交通事業、市場事業、屠獸事業、浴場事業、保險事業、銀行事業等ヲ爲スノ例少カラサルヲ以テ之ヲ根據トシテ市町村ハ制限セラレサル以上ハ少クトモ此等營利事業ヲ爲シ得ルモノナリ」ト主張スルモノナキニアラスト雖モ此問題ニ關シテハ事業ノ種類ニ依リテ其能否ヲ決スヘキモノニアラスシテ其目的ノ公共的ナルト營利的ナルトニヨリテ其能否ヲ決スヘキモノナリ即其目的ニシテ市町村公共ノ利益ヲ目的トナスキトハ公共事業ノ範圍内

ノモノトシテ右ニ列舉シタル以外ノ事業モ之ヲ爲スヲ妨ケサルモ其目的ニシテ
 單ニ營利ニ止ルトキハ右ニ例示シタル事業モ之ヲ爲スコトヲ得サルナリ
 或ハ「單純ニ市町村ハ營造物ヲ設置シ得ルモ收益事業ハ之ヲ爲スコトヲ得ス」ト論
 スルモノアリ併シ營造物ト收益事業トハ明確ニ之ヲ區別シ得ルモノニアラスシ
 テ其目的ノ公益ノ爲ナルト收益ノ爲ナルトニヨリテ分タル場合少カラサルナ
 リ例ヘハ市町村カ水道事業ヲ營ムニ就テモ無料若クハ報償的ノ僅少ノ使用料ヲ
 以テ其住民ニ水ヲ使用セシムルトキハ其水道ノ事業ハ營造物タルコトヲ得ト雖
 モ之ニ反シ營利的ニ多額ノ給水費ヲ徴シテ人民ニ水ヲ使用セシムルトキハ收益
 事業ニシテ營造物ト目スヘカラサルカ如シ
 要スルニ市町村ハ營造物タルト否トハ間ハス公共ノ利益ヲ目的トスル事業ニ限
 リ之ヲ爲シ得ルモノト論定スヘキナリ

第二市町村ハ選舉權ヲ行フヲ得ルヤ否

或ハ選舉權ハ其沿革上個人ニ認メタル權利ニシテ市町村ノ如キ團體ヲシテ之ヲ
 行ハシムヘキモノニアラスト考フルモノアリト雖モ選舉權ヲ行フハ公務ノ一種
 ナルニヨリ市町村ヲシテ之ヲ行ハシムルモ毫モ妨ガシ只明文アルニ非レハ之ヲ
 行フヲ得サルニ過キサルナリ而シテ我制度上市町村ニ選舉權ヲ與ヘタルノ例ア
 リト否ト云フニ國會、府縣會、郡會ノ選舉ニハ市町村ヲシテ直接干與セシメスト雖
 モ(前府縣制、郡制ニテハ市町村會ヲシテ府縣會議員、郡會議員ヲ選舉セシメタルモ

之ハ單ニ其市町村會ヲシテ選舉ヲ爲サシメタルニ止リ市町村ニ選舉權ヲ與ヘタ
 ルモノニアラス)市制町村制第十二條末項ニ於テハ「法律ニ於テ設立シタル會社其
 他法人ニシテ前項ノ場合ニ當ルトキ亦同シ」ト規定シ以テ市町村ニモ市町村會議
 員ノ選舉權ヲ與フルコトトナセリ

第三市町村ニ對シ榮典ヲ授與シ得ルヤ否

或ハ「榮典ハ人民ノ名譽心ヲ誘導シ以テ國家ニ勳功ヲ立テ或ハ社會ニ善行ヲ爲サ
 シメントスルニアルニヨリ市町村ノ如キ團體ニ榮典ヲ授與スヘキモノニアラス」
 ト考フル人ナキニアラスト雖モ團體モ有形上無形上榮典ノ授與ニ値スルノ行爲
 ヲ爲スコトナキニアラスト雖モ團體ニ對シ榮典ヲ授與スルコト能ハサルニア
 ラスト信スルナリ或ハ團體ニ榮典ヲ授與スルトキハ其團體ノ代表者ノ虛榮心ノ
 ミチ満足セシムルニ止リ團體其者ノ効績ヲ表彰スルコトヲ得ルモノニアラスト
 唱フル人アリト雖モ之ハ表彰ノ方法ニ依ルコトニテ單ニ此論録ヲ以テ否認スヘ
 キモノニアラスナリ固ヨリ榮典授與ノ方法トシテ單ニ勳章褒章記ノ如キモノ
 ナ其市町村ノ代表者ニ與フルニ止ルトキハ此說ハ當テ得タリト雖モ其團體ノ功
 績ヲ表スルカ爲ニ永久保存シ得ヘキ物品ヲ授與シ又ハ其功績ヲ種々ノ方法ヲ以
 テ世ニ公示スルトキハ其目的ヲ達シ得ラレサルニアラスナリ故ニ今日ニ於テモ金銀盃若
 クハ木盃ヲ明治十六年第一號布告及明治十六年第十七號達ニヨリ市町村ニ與フ

ルコトナキニアラサルモ市町村ノ如キ公共團體ニ對シ榮典ヲ授與スルコトノ明ナル規定ヲ缺クハ制度ノ不備ト云フヘキナリ

第四 市町村ハ寄附補助ヲ爲シ得ルヤ否

或ハ我國ニテハ郡制府縣制北海道區制等ニ於テ府縣郡區等カ寄附又ハ補助ヲナシ得ヘキコトヲ明定セルニ拘ハラズ獨リ市制町村制ニ於テ何等ノ規定ヲ設ケサルニヨリ市町村ニ於テハ寄附又ハ補助ヲ爲スヲ得サルモノナリト論スルモノアリ又我行政裁判所ノ判決ニ於テモ「町村制第二條ノ町村公共ノ事務トハ町村カ義務トシテ若クハ其公益上行ハサルヲ得サルノ事務ヲ謂フモノニシテ寄附金ノ如キハ之ニ屬スルモノニアラス何トナレハ此事タル法律ノ命スルモノニアラス又公益上止ムコトヲ得サルモノニアラサレハナリ」明治三十七年九月三十日宣告宗教院改築ニ付町村ノ決議ヲ以テ寄附金ヲ爲シタル件參照ト言明シタリト雖モ市町村ノ公共事務トハ廣ク市町村住民ノ公益ニ關スル事務ヲ指スモノナルニヨリ市町村ノ或事業ニ對シ寄附又ハ補助ヲ爲スコトカ市町村住民ノ公益ヲ進ムル場合ニ於テハ市町村ハ當然公共事務ノ範圍トシテ之ヲ爲シ得ベキナリ故ニ明文ナキカ爲ニ市町村ハ寄附又ハ補助ヲ爲シ得スト云フカ如キハ公共事務ノ範圍ヲ誤解シタルモノト云フヘキナリ

第五 市町村ニ對シ當然警察上ノ規則ハ適用セラルルヤ否

之ヲ例示スレハ市町村カ河川ノ公共工事ヲ施行スルニハ當然之ニ關スル警察上

ノ命令ヲ一々遵守スヘク又市町村カ家屋ヲ有スルトキハ當然衛生上ノ規則ノ拘束ヲ受クヘキモノナルヲ否ヤト云フニ市町村存立ノ目的ハ國ノ機關トシテ公共事務ヲ行フニアルモ其財産ヲ有スル點ニ於テハ個人ト異ラサルニヨリ特別ノ例外ナキ以上ハ其所有ノ財産ニ關スル警察上ノ制限ハ個人ト同様ニ受クヘキモノナルコト多言ヲ俟タス併シ其公共的ノ事務ヲ行フニ當リテハ之ヲ區別シテ考ヘサルヲ得サルナリ或ハ市制町村制ノ規定ハ特ニ國家ノ機關タル市町村ニ對スル國家ノ監督權ノ範圍ヲ明ニシタルニ止リ決シテ之外ニシテハ市町村ハ各方面ニ於ケル法規ヲ無視シテ自由ノ行動ヲ爲シ得ヘシトノ趣旨ヲ有スルニアラス畢竟市制町村制ニ於テ市町村ニ人格ヲ與ヘ之ヲシテ地方公共事務ニ屬スル種々ノ事業ヲ施行スルコトヲ得セシムルハ市町村ヲシテ法令ノ範圍内ニ於テ其事業ヲ爲スコトヲ得セシムルニ過キサルカ故ニ勅令以下ノ規定ヲ以テ其公共事務ニ屬スル事業ヲ全然市町村ニ禁シ又ハ之ヲ制限スル如キハ固ヨリ爲シ得ルコトナリト論スル人アリト雖モ市町村ノ行政事務ニ對スル監督權ノ作用ハ法律ノ定ムル處ナルニヨリ其規定若クハ特別法律ニヨルノ外ハ市町村ノ行動ヲ制限シ得ルモノニアラス故ニ市町村ノ行フ處ノ公共的の事業ト同一ノ事業ヲ個人カ爲ス場合ニ關シ特別ノ警察上ノ制限ヲ設ケルコトアルモ此制限ハ市町村ニ當然及フモノニアラス若シ其同一ノ制限ヲ市町村ニ及ボサントスルトキハ法律ヲ以テ特ニ市町村ニ對スル適用ノ規定ヲ定ムル外ナキナリ

第六市町村ニ對シ制裁ヲ科シ得ルヤ否

總テ法人ニハ不法ノ行爲ナシ不法ノ行爲ハ其法人ノ機關ノ行爲ニ過キサレハ法人ニ對シ制裁ヲ加フヘキ者ニアラストノ一派ノ議論ナキニアラサルモマタ法人ノ意思行爲ハ其機關ニヨリテ表示セララルルモノナレハ機關ノ權限内ニ於テノ不法行爲ハ法人ノ不法行爲ト認メサルヲ得ストノ學說ヲ唱フルモノモ少シトセス而カモ今日ニテハ其後說音ニ學說トシテ有力ナルノミナラス之ヲ認メタルノ立法例稀ナラサルナリ我民法第四十四條モ理事其他ノ代理人ノ總テノ行爲ニ對スル法人ノ責任ヲ定メ又明治三十三年法律第五十二號ニ於テハ

第一條 法人ノ代表者又ハ其雇人其他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ租稅及煙草專賣ニ關スル法規ヲ犯シタル場合ニ於テハ各法規ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス

第二條 法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トスト明ニ法人ノ制裁ヲ規定シタリ故ニスヘテ法人ハ不法行爲ヲ爲シ得ルヤ否ヤノ根本論ハ暫ク之ヲ措キ只市町村ノ如キ公共團體ニ關シテ制裁ヲ科シ得ルヤ否ヤノ點ノミヲ考フルニ市町村カ公共事務ヲ行フ場合ト然ラサル場合トヲ問ハス之ニ對シテハ監督ノ方法ヲ以テ法令違反ノコトヲ生セシラシムルヲ得ルニヨリ市町村ニ對シテ制裁ヲ設クルノ必要ナシト雖モ若シ法律カ普通ノ監督方法ヲ以テ尙不十分ナリトシテ之ニ對スル制裁ヲ定ムルハ致テ妨ナキコトト信スルナリ併

シ個人ニ對スル制裁ト異リ身體刑自由刑類似ノモノハ之ニ適用シ得サルハ勿論ニシテ單ニ財產刑ノ如キモノヲ科スルニ止マルヘキモノナリ

第七租稅未納ノ市町村ニ對シ滯納處分ヲ施行シ得ルヤ否

市町村カ租稅ヲ完納セス又ハ町村カ郡費ノ分賦金ヲ納メサル場合ニ於テ滯納處分法ヲ之ニ適用シ得ルヤ否ヤト云フニ立法論トシテ市町村ニ對シ滯納處分ヲ施行スルコトヲ妨ケスト雖モ我國ノ現行制度ニ於テハ之ヲ許ササルノ精神ナリト考フルナリ何トナレハ我市町村制ニ於テハ強制豫算強制支出ノ規定ヲ設ケ法令上支出スヘキモノヲ豫算ニ載セス又ハ支出セサル場合ニ於テ監督官廳ハ之ヲ豫算ニ記載シ又ハ支出セシメ得ルコトトナシタレハナリ

第三項 市町村ノ營造物

營造物トハ行政上ノ目的ノ爲ニ直接公衆ノ使用ニ供セラルル設備ヲ指スモノナルニヨリ國家若クハ公共團體ニアラサレハ之ヲ設置スルヲ得ス而シテ市町村ハ公共團體ナルニヨリ其公共事務ノ爲ニ營造物ヲ設置スルコトヲ得例ヘハ水道、病院、公園、道路、橋梁等ノ如シ(營造物ニ就テハ後ニ之ヲ詳述ス)併シ市町村ノ公共事務ノ爲ナルニヨリ其區域外ニ營造物ヲ設置スルコトヲ得サルナリ

市町村ノ
營造物ノ
使用料ハ
市町村ノ
收入ニ歸
ス

市町村ハ其營造物ノ使用ニ對シ使用料ヲ徵收シ以テ其收入ト爲スコトヲ得而シテ市町村ノ營造物ヲ組織スル物件ハ必シモ市町村ニ屬スルコトヲ要セサルニヨリ市町村ノ公園道路ノ地盤カ國有地ニ屬スルノ例少ナカラス併シ市町村ノ營造物ナル以上ハ之ヨリ生スル使用料ハ固ヨリ其收入ニ歸スルモノナリ明治二十四年訓令第四六二號ニ於テ前項(地盤官有ニ屬スル)堤塘道路道路並木敷使用料及堤塘道路用悪水路土居敷等ニ屬スル竹木其他ノ收益ハ其費用ヲ負擔スル府縣及市町村ノ收入ニ屬スヘシト明規シタルハ之カ爲ナリ若シ地盤官有ノ道路ノ使用料ハ當然國有ニ歸スヘキモノナルモ此訓令ヲ以テ特ニ道路管理者ニ付與シタルモノナリト解釋スルモノアラハ其解釋ハ明ニ誤見ナリ蓋シ訓令ヲ以テ國庫ノ收入ヲ公共團體ニ移スコトヲ得ルモノニアラサレハナリ

茲ニ一ノ疑問トナルハ市町村立小學校ハ市町村ノ營造物ナルヤ否ニアリ若シ教育事業ニシテ市町村ノ公共事務ニ屬スルモノナルトキハ市町村カ設立維持スル處ノ小學校ハ市町村ノ營造物ナルコト疑ナシト雖モ市制町村制理由書ヲ見ルトキハ教育事業ハ之ヲ地方公共事務ノ中ニ含マシメサル精神ナルカ如シ

即市制町村制理由書ニ於テハ市町村ハ其住民ヲシテ市町村ノ爲メニ義務ヲ盡サシムルノ權利ナカルヘカラスシテ此權利ナキトキハ共同ノ目的ヲ達スルコト能ハサルハ上已ニ之ヲ論述セリ其義務ノ廣狹ハ市町村事業ノ範圍ニ從ハサルヘカラス其事業ハ全國公益ノ爲メニスルモノアリ或ハ一市町村局部ノ公益ヨリ生スルモノアリ其全國ノ公益ニ出ツルモノハ軍事警察教育等ノ類ニシテ是皆別ニ規定ス可キモノトス其局部ノ公益ヨリ生スルモノ即共同事務ハ各地方ノ情況ニ從テ異同アレハ茲ニ枚舉スルニ暇アララスト雖モ農業經濟交通事務衛生事務等ノ如キハ其最重要ナルモノトス之ヲ要スルニ一市町村ノ公益上ニ於テ必要ナル事項ハ盡ク共同事務ニ屬スヘキナリト説明シ教育事務ハ市町村ノ共同事務即公共事務ニ屬セサルコトヲ明言セリ已ニ市制町村制立法者ノ精神此ノ如クナルニヨリ小學校ニ關スル法規ニ於テモ小學校ハ市町村ノ營造物ニアラサルコトヲ前提トシテ種々ノ規定ヲ爲セリ(市制町村制ハ法律ナリ故ニ小學校カ市町村ノ營造物ナルトキハ)命令ヲ以テ之ニ抵觸シタル例ヘハ小學校カ市町村ノ營造物ナレハ其授業料ハ市町村營造物ノ使用料ニシテ其新設増額變更ハ市制第二百二十二條町村制第二百

小學校ハ
市町村ハ
營造物ニ
アラヌ

十六條ニヨリ内務大臣ノ許可ヲ要スルニ拘ハラヌ小學校令施行規則第百七十四條乃至第百七十六條ニヨリ授業料ニ關シテハ文部大臣若クハ府縣知事ノ認可ヲ受クヘキモノト定メラレマタ小學校カ市町村ノ營造物ナレハ小學校長及教員ハ市町村ノ附屬員ナルニヨリ市制第五十九條町村制第六十三條ニヨリ市參事會若クハ町村會ノ選任スヘキモノナルニ拘ハラヌ小學校令第四十四條ニ依レハ判任待遇ノ小學校長及教員ノ任免ハ府縣知事ニ於テ專行スヘキモノト定メラレタルカ如シ故ニ我制度上小學校ハ市町村ノ營造物ニアラスト考フヘク又之ト同様ニ市町村立中學校高等女學校實業學校等モスヘテ市町村ノ營造物ニアラスト見ルヘキモノナリ

次ニ營造物ト市制町村制第八十九條ノ市町村所有物トノ區別ニツキ一言センニ市町村制第九十七條ニ土地營造物及家屋ト列記セルニ依リ市町村制ノ營造物トハ人ト物トヨリ成立スル處ノ營造物ヲ指スモノニテ市町村制第八十九條ノ所有物トハ公共ノ使用ヲ許ス處ノ公共若クハ公用財產即物的營造物ヲ指スモノナリ故ニ營造物ノ文字中ニ廣ク物ノミヨリ成立スル營造物ヲ包含セシム

ルトキハ特ニ市町村制第八十九條ニ其所有物及營造物ト並記スル必要ナキコト勿論ナリ

第四項 市町村ノ請願權

市制第三十三條町村制第三十五條ニ市會町村會ハ市町村ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ監督官廳ニ差出スコトヲ得ト規定セルモ之ハ直接市町村會ト監督官廳トノ關係ヲ定メタルニ過キササルニ依リ茲ニ一ノ問題ヲ呈出セント欲ス即チ市町村ハ君主議會及官廳ニ對シ請願ヲ爲シ得ルヤ否ヤノ點ナリ憲法第三十條ニハ日本臣民ハ請願ヲ爲スコトヲ得ト規定シ而シテ日本臣民ナル文字ハ通常自然人ヲ指ス如ク考ヘラルルニ依リ法人ノ請願權ハ憲法ニ保障セラレサルモノノ如シト雖モ憲法第二章中ノ臣民ノ文字ハ法人ヲ包含スルコトアルハ他ノ條文ニ依リ明ナルヲ以テ(第一日本臣民中ニ法人ヲ包含セサルトキハ法人ニ課税スルトキハ法律ノ規定ヲ要セサルノ結果ヲ生ス)憲法第三十條ノ日本臣民中ニモ法人ヲ包含スルコト疑ナシ之レ憲法第五十條ニ兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書云々トアルモ議院法第六十六條ニハ法人

憲法ノ日
本臣民中
ニハ法人
ヲ包含ス

市町村モ
請願スル
コトヲ得

ト認メラレタル者ヲ除外總代ノ名義ヲ以テスル請願ハ各議院云々ト規定シ
法人モ請願シ得ルコトヲ前提トシテ規定シタル所以ナリ
法人ニシテ請願シ得ルトキハ私法人ト公法人トヲ區別スルノ理由ナキニ依リ
市町村モ兩議院ニ對シテハ勿論請願規定ノ發布ニ伴ヒ君主及官廳ニ對シテモ
請願シ得ルモノト信ス併シ其請願ノ範圍ハ市町村ノ權能以外ニ出ツル能ハサ
ルコト勿論ナリ蓋シ法人ハ特別ノ明文ナキ以上ハ其目的以外ニ行動スル能ハ
サルモノナルヲ以テナリ

第六款 市町村ノ財

第一項 私法上ノ人格

市町村ハ公法人トシテ其事務ヲ行フ爲ニハ財産ヲ所有スルノ必要アリマタ私
法上ノ法律行爲ヲ爲スノ必要アリ故ニ市町村ハ一方ニ公法人タルト共ニ他ノ
一方ニハ私法上トシテノ人格ヲ有セサルヘカラス之レ市制町村制第二條ニ市
町村ハ法律上一個人ト均ク權利ヲ有シ義務ヲ負擔シトアル所以ナリ併シ市町

村ハ其處理スヘキ事務ノ範圍ニ於テハ私法上ノ人格ヲ有スルニ止ルモノニテ
一私人ト同様ニ廣ク私法上ノ權利義務ヲ有ストノ意義ニアラサルナリ

第二項 市町村ノ收入

第一目 市町村經濟ノ基礎

市制町村制第八十八條ハ市町村ハ其財産ヨリ生スル收入及使用料、手数料並科
料、過怠金其他法律勅令ニ依リ市町村ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ猶
不足アルトキハ市町村税及夫役現品ヲ賦課徴收スルコトヲ得ト規定シ市町村
ノ主タル財源ハ財産ノ收入タルコトヲ明ニシ尙市制町村制第八十一條ニハ市
町村ハ其不動産積立金穀等ヲ以テ基本財産ト爲シ之ヲ維持スルノ義務アリ臨
時ニ收入シタル金穀ハ基本財産ニ加入スヘシト規定シテ市町村ハ其費用支辨
ノ爲ニ基本財産ヲ造成スルコトヲ其義務ト爲セリ一私人カ其家ノ存立ヲ全フ
シ且其一家ノ幸福ヲ計ル爲ニ家産ヲ蓄積スルノ必要アル如ク市町村モ其自治
團體トシテノ存立ヲ全フシ且ツ其團體員ノ幸福ヲ計ル爲ニ基本財産ノ蓄積ヲ

亡國ノ主トシテハ政原
困ニシテハ政原
困ニシテハ政原

財源ト爲ルヘキ不
動産ハ基
本財産ニ
編入スル
ヲ要スル

必要トスルコト多言ヲ俟タス國家ノ滅亡ハ常ニ財政困難ニ原因スル如ク團體ノ衰滅モマタ財政紊亂ニ基クモノナリ故ニ自治制ノ完成ヲ期スルニハ市町村經濟ノ基礎ヲ鞏固ニスルノ必要アリ市町村經濟ノ基礎ヲ鞏固スルニハ基本財産ノ蓄積ヲ計ルノ必要アリ然ルニ今日迄ノ實際ニ依レハ全國一萬二千有餘ノ市町村ノ中基本財産蓄積條例ヲ設クルモノ二三千ニ過キス基本財産ノ收入ヲ以テ市町村費ヲ支辨シ得ルモノ數町村ニ過キサレナリ今ヤ時勢ノ進運ニ伴ヒ市町村ニ於テ經營スヘキ事業益々増加シ之カ經費ハ逐年膨脹シ從テ住民ノ課稅負擔益々重キヲ加フ若シ今日ニ於テ基本財産蓄積ノ方法ヲ講シ市町村經濟ノ基礎ヲ鞏固ニスルノ策ヲ立テサルトキハ自治行政ハ忽チ曠廢ニ歸スルノ恐ナキニアラサルナリ

臨時收入
ノ金穀モ
基本財産
ニ編入ス
ルヲ要ス

編入スヘキモノニアラス之ヲ編入スルモ直接違法ト云フヲ得ザルモ法意ニ適スルモノニアラサルナリ

臨時ニ收入シタル金穀ハ市制町村制第八十一條第二項ニヨリ必ス基本財産ニ編入スヘキモ使用目的ノ確定シ而カモ其目的カ基本財産ノ目的ニ適合セサル寄附金ハ基本財産ニ編入スヘキモノニアラサルナリ

次ニ税金ヲ以テ基本財産ヲ蓄積シ得ルヤ否ト云フニ或ハ課稅ノ方法ヲ以テ強制シ又ハ課稅ニ屬スル收入金ヲ以テ基本財産ヲ造成スルハ法ノ精神ニアラストノ說アリト雖モ之ハ誤レリ何トナレハ税金ヲ以テ基本財産ヲ蓄積スルノ義務ナキモマタ別ニ税金ヲ基本財産ニ編入スルヲ得ストノ制限ナキヲ以テナリ

第二目 使用料、手数料、加入金、科料及

過怠金

第一 使用料(市町村内ニ於テ維持保存スル公園地内使用料ニ就テハ)

使用料トハ市町村有物件營造物等ノ使用ノ報償トシテ使用者ヨリ徴收スル

別用二種ノ使
料ノ區

モノニシテ其使用料ニ二種アリ即市制町村制第八十四條ノ使用料 (Jährliche Abgabe)ト市制町村制第八十九條ノ使用料之ナリ此二種ノ使用料 (Benutzungsgeld)ノ間ニ左ノ區別存セリ

一、第八十四條ノ使用料ハ市町村ノ土地物件ノ使用ニ對シテ徵收スルモノナルモ第八十九條ノ使用料ハ市町村ノ所有物及營造物ノ使用ニ對シテ徵收スルモノナリ然ラハ其前ノ土地物件ト後ノ所有物トハ如何ナル差異アリヤト云フニ前ノ土地物件トハ市町村ノ收益財産例ヘハ入會山林入會秣場入會原野等ノ如シヲ指スモノニシテ後ノ所有物トハ市町村ノ公用財産(例ヘハ道路公園堤塘ノ敷地地盤等ノ如シ)ヲ指スモノナリ

二、第八十四條ノ使用料ハ市町村條例ノ規定ニ依リ徵收スヘキモノナルモ第八十九條ノ使用料ハ市會町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ徵收シ得

三、第八十四條ノ使用料條例ニハ罰則ヲ定メ得サルモ第八十九條ノ使用料細則ヲ定メタル條例ニハ科料一圓九十五錢以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得此中營造物ノ使用料ト稱スルハ固ヨリ市町村ノ營造物ノ使用料ヲ指スモノ

公法上ノ
使用料
私法上ノ
使用料

ニシテ水道ノ使用料市町村營瓦斯ノ點燈料市町村立病院ノ入院料市町村立博物館ノ入場料市町村道路橋梁ノ道錢橋錢ノ如キモノヲ云フナリ縦トヒ市町村ニ於テ設立維持スルモノ市町村ノ營造物ニアラサルモノノ收入ハ特別ノ明文アル場合ノ外市町村ノ收入ト爲ルヘキモノニアラスマタ特別ノ明文ノ爲市町村ノ收入ニ屬スルモノ市制町村制第八十九條ノ營造物ノ使用料ニアラサルナリ例ヘハ小學校ノ授業料ノ如シ

又營造物ノ使用料ニハ公法上ノモノト私法上ノモノトアリ(其區別ハ後ニ營造物ノ處ニ於テ之ヲ説クヘシ)而シテ公法上ノ使用料ハ行政權ヲ以テ之ヲ徵收シ得ルモ私法上ノ使用料ハ司法權ニ依ラサルヘカラス然ルニ市制町村制ハ公法上ノ使用料タルト私法上ノ使用料タルトヲ問ハススヘテ國稅滯納處分ノ方法ニヨリ之ヲ強制的ニ徵收スルコトト爲セリ

尙使用料ト次ノ市町村稅ト異ル點ヲ一言センニ使用料ハ使用ノ報償トシテ徵收スルモノニテ有償的ナルモ市町村稅ハ無償的ニ徵收スルモノナリ從テ使用料ハ使用者ノ受クル利益ヲ標準トシテ定メラルルモ市町村稅ハ負擔力

ヲ標準トシテ徵收セラルルモノナリ

第二 手数料

手数料トハ市町村カ特ニ一個人ノ求ニ應シテ爲シタル行爲ニ對シ徵收スル金額ヲ云フ例ヘハ身分證明、戶籍謄本下付ニ對シ徵收スル料金ノ如シ

市町村稅、使用料其他市町村收入ノ督促ニ對シ市町村條例ニヨリ督促手数料ヲ徵收スルコトアリ併シ之ハ茲ニ所謂手数料ノ中ニ包含サルヘキモノニアラス何トナレハ督促ハ一個人ノ求メニ應シ一個人ノ利益ノ爲ニ爲ス行爲ニアラス從テ督促手数料ハ報償ノ爲ニ徵收スルモノト見ルヘキモノニアラスシテ寧ロ收入ノ目的ヲ達スル爲ニ課スル所ノ行政執行罰ト見ルヘキモノナレハナリ故ニ同一ノ手数料ヲ爲スモ督促手数料ハ第二回ハ第一回ヨリ多ク第三回ハ第二回ヨリ多ク徵收スルヲ妨ケサルナリ

第三 加入金

市制町村制第八十四條ニヨリ市町村住民中特ニ市町村有ノ土地、物件ヲ使用スルノ權ヲ得ントスルモノアルトキハ市町村條例ノ規定ニヨリ使用料ノミ

督促手数料ハ行政執行罰ナリ

使用料、手数料、加入金、徵收ノ手續

ナラス一時ノ加入金ヲモ徵收スルヲ得マタ使用料、一時加入金ノ兩者ノ一ノミヲ徵收スルモ固ヨリ自由ナリ併シ特ニ民法上ノ使用權ヲ有スルモノニ對シテハ此使用料加入金ヲ徵收スルコトヲ得サルナリ

右ノ使用料、手数料、加入金ヲ賦課徵收スルハ固ヨリ市參事會、町村長ノ職權ナルモ之ヲ爲スニハ左ノ手續ニ依ラサルヘカラス

一、市制町村制第八十四條ノ使用料及加入金ノ徵收ハ市町村條例ヲ以テ定メサルヘカラス

二、手数料及市制町村制第八十九條ノ使用料ノ賦課徵收ノ法ハ法律勅令ニ定ムルモノヲ除ク外市町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定メ且其使用料、手数料ノ新設、増額、變更ハ必ラス内務、大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

三、市制町村制第八十四條ノ使用料(之ヲ市制町村制第一百二條ニ於テハ共有物使用料ト云フ)、加入金、市制町村制第八十九條ノ使用料及手数料ヲ納メサルモノアルトキハ市參事會、町村長ハ之ヲ督促シ猶之ヲ完納セサレハ國稅滯納處分ノ方法ニヨリ之ヲ徵收シ得ルモノトス

第四 科料

市制市町村制ニ於テ規定セル條項ヲ除ク外使用料、手数料、特別税及従前ヨリ存在セル區町村費ノ細則ハ市町村條例ヲ以テ之ヲ規定スルヲ要シ其條例ニハ科料一圓九十五錢以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得(刑法改正ニ準シ此金額ヲ高クスルノ必要アリト考フ)而シテ科料ニ處シ及之ヲ徵收スルハ市參事會、町村長之ヲ掌リ其處分ニ不服アルモノハ令狀交付後十四日以内ニ司法裁判所ニ出訴スルコトヲ得ルナリ

第五 過怠金

市町村吏員及使丁ニ對スル懲戒處分トシテ過怠金ヲ科シ得ルノミナラス市町村會ハ其會議細則ニ於テ之ニ違背シタル議員ニ對シ過怠金二圓以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第三目 法律勅令ニヨリ市町村ニ

屬スル收入

之ニ屬スルモノヲ一々列舉スルハ至難ノコトナルニヨリ其二三ヲ左ニ例示ス

科料ニ關スルハ訴訟ニ關スルハ司法裁判所ニ屬ス

ルニ止メント欲ス

第一 徵稅費

市町村カ法令ニ基キ國稅、府縣稅ヲ徵收スルトキハ其徵收費ヲ受ク

第二 道路堤塘ノ使用料

市町村カ官有地ノ道路堤塘ノ維持修繕ヲ爲ス場合ニ於テ之ヨリ生スル使用料ヲ自己ノ收入ト爲シ得ルコトヲ明治二十一年內務省訓令第十七號及明治二十四年內務省訓令第四六二號ヲ以テ定メタリ此ノ如キ事項ハ訓令ヲ以テ定メ得ルコトニアラスト雖モ營造物ノ使用料ハ其費用ノ負擔者ニ屬スルコトハ當然ノコトニシテ只訓令ヲ以テ之ヲ明ニスルニ過キスト爲シタルニ依ルモノト考フルナリ

第三 市町村立小學校授業料

市町村立小學校ハ市町村ノ營造物ナルヤ否ヤニツキ疑アリ現行制度ニ依レハ授業料徵收ノ手續ハ市町村ノ使用料徵收ノ手續ト之ヲ異ニス蓋シ市町村立小學校モ國ノ營造物ト之ヲ認メタルニ依ルモノナリ若シ國ノ營造物ナリ

トスレハ其授業料ハ特別ノ法令(地方學事通則第十條及小學校令第五十八條參照)ニ依リテ始メテ市町村ノ收入ニ屬スルコト勿論ナリ其市町村立小學校ノ國ノ營造物ナルヤ市町村ノ營造物ナルヤハ營造物ノ章ニ於テ之ヲ説クヘシ

第四目 市町村稅

市町村ハ其財産ヨリ生スル收入及使用料、手数料並科料過怠金其他法律勅令ニ依リ市町村ニ屬スル收入ヲ以テ市町村負擔ノ支出ニ充テ猶不足スルトキニ限リ市町村稅ヲ賦課徵收シ得ルモノニテ市町村稅トシテ賦課スルコトヲ得ヘキモノハ國稅、府縣稅ノ附加稅及直接又ハ間接ノ特別稅ナリ

第一 附加稅主義及特別稅主義

市制町村制第九十條ニハ特別稅ハ附加稅ノ外別ニ市町村限リ稅目ヲ起シテ課稅スルコトヲ要スルトキ賦課徵收スルモノトス下規定シ我市町村制ハ附加稅主義ヲ原則トシテ採用シ其不足スル場合ニ特別稅ヲ徵收スルコトヲ爲セリ元來附加稅ヲ先ニスヘキヤ或ハ特別稅ヲ主トスヘキヤハ議論ノアル處

我國ニテハ附加稅ヲ採スル主義ナリ

原則トシテ附加稅ハ本稅ノ對シテ一定ノ率ヲ乘シテ之ヲ徵收スルカ故ニ課稅上極メテ便利ナリト雖モ本稅ノ賦課ニシテ偏重偏輕ナルトキハ之ニ附加稅ヲ課スレハ負擔重キモノハ益々重クナルノ結果ヲ生ス之ニ反シ特別稅ハ課稅物件ニ就テ別ニ調査ヲ爲スノ煩勞アルモ本稅ノ偏重偏輕ヲ補ヒテ人民ノ負擔ヲ公平ト爲シ得ルノ便ヲ有ス故ニ市町村制起案ノトキ此點ニ關シ大ニ論究アリシモノ普國ニテモ(普國ニテハ後所得稅以外ノ直接國稅ニ移シ附加稅主義ニ幾分變シタリ)佛國ニテモ附加稅主義ヲ採用シタルニ依リ我國ニテモマタ之ヲ原則トシテ採用スルコトト爲セルナリ併シ本稅ニ對スル附加稅ノ率ヲ無制限ニ高メ得ルトキハ本稅ノ稅源ヲ枯渴セシムルノ虞アルニ依リ市町村制及其他ノ特別法(明治三十七年法律第三十七號)ニ於テ之ヲ制限セリマタ內務、大藏兩大臣ノ許可ヲ得ル以上ハ間接國稅ニ對シテモ附加稅ヲ課シ得ルモノナリト雖モ先ツ直接國稅ニ對シテ附加スルコトトナセリ故ニ一定ノ制限内ニ於テ直接國稅ニ附加スルトキハ別ニ監督官廳ノ許可ヲ要スルコトナシ而シテ我國ノ直接國稅ト稱スルハ現在地租、所得稅、營業稅及鑛業稅ノ四者ナリ普國ニ於テ

ニシテ何レモ一得一失アリ附加稅ハ本稅ニ對シ一定ノ率ヲ乘シテ之ヲ徵收スルカ故ニ課稅上極メテ便利ナリト雖モ本稅ノ賦課ニシテ偏重偏輕ナルトキハ之ニ附加稅ヲ課スレハ負擔重キモノハ益々重クナルノ結果ヲ生ス之ニ反シ特別稅ハ課稅物件ニ就テ別ニ調査ヲ爲スノ煩勞アルモ本稅ノ偏重偏輕ヲ補ヒテ人民ノ負擔ヲ公平ト爲シ得ルノ便ヲ有ス故ニ市町村制起案ノトキ此點ニ關シ大ニ論究アリシモノ普國ニテモ(普國ニテハ後所得稅以外ノ直接國稅ニ移シ附加稅主義ニ幾分變シタリ)佛國ニテモ附加稅主義ヲ採用シタルニ依リ我國ニテモマタ之ヲ原則トシテ採用スルコトト爲セルナリ併シ本稅ニ對スル附加稅ノ率ヲ無制限ニ高メ得ルトキハ本稅ノ稅源ヲ枯渴セシムルノ虞アルニ依リ市町村制及其他ノ特別法(明治三十七年法律第三十七號)ニ於テ之ヲ制限セリマタ內務、大藏兩大臣ノ許可ヲ得ル以上ハ間接國稅ニ對シテモ附加稅ヲ課シ得ルモノナリト雖モ先ツ直接國稅ニ對シテ附加スルコトトナセリ故ニ一定ノ制限内ニ於テ直接國稅ニ附加スルトキハ別ニ監督官廳ノ許可ヲ要スルコトナシ而シテ我國ノ直接國稅ト稱スルハ現在地租、所得稅、營業稅及鑛業稅ノ四者ナリ普國ニ於テ

ハ千八百九十三年迄ハ直接國稅トシテ所得稅、地租、家屋稅、營業稅及鑛業稅ヲ徵收セシモ同年所得稅ノ賦課ヲ改正シテ其收入ヲ計ルト共ニ地租、家屋稅、營業稅及鑛業稅ノ四者ハ之ヲ市町村稅ニ移シタリ其理由ハ所得稅ハ人民ノ負擔ニ最適應シ得ルニ依リ之ヲ國稅ト爲スコト至當ナルモ他ノ四者ハ國稅トシテ人民ノ負擔力ニ應シテ之ヲ徵收スルコト能ハサルノミナラス土地、家屋、營業、鑛業ハ市町村ノ經營ニ依リ其利益ヲ増進スルコト少ナカラサルニ依リ寧ロ之ニ對スル稅ノ收入ハ市町村ニ歸セシムルヲ至當ナリト云フニアリ故ニ普國ニ於テハ特別稅ノ財源大ニ増加シタリシモ我國ニテハ未タ此ノ如キ便益ヲ有セス(家屋稅及營業稅ノ一部ハ我國ニテハ府縣稅ナリ)マタ佛國ニテハ入市稅(Octroi)ヲ特別稅トシテ徵收スルモ之ハ極メテ人民ニ對シ不便ヲ與フルモノナルカ故ニ我國ニテハ之ヲ採用スルコト極メテ少シ今我國ニテ特別稅トシテ徵收スルモノヲ例示スレハ左ノ如シ

特別稅ノ例

不動產移轉稅

貸家稅

筆數割

歩一稅

間口稅

棧橋稅

分頭稅

土砂稅

炭竈稅

瓦斯管稅

電柱稅

木材輸出稅

牛馬稅

立木伐採稅

屠畜稅

種畜使用稅

漁獲物製造釜稅

狩獵稅

市場稅

店貸稅

輸入品稅

遊覽所稅

附加稅ハ本稅ニ一定ノ率ヲ以テ賦課スルモノナルニ依リ人民ノ負擔ニ應スルヤ否ヤ等モ十分ニ之ヲ知ルコトヲ得ト雖モ特別稅ニ就テハ課稅物件、課稅程度及徵收方法等ニツキ當ヲ得ルヤ否ヤヲ知ルノ必要アルニ依リ特別稅ノ新設、增加、變更ハスヘテ內務、大藏兩大臣ノ許可ヲ要スルコトト爲セリ終リニ附加稅ニ關シ一二注意スヘキ點ヲ擧クレハ附加稅ハ本稅アリテ始メテ賦課セラレヘキモノナレハ絕對的ニ本稅ヲ納付セサル者ニ對シ附加稅ヲ賦課スルヲ得ス併シ一旦本稅ニ對シ附加稅ヲ賦課スル以上ハ本稅ヲ特ニ免除スルモ附加稅モ當然免除セラレヘキモノニアラスマタ附加稅ハ直接ニ原

附加税ニ
附加税ヲ
附加税ス
附加税ル

税タル國稅、府縣稅ニ附加スヘキモノナルニ依リ附加税ニ對シ更ニ附加税ヲ附加シテ賦課スルコトヲ得サルナリ例ヘハ府縣稅タル地租割若クハ營業稅附加税若クハ所得稅附加税ニ附加税ヲ賦課スルヲ得サルカ如シ

第二 納稅義務者

一、住民

二、三箇月以上繼續シテ市町村内ニ滞在スル者

納稅ノ義務ハ滞在ノ初ニ遡リ生スルモノトス

三、市町村内ニ土地、家屋ヲ所有シ又ハ營業ヲ爲ス者

此中ニハ法人ヲ含ムモノニテ土地、家屋、營業(店舗ヲ定メサ)若クハ其所得ニ對シテ賦課スル市町村稅ヲ納ムヘキモノトス併シ土地、家屋ニ限定サルルニ依リ土地、家屋以外ノ物件ニツキテハ他市町村ノ者ニ對シ物件稅ヲ課スルヲ得サルナリ

第三 課稅物件

所得稅營業稅及地租ニ附加税ヲ賦課シ其他市町村ニ於テ所得、營業、土地、家屋

市町村ノハ
納稅者ノハ
市町村外
ニ於ケル
土地、家屋
又ハ營業
ヨリ生ス
ル所得ニ
對シテ課
稅スルヲ
得

ニ關シ特別ニ稅ヲ賦課セントスル場合ニハ納稅者ノ市町村外ノ所有土地、家屋又ハ營業ヨリ生スル所得ハ之ヲ控除スヘキノミナラス數市町村内ニ住居ヲ構ヘ又ハ滞在スル者ニ所得上ノ附加税若クハ特別稅ヲ賦課セントスル場合ニハ土地、家屋又ハ營業ヨリ收入スル所得ハ其土地、家屋又ハ營業所在ノ市町村ニ於テ之ヲ賦課スヘク其他ノ所得ハ各市町村、平分シ其一部分ノミニ課稅スヘキモノナリ故ニ一市内ニ本店ヲ設ケ市外ニ支店ヲ置キテ營業ヲ爲ス處ノ法人ニ對シテモ其市外支店ノ營業ニ付キテ課稅スルコトヲ得ス又鐵道會社ノ所得ニ對シ市町村カ所得稅附加税ヲ賦課スル場合ニ於テモ市町村外ノ停車場ノ收入ニ對シテ課稅スルコトヲ得サルナリ

第四 納稅免除

左ニ掲クル物件ニ就テハ市町村稅ヲ免除スルコトト爲セリ

一、國家及公共團體ニ屬シ直接公用ニ供スルカ又ハ官立公立ノ學校病院其他學藝、美術及慈善ノ用ニ供スル土地、家屋及其他ノ物件

二、神社、寺院ノ用ニ供シ及其他宗教直接ノ用ニ供スル土地、家屋及其他ノ物件

三、國有ノ山林又ハ荒蕪地

四、新開地(地租條)及開墾地(例參照)

之ニ就テハ市町村條例ニ依リ一定ノ期間ヲ限リ免除スルコトヲ得

五、所得税法ニ於テ課税セサル所得(例ハ從軍軍人ノ俸給、傷痍疾病者ノ恩給、營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得ノ如シ)

又皇族ニ係ル市町村税ノ賦課ハ法律勅令ヲ以テ別ニ定ムルマテ從來ノ例ニ依リ之ヲ爲ササルナリ

第五 一部ノ賦課

數個人ニ於テ專ラ使用スル營造物アルトキハ其修築及保存ノ費用ハ之ヲ其關係者ノミニ賦課スヘクマタ市町村内ノ一區ニ於テ使用スル營造物アルトキハ其區有財産ノ收入ヲ以テ之ニ充テ尙ホ不足スルトキハ區内ノ納稅義務者ニノミ之ヲ賦課スヘキモノトス而シテ此ノ如ク一部一區ニノミ賦課スルモ市町村税タルコトヲ妨ケサルナリ

營造物ノ爲ニ一部ノ賦課ハ極メテ必

人民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ種々ノ營造物ヲ設ケ或ハ營造物ノ改良ヲ計ル上ニ於テ一部ノ賦課ハ極メテ必要ナルコトナリ例ハ道路ノ改築、橋梁ノ架設

ノ爲ニ之ニ接近スル人民ハ大ニ利益ヲ受クルニ依リ之ニ關スル費用ヲ其關係人民ニ賦課シ以テ之ヲ遂行スルカ如キハ直接ニ市町村制第九十九條ノ適用ヲ以テ爲シ能ハサルカ如シト雖モ此ノ如キ事ハ米國ニ於テ大ニ利用スル處ニシテ又我市町村制ノ精神モ之ヲ拒絕スルモノニアラスト考フルナリ
茲ニ區別スヘキハ市町村税ノ一部ノ賦課ト市町村税ノ一部ノ免除ナリ市町村内ノ一部ニ對シ市町村税ヲ免除スルニハ法律勅令ノ特別ノ規定ニ依ラサルヘカラサルナリ(明治二十二年內務省訓令第八百四十六號參照)

第六 納稅延期及棄捐

納稅者中無資力者アルトキハ市參事會町村長ノ意見ヲ以テ會計年度内ニ限リ納稅延期ヲ許シ其年度ヲ超ユル場合ニ於テハ市町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ許スコトヲ得ルナリ
又到底納稅セシムルノ見込ナキモノニ對シテハ市町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ棄捐スルコトヲ得ルナリ

終リニ市町村税ニ就テ一言スヘキハ獨逸諸國ニ於テハ近時漸次市町村ノ改良

經營ノ爲土地ノ價格増加シタル場合ニ土地増價稅ヲ課スルノ傾向ヲ有ス其課稅ノ標準一ナラスト雖モ要スルニ土地ノ所有者カ自己ノ行爲ニ依ルコトナク市町村ノ改良事業經營ノ爲自然ニ地價昂進上ノ利益ヲ收ムルモノナルニ依リ之ニ對シ課稅スルモノニテ負擔ノ公平ヲ計ル爲ニ必要ナルコトナリ

第五目 夫役現品

市町村ノ費用ヲ他ノ收入ヲ以テ支辨スル能ハサル場合ニ市町村稅及夫役現品ヲ賦課シ得ルモノニテ其夫役現品ハ市町村公共事業ヲ起シ又ハ公共ノ安寧ヲ維持スルカ爲ニ之ヲ賦課シ得ルモノトス(但シ學藝美術及手工ニ關スル勞務ヲ除ク)而シテ夫役現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外直接市町村稅ヲ準率トシ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘキモノナレトモ一般市町村稅ト其性質ヲ異ニスルヲ以テ此夫役現品ノ賦課額ハ市町村會議員ノ選舉人ノ等級ヲ立ツルニ算入スヘキモノニアラサルナリ夫役ヲ課セラレタル者ハ其便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出シマタ急迫ノ場合ノ外ハ金圓代納ヲ爲シ得ルモ現品ヲ課セラレタルトキハ金

學藝美術
及手工
關及勞務
之夫役
課稅
トシテ
得ルモノ
スルヲ

圓代納ヲ絕對ニ許サレサルナリ

第六目 滯納處分

使用料、手数料、市町村稅、夫役ニ代フル金圓、共有物使用料、加入金、材料及過怠金其他市町村ノ公法上ノ收入ヲ(市町村制第百二條ニハ使用料ト明記セルニ依リ私法上テ得)定期内ニ納メサルトキハ市參事會、町村長之ヲ督促シ猶之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分ノ手續ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得而カシ其督促ニ對シ手数料ヲ徵收スルニハ市町村條例ノ規定ニ依ラサルヘカラサルナリ併シ此督促ノ手續ハ普通ノ手續ノ性質ヲ有スルモノニアラスシテ行政上ノ強制罰ノ一種ニ屬スルモノナレハ行政執行法ノ執行罰ト同一ノ性質ヲ有スルモノトス從テ普通ノ手数料ト異リ毎回其料金ヲ同クスルヲ必要ト爲スモノニアラスシテ督促ノ度毎ニ其料金ヲ増加スルモ其性質ニ反スルモノニアラサルナリ夫役ニ應セス又ハ現品ヲ不納シタルモノニ對シテハ金額ニ算出シテ滯納處分ヲ爲スコトヲ得ルナリマタ納稅義務ハ私法上ノ義務ニアラス從テ當然相續人ニ於テ

納稅義務
ハ相續人
ニ於テ繼
承スヘキ

モニア
ラス

其義務ヲ繼承スヘキモノニアラス故ニ特別ニ其繼承ノコトヲ定メタルトキノ外ハ被相續人カ納税ヲ怠リテ死亡シタル場合ニ於テ直ニ其相續人ニ對シ滯納處分ヲ爲スコトヲ得サルナリ

市町村税
ノ滞納處
分ニツキ
訴訟及行
政訴訟ヲ
提起シ得
ル

市町村税ノ滯納處分ニツキ訴訟及行政訴訟ヲ提起シ得ルヤ否ヤヲ考フルニ訴訟法及明治二十三年法律第六號ニハ單ニ租税滯納處分トアリテ國税ノ滯納處分ト明記セサルニ依リ市町村税ノ滯納處分ニ就テモ訴訟及行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ト考フ或ハ之ニツキ訴訟法及明治二十三年法律第六號ニハ法律勅令ニ別段ノ規程アル場合ハ其規程ニ依ルヘキコトヲ明定シ而カモ市制町村制ニ市町村會議員ノ選舉ニ關スルコト、市町村吏員ノ給料、給與及退隱料ニ關スルコト、市町村税ノ賦課ニ關スルコト、市町村營造物ノ使用權ニ關スルコト等ニ就テハ明ニ訴訟及行政訴訟ヲ許スコトヲ規定スルニ拘ハラズ市町村税ノ滯納處分ニ關シ何等ノ規定ヲ設ケサルニ依リ市制町村制ノ精神ハ市町村税ノ滯納處分ニ就テハ訴訟及行政訴訟ヲ許ササルニアルコト明ナリト論スル人アリト雖モ訴訟法及明治二十三年法律第六號ニハ法律勅令ニ別段ノ規程アル場合

ハ其規程ニ依ルヘキコトヲ規定シタルニ止ルニ依リ市町村税ノ滯納處分ノ如ク別段ノ規程ヲ少シモ有セサルモノニ就テハ此等ノ法律ニ依リ訴訟及行政訴訟ヲ爲シ得ルモノト解釋スルヲ寧ロ至當ト考フ殊ニ人民ノ權利保護ノ上ヨリ云ヘハ救済ノ途ヲ杜絶セサルコトハ却テ法ノ精神ニ適合スルモノト信スルナリ

第七目 市町村債

負債ハ將來ニ負擔ヲ殘スニ依リ市町村カ公債ヲ募集スルハ左ノ支出ヲ要スルニ當リ通常ノ歳入ヲ増加スルトキハ町村住民ノ負擔ニ堪ヘサル場合ニ限ルモノト爲セリ

起債ノ制
限

- 第一、 従前ノ公債元額ヲ償還スル爲ナルトキ
 - 第二、 天災事變等已ムヲ得サル支出ノ爲ナルトキ
 - 第三、 市町村ノ永久ノ利益トナルヘキ支出ノ爲ナルトキ
- 市町村債ヲ募集スルトキハ其募集ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ市町村會議ニ於テ定ムルヲ要ス而シテ市町村債償還ノ初期ハ三箇年以内ト爲シ年々償還

ノ歩合ヲ定メ募集ノ時ヨリ三十箇年以内ニ還了スヘキヲ常例ト爲シ若シ市町村債ヲ新ニ起シ又ハ其負債額ヲ増加スルニ當リ此常例ニ依ラサルトキハ固ヨリ内務大臣ノ許可ヲ受ケサルヘカラサルナリ併シ償還期限三年以内ノモノハ許可ヲ要セスト定メラレタルニ依リ現行制度ノ下ニ於テハ毎三年以内ニ借替ノ手續ヲ爲シ事實上監督ヲ免カルルノ弊ナキニアラサルナリ北海道區制ニ於テハ區ハ債券ヲ發行セサルヲ常例トシ且如何ナル場合ニ於テモ無記名債券ヲ發行スルヲ得サラシメ北海道一級町村制同二級町村制ニ於テモ無記名債券ヲ發行スルヲ得スト定メ沖繩縣區制ニ於テモ同様ノ條文アリシモ明治四十一年三月之ヲ改正スルニ當リ其條文ヲ削リタリ而シテ市制町村制ニハ最初ヨリ其條文ヲ有セサリシナリ併シ無記名債券ヲ發行シ得ルト否トハ市町村ノ信用ニ基クコトナルニ依リ強テ之ヲ制限スルノ必要ナシト考フルナリ

以上述ヘタル市町村債トハ將來ニ負擔ヲ殘スモノヲ指スモノニテ定額豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲メ年度内ノ收入ヲ以テ償還スル一時ノ借入金ノ如キハ此中ニ包含セム從テ市町村債ト同一ノ制限ヲ受クルモノニアラサルナリ

無記名債券ノ發行

一時ノ借入金

第三項 市町村ノ支出

市町村制第八十八條ニ依リ市町村ハ其事務ヲ行フニ必要ナル支出及從前法律命令ニ依テ賦課セラレ又ハ將來法律勅令ニ於テ賦課セラルル支出ヲ負擔スルノ義務ヲ有ス若シ市町村ニ於テ法律勅令ニ依テ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依テ命令スル處ノ支出ヲ定額豫算ニ載セス又ハ臨時之ヲ承認セス又ハ實行セサルトキハ府縣知事ハ理由ヲ示シテ其支出額ヲ定額豫算表ニ加ヘ又ハ臨時支出セシムルコトヲ得併シ市町村ニ於テ強制豫算ノ處分ニ不服アルトキハ行政裁判所ニテ爭フコトヲ得ルナリ

強制豫算

第四項 市町村ノ豫算

第一 豫算ノ編制及效力

市ニ於テハ市參事會町村ニ於テハ町村長カ毎會計年度收入支出ノ豫知シ得ヘキ金額ヲ見積リ年度前二箇月ヲ限リ歳入出豫算ヲ調製シテ以テ市會町村

特別會計
ハ之ヲ設
クルコト
ヲ得

會ノ議決ヲ經サルヘカラス而シテ豫算表ヲ市町村會ニ提出スルトキハ市參事會町村長ハ併セテ其市町村ノ事務報告書及財産明細表ヲ提出セサルヘカラス特別會計ニ就テハ別ニ其明文ナキニヨリ之ヲ設ケ得ルヤ否ヤニツキ疑ナキニアラスト雖モ市制町村制第七條第二項ニ「内務大臣ハ省令ヲ以テ豫算表調製ノ式ヲ定ムルコトヲ得」ト規定シ其内務大臣ノ定メタル明治二十二年内務省令第二號市町村歲入出豫算表中第十三號ニ「瓦斯燈、水道、電燈等」ノ類ニシテ別ニ豫算ヲ設クルヲ必要トスルトキハ適宜之ヲ調製スルコトヲ得トアルニヨリ特別會計ヲ設クルモ立法者ノ意思ニ反スルモノニアラスト信スルナリ又會計年度ニ就テハ或ハ一月ヨリ十二月ニ及フモノアリ或ハ七月ヨリ六月ニ亘ルモノアリテ各國ノ制度ハ一ニ歸セスト雖モ我政府ノ會計年度ハ獨逸ノ制ニ倣ヒ四月一日ニ始リ三月三十一日ニ終ルモノト爲セルニヨリ之ト會計年度ヲ同クスルハ市町村ノ財政上便宜ナルニヨリ市町村ノ會計年度モ之ト同一ナルコトト爲セリ次ニ豫算ノ效力ニ就テハ已ニ憲法篇ニ於テ國ノ豫算ノ效力ニツキ述ヘタルト同ク支出ノミニ關スルモノニテ即豫算

會計年度

ノ目的ニ反シ豫算ノ金額ノ制限ヲ侵シテ支出スルヲ得サルモノナリ

第二 繼續費

國ノ豫算ニ就テハ憲法第六十八條ニ「府縣ノ豫算ニ就テハ府縣制第二百十條郡ノ豫算ニ就テハ郡制第九十八條ニ繼續費ノコトヲ規定セリト雖モ市制町村制ニハ之ニ關スル規定ヲ缺ク故ニ市町村ハ繼續費ノ豫算ヲ設クルヲ得サルモノト考フ何トナレハ豫算ハ毎年之ヲ編制スルモノニテ繼續費ノ豫算ハ其例外ナルニヨリ特別ノ規程ヲ要スルヲ以テナリ或ハ市制第二百二十三條町村制第二百二十七條ニ「法律勅令ニ依テ負擔スル義務ニ非スシテ向五箇年以上ニ亘リ新ニ市町村住民ニ負擔ヲ課スル事」トアルヲ引用シテ繼續費ノ豫算ヲ設クルコトヲ認メラレタルモノナリト解釋スル人アリト雖モ若シ此解釋ノ如シトスレハ五年ヲ以テ區別ヲ立ツルノ理由ヲ解スルヲ得セザルナリ

繼續費ノ
豫算ヲ設
クルコト
ヲ得

第三 豫備費

定額豫算外ノ費用又ハ豫算ノ不足アルトキハ市町村會ノ認定ヲ得テ之ヲ支出スルコトヲ得併シ一市町村會ノ認定ヲ經ルハ煩雜ナルコトニヨリ市町

村ハ便宜ノ爲豫算中ニ豫備費ヲ設ケ市町村會ノ認定ヲ受ケスシテ豫算外ノ費用又ハ豫算超過ノ費用ニ充ツルコトヲ得併シ市町村會ノ否決シタル費途ニ之ヲ充ツルコトヲ得ス蓋シ之ヲ許ストキハ議會ノ議決ヲ無視スルコトトナレハナリ

政府ノ豫算中ニアル豫備費ニ就テハ此ノ如キ制限ノ明文ナキニヨリ帝國議會ノ否決シタル費途ニ豫備費ヲ使用シ得ルヤ否ヤニツキ疑ナキニアラサルモ市制町村制(郡制第九十九條)府縣制第二百一十一條ニハ明文ヲ以テ此疑問ノ生スルヲ防キタリ

第四 豫算ノ公告及交付

豫算ハ市町村會ノ議決ヲ經タル後之ヲ府縣知事郡長ニ報告シ且地方慣行ノ方式ヲ以テ其要領ヲ公告シ尙他ノ一方ニ於テハ市町村ヨリ豫算表ノ謄寫ヲ收入役ニ交付セサルヘカラス併シ其豫算表中監督官廳若クハ府縣郡參事會ノ許可ヲ受クヘキモノアルトキハ先ツ其許可ヲ受ケサルヘカラサルナリ

我國家ノ歲入出豫算ト我地方公共團體ノ

豫算トノ差異

豫算ノ財政計劃タル點ニ就テハ國家ノ豫算ト地方團體ノ豫算トノ間ニ區別ナシト雖モ我制度上此兩者ノ間ニ其實際ノ適用效果及其調製ノ點ニ付キ異ル點ナキニアラサルニヨリ今其重要ナルモノニ付キ之ヲ略述セント欲ス

第一 國家ノ豫算ハ裁可ヲ要スルモノモ府縣郡市町村ノ豫算ハ議會ノ議決ヲ以テ確定スルヲ常トセリ蓋シ權力ノ主體ノ異ルニ基クモノナリ抑モ國家ハ統治權ノ主體ニアラス統治權ノ主體トシテ其機關ヲ行使スルハ君主ナリ故ニ收支ノ機關ヲ或程度ニ於テ拘束スル處ノ豫算ノ確定ハ議會ニアラスシテ君主ノ裁可ヲ待ツモノナリ之ニ反シ地方公共團體ニ於テハ團體其自身自治權ノ主體ニシテ團體ノ意思ハ議會ニヨリ決定セラレ府縣知事郡長市參事會町村長等ハ團體ノ執行機關タルニ過キサルモノナリ之レ豫算モ地方團體ニ於テハ議會ノ議決ニヨリ確定スル所以ナリ

附言 國家ノ歲入出豫算ハ我憲法上裁可ヲ要シ實例亦然ルモノタルニ拘ハラズ憲法第六十七條ヲ引用シテ裁可ノ必要ヲ唱フルモノアリ其說ノ要旨ハ憲法上豫算ニ裁可ヲ要スルモノトセハ憲法第六十七條ノ歲出即豫算ノ一部ニ限リ特ニ政府ノ同意ヲ要スト定ムルノ必要ナシト云フニアリ併シ憲法第六

十七條ハ法令、契約、條約等ヲ變更スルニアラサレハ豫算ノ實施ヲナシ能ハサル
場合ニ關スルモノニシテ正當ナル豫算議定權ノ範圍外ニ屬スルモノナリ之レ
政府ノ同意ヲ特ニ要スルモノト定メタル所以ニシテ之ヲ以テ豫算ノ裁可不要
ノ根據ト爲スチ得サルナリ

第二 國家ノ豫算ハ前述ノ如ク裁可ヲ要スルモ國家ハ更ニ上級ノ監督廳ヲ有セサ
ルニヨリ議定セラレタル豫算ヲ自由ニ削減スルヲ得スト雖モ地方團體ニハ監督
官廳存スルニヨリ豫算ヲ不適當ト認メタルトキ之ヲ變更シ得ルコトヲ定メ得ラ
レサルニアラス(府縣制第三百三十條郡制第一百一條參照)亦地方團體ノ行政機關ハ
通常議決機關ノ議決ヲ執行スルヲ以テ本務ト爲スモノナリト雖モ收支ニ關スル
議決不適當ナリト認ルトキハ行政機關ニ於テ之ヲ再議ニ付シ(急施ノ場合ハ例外)
監督官廳ノ指揮ヲ仰クコトヲ得(府縣制第八十三條郡制第七十條參照)從テ所謂強
制豫算ナル制モ其必要ニ應シ地方公共團體ノ財政ニ關シ設クルコトヲ得ルモ國
家ノ豫算ニ就テハ此ノ如キ制度ヲ認ムルヲ得サルナリ(市制第一百十八條町村制第
百二十二條明治三十年法律第三十七號國庫ヨリ補助スル公共團體ノ事業ニ關ス
ル件參照)

第三 國庫ノ豫算ハ其不成立ノ場合ニ前年度ノ豫算ヲ施行スルモノナレトモ(憲法
第七十一條)市ノ豫算ハ府縣參事會、町村ノ豫算ハ郡參事會之ヲ代決ス(市制第四十
三條第一百十九條町村制第四十五條同第一百二十三條)又府縣ニ於テハ此ノ如キ場合

ニハ内務大臣ノ指揮ヲ請ヒ郡ニ於テハ府縣知事ニ上申シ其指揮ヲ仰キテ豫算ヲ
定ムルモノトス(府縣制第八十五條郡制第七十二條)此レ亦監督廳ヲ有スルノ結果
ニ出ツルモノナリ

第四 國庫ノ豫算モ地方團體ノ豫算モ豫備費ヲ設ケ豫算超過ノ支出及豫算外ノ支
出ニ充ツルコト同一ナリト雖モ府縣郡市町村制(府縣制第二百一十一條郡制第九十
九條市町村制第九條)ニ於テハ議會ニテ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得スト
ノ制限ヲ設ケタリ國庫ノ支出ニ就テハ此ノ如キ制限ナキニヨリ否決シタル費途
ニ豫備費ヲ充用シ得ルモノナルニ拘ハラズ此ノ如キハ豫算ノ議會ノ議決ヲ經ル
ノ精神ニ背反スルモノナリトノ理由ヲ以テ先年議會ノ否決シタル國庫定教科書ノ
費用ヲ豫備金ヨリ支出シタルヲ非難シタルモノナキニアラス併シ之ハ穩當ナラ
スト云フニ止リ憲法上又ハ會計法上不法ナリト云フヲ得サルナリ

第五 豫算超過及豫算外ノ國庫ノ支出ニ付テハ總テ後日帝國議會ノ承諾ヲ經ヘキ
モノナリト雖モ(憲法第六十四條)府縣郡市町村ノ豫算超過及豫算外ノ支出ニ就テ
ハ豫備費ヨリ支出スル以上ハ後日府縣郡市町村會ノ承諾ヲ要セサルモノトス只
市町村制ニ於テハ豫備費以外ニ豫算超過ノ支出又ハ豫算外ノ支出ヲナストキハ
市町村會ノ認定ヲ要ストノ明文アリト雖モ此ノ如キハ市町村特有ノモノニシテ
國家府縣郡ニテハ全、然許サルモノニアラサルナリ併シ府縣郡ニ於テハ豫算ニ
各項ノ金額ニ就キ府縣參事會ノ議決ヲ經之ヲ流用シ得ルモノトナシ以テ豫算ノ

支出ニ對スル制限ヲ緩和シタリ(府縣制第二百二十五條郡制第三百三條)

第六條 經費ノ豫算ヲ設クルコトハ國家ノ豫算(憲法第六十條)ニ就テモ府縣郡ノ豫算ニ就テモ異ルコトナシト雖モ市町村ニ於テハ其制度上之ヲ認ムルコトナシ併要シ之ハ自治制度上認ムルモノニアラストノ理由ニ出タルニアラスシテ只必ナシトノ理由ニ出タルモノト信ス然ルニ市町村ニ於テ其必要少カラサルニヨリ將來市町村制ヲ改正スルニ當リテハ之ヲ明ニ規定セサルヘカラサルナリ

第五項 市町村ノ決算

決算ハ會計年度ノ終ヨリ三箇月以内ニ之ヲ結了シ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ市參事會町村長ニ提出シ市參事會町村長ハ之ヲ審査シ意見書ヲ附シテ之ヲ市町村會ノ認定ニ付スルヲ要ス其市町村會ノ認定ヲ經タルトキハ市町村長ヨリ之ヲ府縣知事郡長ニ報告セサルヘカラサルナリ

第六項 市町村有財產

第一目 市町村有財產ノ管理

市制町村制第八十二條ニ依リ市町村有財產ハ全市町村ノ爲ニ之ヲ管理シ及共

決算ハ市町村會ノ認定ニ付スルヘカラス

共用ノ例

用スルモノナレトモ特ニ民法上ノ權利ヲ有スル者アルトキハ全ク此原則ニ從フヲ得ス使用料ノ徵收、使用權ノ制限及廢止ノ如キモ民法上使用ノ權利ヲ有スル者ニ對シテハ自由ニ自治權ヲ以テ處理スルコトヲ得サルナリ
市町村有財產ヲ管理スルハ市參事會又ハ町村長ノ權限ニシテ其管理方法ハ市町村會ノ議決ヲ經ヘキモノトス又市町村有財產ノ賣却貸與及建築工事等ノ請負ハ公ノ入札ニ付スヘキモノトシ臨時急施ヲ要スルトキ及入札價額其費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ市町村會ノ認許ヲ得ルトキハ此限ニアラス併シ市町村有不動產ヲ賣却讓與シ又ハ不動產質抵當ト爲スハ市町村會議決ノ上更ニ府縣參事會郡參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラサルナリ

第二目 市町村有財產ノ使用

市町村有財產ノ公法上ノ使用ニ就テハ市町村制ニ左ノ如ク規定セリ

第一 舊來ノ慣行ニヨリ市町村住民中特ニ其市町村有ノ土地物件ヲ使用スル公法上ノ權利ヲ有スルモノアルトキハ市町村會ノ議決ヲ經ルニアラサレハ

市町村有財產ノ公法上ノ使用

其舊慣ヲ改ムルコトヲ得ス(市町村制第八十三條)

第二 市町村住民中特ニ其市町村有ノ土地物件ヲ使用スル公法上ノ權利ヲ得
ントスル者アルトキハ市町村條例ノ規定ニ依リ使用料若クハ一時ノ加入金
ヲ徵收シ又ハ使用料加入金ヲ共ニ徵收シテ之ヲ許可スルコトヲ得(同第八十四條)

第三 舊來ノ慣行ニ依リ竝ニ市町村ノ許可ニ依リ特ニ優リタル使用權ヲ有ス
ル者ハ其使用ノ多寡ニ準シテ其土地物件ニ係ル必要ナル保存修繕等ノ費用
ヲ分擔スヘキモノトス(同第八十五條)

第四 市町村會ハ市町村ノ爲ニ必要ナル場合ニ於テハ右ノ公法上ノ使用權ヲ
取上ケ又ハ制限スルコトヲ得(同第八十六條)

各個人特ニ使用スル市町村有土地使用法ヲ變更スルトキハ市ニ於テハ府縣
參事會、町村ニアリテハ郡參事會ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第五 市町村有財產竝其所得ヲ使用スル公法上ノ權利及使用料ニ關スル訴願
ハ市參事會、町村長之ヲ裁決シ其裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會、郡參事會ニ
訴願シ結局參事會ノ裁決ニ不明アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得併

シ此訴願及訴訟ノ爲メニ其處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得サルナリ(同第八十五條)

第七項 市町村有財產ノ種別

第一 基本財產及通常財產

市町村有財產ハ其目的ニ從ヒ之ヲ區別スルトキハ基本財產及通常財產ニ分
ツコトヲ得而シテ基本財產ノ目的ハ其元本ヲ消耗セスシテ之ヨリ生スル收
入ノミヲ市町村ノ費用ニ充テントスルモノナルニヨリ基本財產ヲ費消、貸與
スルニハ市町村會ノ議決ヲ要スルノミナラス市ニ於テハ府縣參事會、町村ニ
於テハ郡參事會ノ許可ヲ要スルナリ

第二 公用財產及收得財產

公用財產ハ或ハ之ヲ行政上ノ財產ト稱シ收得財產ハ或ハ之ヲ財政上ノ財產
ト稱スルモノニテ(Verwaltungsvermögen und Finanzvermögen)前者ハ市町村ノ公用ニ
供セラルルモノ後者ハ市町村ノ收益ノ目的ニ供セラルルモノヲ指スナリ而
シ其公有財產ヲ更ニ細別スルトキハ直接公用ニ供セラルル財產ト營造物ヲ

基本財產
處分ス
ルニハ監
督ノ許
可ヲ受ク
ルコトヲ
要ス

組織シ若クハ人民ノ公法上ノ使用ニ供スル財産トニ分タルナリ

第七款 市町村内ノ區

第一項 區ノ分類

市町村内ノ區ニハ單ニ行政區劃タルニ止ルモノアリ或ハ人格ヲ有スル區アリ又其人格ヲ有スル區ニモ私法上ノ人格ヲ有スル區ト公法上ノ人格ヲ有スル區トアリ東京、京都、大阪三市ノ區ノ如キハ此後者ニ屬スルノ例ナリ依テ此三者ヲ順ヲ追フテ説明セント欲ス

第一 東京、京都、大阪三市ノ區

明治十一年太政官布告第十七號郡區町村編制法第四條ニ於テ「三府五港其他人口輻輳ノ地ハ別ニ區ト爲シ其廣濶ナルモノハ區分シテ數區トナス」ト規定シ同年七月内務省達心得ノ第四項ニ「三府及其他市街ノ區及各町村ハ其町村ノ便宜ニ從テ町村會議又ハ區會議ヲ開キ及ヒ地方稅ノ外人民協議ノ費用ハ地價割、戸數割又ハ小間割、間割、口歩合金等其他慣習ノ舊法ヲ用フルコト勝

公法上ノ人格ヲ有スル區

手タルヘシ」ト定メタルヲ以テ見レハ市制發布以前ノ區ハ公共團體ノ一タルコト明ナリ後市町村制ヲ一般ニ施行スルニ當リ東京、京都、大阪ノ三市ニ對シテハ特別市制ヲ行フコトトナシ其第四條ニ於テ「從來ノ區ヲ存ス」ト明言シ明治三十一年特別市制ヲ廢止スルニ及ヒ市制第三條ニ同年法律第三十號ヲ以テ「東京市、京都市、大阪市ニ於テハ從來ノ區ヲ存ス其區ハ財産及營造物ニ關スル事務其他法律命令ニ依リ區ニ屬スル事務ヲ處理スルモノトス」ト追加シ同年勅令第二百十號（東京、京都、大阪市ノ區ニ關スル件）ヲ以テ「從來ノ區會ハ之ヲ存シ新ニ區會ヲ設クルトキハ市制第一百十三條ノ例ニ依ル區會ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ財産及營造物ニ關スル事務其他區ニ屬スル事務ヲ議決ス」ト規定シタリ之ニ依テ見レハ東京、京都、大阪三市ノ區ハ市制施行前ハ公共團體ニシテ其公共團體タルノ實ハ市制施行ノ爲影響ヲ受クルコトナク依然トシテ公共團體タルノ状態ヲ維持シタリシヲ見ルコトヲ得之レ現ニ三市ノ區費ハ區會限リニ之ヲ議決シテ區民ニ賦課シマタ行政裁判所モ明治三十四年第二百十號事件ニ於テ明治三十三年法律第十九號ノ適用ニ關シ東京市内ノ區ハ市町村ニ準スヘキ公

共團體ニ該當スルモノト解釋スルヲ相當トスト判決(明治三十四年十一月十一日宣告)シタル所以ナリ

東京、京都、大阪三市ノ區ハ公共團體ノ一タルコト已ニ述ヘタル如クナルカ其課稅權及募債權ニツキ松浦法學士ハ其著「市制町村制」ニ於テ詳ク論セラレタルニ依リ之ヲ引用センニ「東京市、京都市、大阪市ノ區ハ法ニ於テ明ニ公法上ノ人格ヲ認メラルルニ拘ハラズ區カ其事務ヲ施行スルカ爲必要ナル場合ニハ自己ノ名ヲ以テ租稅ヲ賦課徵收シ使用料、手数料ヲ徵收スルコトヲ得ルヤ否ヤ又公債ヲ募集スルコトヲ得ルヤ否ヤノ問題ニ關シテハ法ノ規定モ頗ル明確ナラス區長カ區ニ關スル事務ヲ處理スルニ付テモ市ノ行政ニ關スル規定ヲ適用ストイハスシテ之ヲ準用ストイヒ區ノ監督ニ付テモ市ノ監督ニ關スル規定ヲ適用ストイハスシテ之ヲ準用ストイフヲ以テ見ルモ市ノ租稅賦課、公債募集等ノ規定ハ之ヲ區ニ適用セシメサルノ趣旨ナリトイフヲ得ヘキカ實際ノ取扱ニ於テモ區ハ課稅募債ノ權能ヲ有セストシ區ノ事業ノ爲ニスルモノト雖モ皆市稅、市公債トシテ之ヲ處理シ然モ實際ハ區ノ人民ノミノ負擔ヲ

以テ之ヲナセルモノノ如シ然レトモ全ク獨立ノ人格者タル區ノ行政事務ノ爲ニスル租稅又ハ公債ヲ當然市稅又ハ市公債トシテ處理シ得ヘシトノ論據ハ何處ニ之ヲ求ムヘキカ或ハ區會議員ヲ以テ市ノ名譽職トスルノ規定竝ニ區長ヲシテ市參事會ノ監督ヲ受ケテ區ノ事務ヲ處理セシムルノ規定ヨリ見ルモ法ノ精神ハ區ノ事務ヲ處理スルコトヲ市ノ事務ノ一部ト看做セルモノナリトイヒ得ヘシト論スル者アリ假ニ此論ニ依ルトスルモ猶ホ市カ獨立ノ人格者タル區ノ爲ニ市内ノ一部(區ノ區域)ノミニ對シ市稅ヲ賦課シ得ヘシトスルノ論據ハ何レニ在リヤ市制ニ依リ市ニ於テ一部賦課ヲナシ得ルハ第十九條ノ場合即チ市内ノ一區ニ於テ專ラ使用スル市ノ營造物ノ修築保存ノ爲ニスル場合ノミナリ而シテ東京市、京都市、大阪市ノ區カ第九十九條ノ區ニ非サルハ論ヲ俟タス此點ニ關スル法ノ規定ハ到底不明ナルヲ免レサルナリト併シ公法上ノ法人タルト私法上ノ法人タルト問ハス人格ヲ有スル以上ハ特別ニ制限ヲ爲ササル限リハ募債ノ權能ヲ有スルモノト解スヘク殊ニ此三市ノ區ハ從來ノ區ヲ存ストアリテ其從來ノ區ハ課稅募債ノ權能ヲ有シタ

ルニ依リ繼續シテ此權能ヲ有スルモノト解シ得サルニアラサルナリ
尙此三市ノ區ニ就キ注意スヘキ點ヲ舉クレハ左ノ如シ

一、廢置分合又ハ其境界ノ變更ハ市町村ノ廢置分合境界變更ト同一ノ手續ニ依ルモノトス(市制第(四)條第(七)條)

二、區長區收入役區書記ハ一方ニハ市ノ補助機關トシテ區内ノ市事務ヲ掌ルノミナラス區ノ行政機關トシテ區ノ事務ヲ掌ルモノトス(市制第(七)條第(十二)條)

三、區長ハ市參事會ノ監督ヲ受ケ區ニ屬スル事務ヲ處理ス(同上)

四、區長ニ於テ財産營造物ニ關スル事務其他區ニ屬スル事務ヲ處理スルニ付テハ市ノ事務ニ關スル規定ヲ準用ス(明治三十一年勅令(第二百十號)第三條)

五、區收入役ノ職務權限及處務規定ニ關シテハ市收入役ニ關スル規定ヲ準用ス(同第(六)條)

六、區會議員ハ市ノ名譽職トス(同第(七)條)
區ヲ以テ公共團體ト爲スノ見解ト此明文トハ牴觸スルカ如シト雖モ明治三十一年勅令第二百十號ハ特別市制廢止ニ際シ急遽ニ制定シタルモノナ

レハ單ニ此規定アルノ故ヲ以テ三市ノ區モ公共團體ニアラスト云フヲ得サルナリ

七、區會議員ノ選舉權及被選舉權ノ有無選舉人名簿ノ正否竝ニ其等級ノ當否代理ヲ以テ執行スル選舉權及區會議員ノ選舉ノ效力竝區會議員當選者ノ資格ノ有無ニ關シテハ市會ニ關スル規定ヲ適用シ其他區會ニ關シテハ市會ニ關スル規定ヲ準用ス

八、區長ト區會トノ關係ニ就テハ市參事會ト市會トノ關係ニ關スル規定ヲ準用ス

九、區ノ監督ニ付テハ市ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

第二 私法上ノ人格ヲ有スル區
市制第五章ニ特別ノ財産ヲ有スル市區ノ行政ト題シ其第百十三條ニ市内ノ一區ニシテ特別ニ財産ヲ所有シ若クハ營造物ヲ設ケ其區限リ特ニ其費用第百九十九條ヲ負擔スルトキハ云々ト規定シマタ町村制第百十四條ニモ町村内ノ區(第六十四條)又ハ町村内ノ一部若クハ合併町村(第四條)ニシテ別ニ其區域

ヲ存シテ一區ヲ爲スモノ特別ニ財産ヲ所有シ若クハ營造物ヲ設ケ其一區限
リ特ニ其費用(第九十九條)ヲ負擔スルトキハ云々ト規定スルニヨリ市制町村
制ハ市町村内ノ一區カ一ノ法人トシテ財産ヲ所有シ得ルコトヲ認メタルコ
ト明ナリ或ハ市制第百十三條町村制第百十四條ニ「營造物ヲ設ケ」ノ文字アル
ヲ以テ此區モ公法上ノ人格ヲ有スルモノニアラスヤトノ疑ヲ抱クモノアル
ヘシト雖モ市制町村制理由書ニ「行政ノ便利ノ爲ニ劃シタル區ト一市町村内
ニ於テ獨立ノ法人タル權利ヲ有スル各區トノ區別アルハ固ヨリ言ヲ俟タス
本制ハ一市町村ノ統一ヲ尙フモノニシテ一市町村内ニ獨立スル小組織ヲ存
續シ又ハ造成スルコトヲ欲スルニアラス然レトモ強テ此原則ヲ斷行セント
スルトキハ一地方ニ於テ正當ニ享有スル利益ヲ傷害スルノ虞レアリ故ニ概
シテ此旨趣ニ依テ論スヘカラサルモノアリ大市町村ニ於テハ現今已ニ特別
ノ財産ヲ有スル部落アリ現今ノ小町村ヲ合併スルトキハ更ニマタ此ノ如キ
部落ヲ現出スヘシ其部落ハ即獨立ノ權利ヲ存スルモノト謂フヘシ(中略)其特
別財産ノ管理ハ之ヲ其全市町村ノ理事者タル町村長又ハ市參事會ニ委任ス

區カ私法
人タルノ
結果

ルモ妨ナシ云々ト説明シタルヲ見レハ一市町村内ニ於テ更ニ小公共團體ヲ
作ルヲ欲セサルノ立法者ノ精神明ナリ且市制第百十三條町村制第百十四條
ニ營造物ニ關シ市町村制第九十九條ヲ引用スルヲ見テモ區ノ營造物ニ關ス
ル意義ニアラサルコト疑ナシ蓋シ市町村制第九十九條ハ市町村ノ營造物ヲ
特ニ其一部ニ於テ專ラ使用スル場合ノ費用ニ關スル規定ナレハナリマタ市
町村カ財産ヲ有スル以上ハ其維持ノ費用ヲ區民ニ賦課スルコトアルヘシト
雖モ市參事會町村長カ市町村ノ事務トシテ市町村行政ノ法規ニヨリ之ヲ行
フモノニテ區自身カ此ノ如キ行政作用ヲ爲スニアラサルナリ又我大審院モ
町村内ノ區ハ私法人ナリトノ見解ヲ執レリ(明治三十八年五月大審院第二
市制第百十三條町村制第百十四條ノ財産ヲ有スル市町村内ノ區カ私法上ノ
法人ニシテ公法上ノ人格ヲ有セサルノ結果ハ次ノ如シ)

一、市參事會町村長カ區ノ事務ヲ行フハ市町村ノ機關トシテ之ヲ行フモノ
ニテ區ノ機關トシテ之ヲ行フモノニアラス

二、區ノ財産ニ關スル事務ノ爲區會若クハ區總會ヲ設クルモ之ハ市町村ノ

機關ニシテ區ノ機關ニアラス

三、區ノ財産維持ノ爲租稅ヲ賦課スルモ區稅ニアラスシテ市町村稅ナリ
前掲シタル市制町村制理由書ニ説明アリタル如ク此區ヲ認ムルノ主旨ハ市
制町村制施行ノ當時已ニ存在シ財産ヲ有シタリシ小町村ニシテ合併等ノ爲
他市町村ノ一部トナリタルモノヲ其儘財産所有者トシテ存續セシメントス
ルニアルニヨリ區ハ唯從來ノ財産ヲ維持管理シ得ルニ止リ特別ノ規定アル
場合ノ外新ニ財産ヲ取得シ能ハサルノミナラス基本財産ヲモ蓄積スルコト
ヲ得サルナリ

市制第一百四條町村制第一百五條ニ前條ニ記載スル事務ハ市町村ノ行政ニ
關スル規則ニヨリ市參事會、町村長之ヲ管理スヘシ但區ノ出納及會計ノ事務
ハ之ヲ分別スヘシトアルニヨリ區ノ事務ノ管理者ハ市ニ於テハ市參事會、町
村ニ於テハ町村長タルコト疑ナシ併シ其區有財産ノ處分ヲ爲シ或ハ其管理
方法ヲ定ムルニツキ市會町村會ヲシテ議決セシムヘキヤ否ヤニツキ何等ノ
規定スル所ナシ固ヨリ區會若クハ區總會ヲ設ケタルトキハ之ヲシテ議決セ

區有財産
處分管理
ノ關スル
議決

區ノ市町村
事務ノ分
カサルト
ヘカラス

第三 單ニ行政區劃タル區

元來行政區劃タル區ト法人タル區トハ其區域ヲ異ニシテ存在ニルモノニア
ラス殆ント總テノ場合ニ二種ノ區ノ區域ハ相一致スルモノナルニヨリ此第

三ノ區ト前ノ第一第二ノ區ト異ルノ點ハ行政區劃タルト否トニアラスシテ等シク行政區劃タルモ法人タルト否トニ存スルモノナリ即前ノ二種ノ區ハ行政區劃ニシテ且法人タルモ此第三ノ區ハ人格ヲ有セス單ニ行政區劃タルニ止ルモノナリ

此行政區劃タル區ニ左ノ三種アリ

一、市町村ノ處務便宜上設ケタル區

市制第六十條ニハ凡市ハ處務便宜ノ爲メ市參事會ノ意見ヲ以テ之ヲ數區ニ分チ每區區長及其代理者各一名ヲ置クコトヲ得ト規定シ町村制第六十四條ニハ町村ノ區域廣濶ナルトキ又ハ人口稠密ナルトキハ處務便宜ノ爲町村會ノ議決ニ依リ之ヲ數區ニ分チ每區區長及其代理者各一名ヲ置クコトヲ得ト規定シ處務便宜上市町村ハ區ヲ設ケ得ルコトトナセリ

二、營造物ノ負擔區域タル區

市制百十三條ニ市內ノ一區ニシテ特別ニ財產ヲ所有シ若クハ營造物ヲ設ケ其區限リ特ニ其費用(第九十九條)ヲ負擔スルトキハ云々而シテ町村制

第一百十四條ニモ町村内ノ區又ハ町村内ノ一部若クハ合併町村ニシテ別ニ其區域ヲ存シテ一區ヲ爲スモノ特別ニ財產ヲ所有シ若クハ營造物ヲ設ケ其一區限リ特ニ其費用(第九十九條)ヲ負擔スルトキハ云々トアリ而シテ其區カ財產ヲ所有スルトキハ前ノ第二種ニ屬スト雖モ若シ其區カ財產ヲ所有セスシテ單ニ營造物ノ費用ヲ特ニ負擔スルニ止ルトキハ此第三種ノ行政區劃タル區ノ一種ニ屬スルモノナリ

其營造物ハ市町村ノ營造物ナルニヨリ其管理方法ヲ設ケ或ハ其費用ヲ義務者ニ賦課スルコトハ市町村會ノ議決ヲ經ヘキコト當然ナリト雖モ往々全市町村ノ利害ト一區内ノ利害ト抵觸スルコトアリ故ニ此場合ニモ府縣參事會郡參事會ハ營造物ニ關スル事件ヲ議決セシムル爲區會若クハ區總會ヲ設ケ得ルコトトナセリ

此營造物ニ關スル行政事務モ市參事會町村長ニ於テ市町村行政ニ關スル規定ニ依リ之ヲ管理スヘキモノトス從テ特ニ區内ノ營造物ノ事務ニ關シ市參事會町村長ノ補助機關トシテ委員ヲ置クコトヲ得ルナリ

營造物ノ
事務ニ關
シ委員ヲ
置クコト
ヲ得

市參事會及町村長ハ右ノ營造物ニ關スル出納及會計ノ事務ヲ一般市町村ノ出納及會計事務ト分別セサルヘカラサルコトハ前ノ第二種ノ區ニ就テ述ヘタルト同シ

營造物費用負擔ノ義務者ニ就テハ市制町村制第九十九條第二項ニ於テ之ヲ規定セリ之ニ依ルトキハ市町村ノ一區ニ於テ專ラ使用スル營造物アルトキハ其區内ニ住居シ若クハ滞在シ又ハ土地家屋ヲ所有シ營業店舗ヲ定メサル行商ヲ除クヲ爲ス者ニ於テ其修築又ハ保存ノ費用ヲ負擔スヘキモノナリ併シ其一區ノ所有財産アルトキハ其收入ヲ以テ先ツ其費用ニ充テサルヘカラサルナリ

三、學區

地方學事通則ニ於テ市町村ハ勅令ノ規定スル處ニ依リ教育事務ノ爲メ之ヲ數區ニ分割スルコト及其區カ財産又ハ營造物ノ爲ニ存在セル區ニシテ已ニ區會又ハ區總會ノ設ケアルモノト其區域ヲ同シクセサル場合ニハ特ニ其區ノ爲ニ市制第百十三條町村制第百十四條ノ規定ニ從ヒ區會又ハ區

總會ヲ設クルヲ得ルコトヲ規定シ且一區若ハ數區ヲシテ專ラ使用セシムル學校ニ關シテハ其區内ニ住居シ若ハ滞在シ又ハ土地家屋ヲ所有シ營業ヲ爲スモノニ於テ設立維持ノ費用ヲ負擔スヘク若シ其區カ財産ヲ有スル區ト地域ヲ同シクスル場合ニハ先ツ其財産ヨリ收入ヲ以テ右ノ費用ニ充ツヘキコトヲ規定セリ而シテ實業學校令第五條ニ於テハ市町村ハ實業學校ヲ設置スル場合ニ於テ費用ノ負擔ノ爲區ヲ設クルヲ得ルコトヲ規定シマタ小學校令第十一條ニ於テハ市町村内ニ尋常小學校數校アルトキハ府縣知事郡長ハ其小學校ノ費用負擔區ヲ定メ得ルコトヲ規定セリ

此區モ前ノ(二)ノ區ト同ク營造物費用負擔ノ區域ニ過キスシテ區ノ負擔ヲ以テ設立スル學校ハ市町村ノ學校ニシテ區立ノ學校ニアラサルナリ

此第三種ノ區ハ(一)(二)(三)ノ何レニ屬スルヲ問ハススヘテ人格ヲ有セサルニヨリ左ノ結果ヲ生スルモノトス

一、區長其他區内ノ機關カ掌ル處ノ事務ハ市町村行政ノ補助執行ニ外ナラ

サルモノトス(特別ノ委任ニヨリ國府縣ノ行政事務ヲ掌ル場合ハ格別)

變更シ得ルモノニアラス故ニ之カ爲ニ明文ヲ設クル迄ハ其廢置分合及境界變更ハ絶對ニ爲シ得ラレサルモノナリ

第四 單ニ行政區劃タル區

一、市町村ノ處務便宜上設ケタル區

之ハ市制第六十條町村制第六十四條ニ依リ單ニ處務ノ便宜上設ケタル區ニ過キササルヲ以テ又其設置ト同一ノ手續ニテ即市ニテハ市參事會ノ議決町村ニテハ町村會ノ議決ニテ其廢置分合及境界變更ヲ爲スコトヲ得ルナリ

二、營造物ノ費用負擔ノ區域タル區

此區ノ廢置分合及境界變更ハ人民ノ負擔ニ關係スルニヨリ法律ノ根據アルニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス而シテ其明文ナキニ依リ現時ニ於テハ絶對ニ之ヲ行フコトヲ得サルナリ

三、學區

之ニ就テモ其廢置分合及境界變更ニ關シ直接ナル規定ナシト雖モ其新設

營造物ノ費用負擔ノ區域ノ變更ハ之ヲ得ルナリ

ニ關スル規定アルニヨリ廢置分合及境界變更ヲ之ニ準シテ爲スヲ寧ロ法意ニ適スルモノト信スルナリ

第三項 區ノ機關

市參事會町村長市町村會カ區ノ事務ニ關係スルコトハ已ニ述ヘタルニヨリ茲ニハ只區ノ爲ニ設クル機關ノミニツキ其組織權限ヲ述ヘント欲ス

第一 區長

區長ノ選任及區長ノ市町村ノ補助機關トシテノ權限ハ已ニ之ヲ述ヘタルニヨリ只區ノ事務ニ關スル權限ノミヲ述ヘンニ一般ニ區ノ事務ハ市參事會町村長ニ於テ之ヲ管理スルヲ原則ト爲スモ東京、京都、大阪ノ三市及有給區長ヲ有スル人口二十萬以上ノ市ニ於テハ市參事會ノ監督ヲ受ケ且市ノ事務ニ關スル規程ニ準據シテ區長區ノ事務ヲ掌ルモノトス而シテ區長ト區會トノ關係ニ就テハ市參事會ト市會トノ關係ニ關スル規程ヲ準用スルモノナリ

第二 區收入役

區長ト區會トノ關係

東京、京都、大阪ノ三市及人口二十萬以上ノ市ハ市會ノ議決ニヨリ區ニ區收入役ヲ置クコトヲ得其區收入役ハ區附屬員ノ中ニ就キ市參事會之ヲ命スルモノトス

區收入役ハ區ノ出納其他會計事務ヲ掌ルノミナラス市收入役ノ命ヲ承ケ若クハ其委任ニ依リ區内ニ關スル市收入役ノ事務ヲ掌ル

區收入役ノ職務權限及處務規程ニ關シテハ市收入役ニ關スル規程ヲ準用スルモノナリ

第三 區附屬員及使丁

東京、京都、大阪ノ三市及人口二十萬以上ノ市ニ於テハ市會ノ議決ヲ以テ區ニ附屬員並使丁ヲ置クコトヲ得而シテ其附屬員及使丁ハ市參事會ニ於テ之ヲ任用ス

區附屬員及使丁ハ區長ノ指揮監督ヲ受ケ附屬員ハ庶務ニ從事シ使丁ハ雜役に從事ス

第四 區會、區總會

市町村内ノ區ニシテ特別ニ財產ヲ有シ若クハ營造物ヲ設ケ其區限リ特ニ費用ヲ負擔スルトキハ其財產及營造物ニ關スル事務ノ爲メ市ニ於テハ府縣參事會カ市會ノ意見ヲ聞キ町村ニ於テハ郡參事會カ町村會ノ意見ヲ聞キ條例ヲ以テ區會若クハ區總會(區總會ハ町村ニ於テ之ヲ設クルコトヲ得)ヲ設クルコトヲ得ルモノトス而シテ其區會ノ會議ニハ市會ノ例ヲ適用スルコトヲ得ルナリ

東京、京都、大阪ノ三市ノ區ニ於テハ特別市制廢止前ノ從來ノ區會ハ之ヲ存シ新ニ區會ヲ設ケントスルトキハ右ノ例ニヨリ府縣參事會カ市會ノ意見ヲ聞キ條例ヲ以テ之ヲ設クルコトヲ得ナセリ而シテ區會ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ財產及營造物ニ關スル事務其他區ニ關スル事務ヲ議決スルモノナリ

又此三市ノ區會議員ハ名譽職タルコト明ニ規定セラレ其他區會議員ノ選舉權及被選舉權ノ有無、選舉人名簿ノ正否並其等級ノ當否、代理ヲ以テ執行スル選舉權及區會議員ノ選舉ノ效力並區會議員當選者ノ資格ノ有無ニ關シテハ市會ニ關スル規定ヲ適用スヘシ其他區會ニ關シテハ市會ニ關スル規定ヲ準用スヘキコトモ明文ヲ以テ定メラレタリ而シテ此等ノ點ニ關シ其他ノ市ノ

東京、京都、大阪
三市ノ區會

區會及町村ノ區區會總會ニツキ何等ノ特別ノ規定ナキニヨリスヘテ條例ヲ以テ委細ニ定メサルヘカラサルナリ
要スルニ區區總會ノ議決權限ハ區ニ關係ノ事務ノ範圍外ニ出テサルニヨリ戸數割ノ等級ヲ定メ或ハ地元土木受負工事ヲ議スルカ如キハ爲シ得サルコト勿論ナリ

第五 委員

營造物ノ費用負擔ノ區ニ於テハ市町村ノ規定ニ準シ委員ヲ置クコトヲ得又小學校負擔區域タル學區ニ於テハ教育事務ノ爲市町村條例ノ規定ニヨリ其區ニ學務委員ヲ置クコトヲ得而シテ學務委員ニハ市町村立小學校男教員ヲ加フヘキモノナリ

學務委員

第八款 町村組合

一町又ハ一村ナル公共團體ニ於テ處辨シ難キカ又ハ處辨スル能ハサル事項アルトキハ之ヲ共同ニ處理スル爲メ數町村カ協議ヲ以テ組合會議ノ組織事務ノ

組合設立ノ手續

管理方法並ニ其費用支辨方法ヲ規定シ(規約)監督官廳ノ許可ヲ得テ町村組合ヲ設立スルコトヲ得而シテ町村組合モ公共團體ノ一タルコトハ町村制理由書ニ依テ之ヲ知り得ルノミナラス郡制ニ於テ郡ノ組合ヲ法人ト規定シタルコト其他河川法砂防法等ノ明文ニ對照スルモ明了ナリ(市村法學士ハ明文ナキヲ理由トシテ法學士ハ明文ナキヲ理由トス)
町村組合ハ町村ト町村トヲ組合ハシテ之ヲ編成スルモノナルニ依リ町村ノ一部ツツヲ組合シテ町村組合ヲ作成スル能ハサルハ勿論町村ト市トヲ合シ又ハ町村ト郡トヲ合シテ組合ヲ作成スルコト能ハス併シ町村間ノ組合ナルトキハ二郡以上ニ跨ルモ又ハ兩縣以上ニ跨ルモ妨ケサルナリ
協議ヲ以テ組合ヲ設クルニハ町村會ノ議決ヲ經面シテ第一項監督官廳タル郡長ノ許可ヲ得ヘキモノ(二郡以上ノ町村組合ヲ設クルニハ府縣知事ノ許可ナルカ資力上獨立スルニ堪ヘサル町村ニシテ而カモ合併スル能ハサルトキハ郡參事會ノ議決ヲ以テ強制的ニ數町村ノ組合ヲ設ケシムルコトヲ得ルナリ)

組合ノ事務ノ範圍ニ依リ町村組合ヲ區別スルトキハ全部組合ト一部組合トニ分タル全部組合トハ町村ノ事務全體ヲ擔任スル組合ニシテ一部組合トハ或特

定ノ事務ノミヲ負擔スル組合ナリ而シテ強制的組合ハ常ニ全部組合ナルコト勿論ナリ一部組合ノ場合ニ於テハ各組合町村ニ町村會、町村長及其他ノ町村吏員ヲ有スヘキコト勿論ナルカ全部組合ヲ設ケタルトキハ各町村會ニ於テ決議スヘキ事項存在セサル場合ニハ各町村會ハ組合成立ト共ニ之ヲ廢スルコトヲ得ルノミナラス各町村ノ町村長及其他ノ吏員モ其必要ナキトキハ之ヲ廢止ニ歸セシムルコトヲ得併シ甲乙組合ニ一ノ町村長ヲ置タル場合ニ甲乙ノ間ニ訴訟ヲ爲ストキハ各町村會ニ於テ其事件ニ關スル代表者ヲ選任スヘキコト言ヲ俟タサルナリ

組合管理

町村組合管理者ハ別ニ選任スルヲ原則ト爲スモ組合町村長ノ一人ヲシテ之ヲ兼ネシメ或ハ郡長ニ其管理ヲ委托スルコトヲ得
組合規約トハ二個以上ノ町村カ組合ヲ爲スニ當リ其協議ヲ以テ組合成立ノ原素トナルヘキ重要ナル事項ヲ定メタルモノヲ指スモノナレハ監督官廳カ組合設立ノ許可ヲ與フルニハ組合規約適否ノ點ヲ審査スルヲ要ス若シ該規約ヲ不適當ト認ムレハ組合ノ設置ヲ許スヲ得スマタ組合規約ハ組合町村ノ協議ヲ以

組合ノ解除及一部ノ分離

テ作成シタルモノナルニ依リ之ヲ變更スルニハ規約ニ特別ノ規定アル場合ノ外組合町村ノ協議ニ依ルヘキモノニシテ組合會ノ議決ヲ以テ之ヲ變更スルヲ得サルナリ
強制組合ヲ設クル場合ニ於テ組合費用ノ分擔其他組合成立ニ必要ナル事項ヲ組合町村ノ協議ヲ以テ之ヲ定ムル能ハサルトキハ郡參事會ニ於テ組合規約ヲ規定ス併シ一旦之ヲ施行シタル以上ハ之ヲ變更スルニハ組合町村ノ協議ニ依ラサルヘカラサルナリ
町村組合存立ノ目的タル事務ハ町村ニ於テ爲シ得ヘキ事項ニ限ルモノニシテ純然タル營利事業ノ如キ町村ニ於テ爲シ能ハサルモノハ組合設立ノ目的ト爲スコトヲ得スマタ町村ニ於テ爲シ得ル範圍ニ於テハ組合ノ目的ヲ變更シ得ルモ之ヲ變更スルニハ組合町村ノ協議ニ依ルヘキコト勿論ナリ
町村組合ハ全部之ヲ解除スルト共組合町村ノ一二ヲ分離スルトヲ問ハス關係町村ノ協議ヲ經タル上(強制組合ノトキハ郡參事會ノ議決ヲ經テ)監督官廳ノ許可ヲ受クルヲ要ス
組合規約ニ特別ノ規定アル場合ノ外町村組合ハ町村制ノ規定ノ適用ヲ受クル

學校組合ハ町村制ノ組合ノ規定ノ適用ヲ受クルモ水利組合ハ水利組合法、産業組合ハ産業組合法ト名クル特別ノ規定ノ適用ヲ受クルモノニテ且ツ町村組合ト其團體ノ性質ヲ異ニスルナリ

第九款 市町村ニ對スル監督

第一項 自治團體ニ對スル監督權ノ範圍

自治行政ハ國家ノ行政ナリ自治團體ハ國家ノ統治者ノ委任ヲ受ケテ之ヲ行フモノナルニヨリ委任者ハ自治團體カ果シテ能ク其行政事務ヲ行フヤ否ヤヲ監督スルノ必要アルコト言フ俟タス故ニ自治團體カ國家監督權ニ服スルハ自治行政ニ缺クヘカラサル要件ニシテマタ自治團體カ之ニ服セサルトキハ一ノ獨立ノ國家ヲ國家内ニ生スルコトトナルナリ

自治團體ハ法律ニヨリ獨立ノ人格ヲ認メラレ其權能モ法律ニヨリ認メラレタルモノナルニヨリ之ニ對スル監督ノ範圍モ法律ヲ以テ定メサルヘカラス故ニ

監督ノ範圍ハ法律ニ依リテ定マル

法律ノ根據ナクシテ監督應ハ自治團體ニ對シ監督上ノ訓令ヲ發スルヲ得サルハ勿論省令、府縣令等ノ法規命令ヲ以テスルモ自治團體ノ行爲ヲ制限スルコトヲ得サルナリ

監督ノ限度

監督權ノ範圍ヲ法律ヲ以テ定ムルニツキ廣狹ノ程度ヲ誤ラサル様ニ注意セサルヘカラス若シ監督權ノ範圍狹キニ失スルトキハ自治行政ハ國家ヲ離レタル獨立ノ行政トナルノ虞アリマタ之ニ反シ監督權ノ範圍廣キニ失スルトキハ自治行政ノ實ヲ有セサルニ至ルノ恐ナキニアラサルナリ例ヘハ違法ノ場合ニアラサレハ監督權及ハスト定ムルトキハ自治行政事務不振ニ陥ルモ國家ハ如何トモ爲シ難キコトトナリマタ施政宜シキヲ得スト認ムル場合ニモ監督應カ干渉シ得ルモノトナストキハ名ハ自治ニシテ其實官治ト異ルコトナキカ如シ自治團體ニ對スル最少限度ノ監督トシテハ自治團體ノ意思ヲシテ國家統治者ノ意思ニ適合セシムル爲少クトモ積極的若クハ消極的ニ自治團體ノ行爲ヲ違法ニ陷ラサラシムルヲ要ス故ニ自治團體ニシテ地方行政ヲ爲スニ必要ナル能力ヲ具フルトキハ之ニ對スル監督ハ其違法行爲ニ對シテノミ之ヲ行フヘキナ

自治團體ニ對スル監督トスル吏員ニ對スル監督

リ併シ我自治制度ハ歷史上其萌芽アリタリト云フモ之ヲ實施シタル以後二十年ヲ經過シタル今日ニ於テモ尙違法ノ監督ノミニテハ不充分ナルノ感アルニ依リ市町村制ニ於テ下ニ述フル如ク自治團體ノ行爲ヲ害公益ト認メタル場合ニモ監督權ヲ行ヒ且ツ自治團體ノ行爲ヲ有效ナラシムル爲或特定ノ場合ニ監督廳ノ認可ヲ必要ト爲シタルハ當ヲ得タルモノナリ
茲ニ一言注意スヘキハ自治團體ニ對スル監督ト自治團體ノ吏員ニ對スル監督トノ區別ナリ自治團體ニ對スル監督ハ官廳ニ對スル監督ト同ク其外部ニ對スル行爲ニ監督ナルモ懲戒處分ノ如キ自治團體ノ吏員ニ對スル監督ハ官吏ニ對スル監督ト同ク特別ノ權力關係ニ基ク吏員ノ一身上ノ服務義務ニ關スル監督ニ外ナラサルナリ

第二項 市町村ノ監督機關

自治團體ノ監督ハ國家統治權ノ作用ニシテ官廳之ニ當ルヲ原則トナスト雖モ時トシテ他ノ上級自治團體ノ機關ヲシテ之ニ當ラシムルコトナキニアラス此

市ニ對スル監督階級ニシテ町ニ對スル監督階級ニシテ村ニ對スル監督階級ニシテナリ

場合ニハ自治團體ノ機關モ官廳トシテ行動スルモノナルニヨリ國家監督ノ原則ニ背クモノニアラサルナリ

我市制町村制ニ依レハ市ノ監督機關ハ第一次ニ府縣知事第二次ニ内務大臣ニシテ町村ノ監督機關ハ第一次ニ郡長第二次ニ府縣知事第三次ニ内務大臣ナリ獨逸ニ於テハ町村ノ監督ハ州知事若クハ縣知事ヲ以テ最高機關ト爲シタル例ナキニアラサルニヨリ我町村制ノ最初ノ草案ニモ町村ハ人口ニヨリ大小ノ區別ヲ爲シ小町村ノ監督ハ第二次ノ府縣知事ヲ以テ最終ト爲シタルモ現行町村制ニハスヘテ町村ハ第三次ニ内務大臣之ヲ監督スルコトトナセリ此ノ如ク市モ町村モスヘテ内務大臣ニ於テ監督スルコトトナシタルハ自治行政ノ統一上當ヲ得タルモノナリ

右ニ述ヘタル監督官廳ハ市町村ノ普通ノ監督機關ニシテ尙其他特別ノ事務ニ就テハ他ノ官廳モ監督權ヲ行フモノトス例ハ市町村ノ財政事務ニツキ大藏大臣カ監督ヲ爲シ市町村ノ教育事務ニツキ文部大臣カ監督ヲ爲シ權利上ノ問題ニツキ行政裁判所カ監督權ヲ行フカ如シマタ市町村ノ監督機關ハ審ニ行政

官廳ノミナラス上級團體ノ機關即チ市ニ對シテ府縣參事會、町村ニ對シテ郡參事會、府縣參事會モ監督ヲ行フコトヲ定メタリ例ヘハ府縣參事會、郡參事會カ市町村ノ訴願ヲ裁決シ市町村會ノ議決ニ許可ヲ與フルカ如シ

第三項 市町村ニ對スル監督ノ方法

監督方法ヲ大別スレハ積極的監督及消極的監督ト自動的監督及他動的監督ト事前ノ監督及事後ノ監督トニ分類セララルモノナリ

第一 積極的監督及消極的監督

自治行政ノ目的ハ團體ニ公法上ノ人格ヲ認メ之ヲシテ國務ヲ自己ノ事務トシテ行ハシメントスルモノナルニヨリ自治團體ニ對スル監督ハ主トシテ消極的ナラサルヲ得ス併シ私法人ノ事務ハ國家ノ事務ナラサルニヨリ其事務自身ノ消長舉否ハ國家直接ノ利害關係ナシ從テ私法人ニ對スル國家ノ監督ハ全ク消極的ナルモ自治團體ノ事務ハ國務ニシテ其能ク行ハルルト否トハ國家ニ直接ニ影響スルニヨリ自治團體ニ對スル國家ノ監督ハ單ニ消極的ニ

自治團體ニ對スル監督ト私法人ニ對スル監督ト異ル

訴願、訴訟
由ヲ許ス理

止ラス時トシテ積極的ニ行フノ必要アリ故ニ我市制第一百十八條町村制第一百二十二條ニ於テモ強制豫算ノ制ヲ定メマタ市制第一百十九條町村制第一百二十三條ニ於テモ代決ノ制ヲ定メタリ

第二 自動的監督及他動的監督

自動的監督トハ監督廳カ進ンテ自治團體ノ意志行爲ヲ制限スルモノニシテ他動的監督トハ他ノ請求ニ應シ監督權ヲ行使スルヲ云フ例ヘハ監督官廳カ市町村會ノ決議ヲ違法若クハ害公益ト認メタル場合ニ其再議ヲ命スルハ自動的監督ニシテ人民ノ訴願、訴訟ノ提起ニ依リ市町村會ノ決議ヲ取消スハ他動的監督ナルカ如シ

元來行政行爲カ違法ナルトキハ訴願及行政訴訟ノ提起ヲ待タス自動的ニ之ヲ取消變更スヘキモノナレトモ特ニ訴願及行政訴訟ノ途ヲ設ケタルハ一ハ自動的監督ノ脱漏ヲ補ヒ一ハ人民ノ權利保護ヲ完フセントスルカ爲ナリ

第三 事前ノ監督及事後ノ監督

事前監督トハ執行前監督權ヲ用フルコトニシテ事後監督トハ著手後監督權

ヲ行フコトヲ指スモノナリ例ヘハ市町村ノ議決ニツキ監督廳カ認可ヲ與フルカ如キハ事前監督ニシテ理事者カ着手シタル議決ノ執行ヲ停止シテ再議ニ付セシムルカ如キハ事後監督ニ屬スルモノナリ而シテ事前ノ監督ハ之ヲ濫用スルトキハ自治ノ實ヲ害スルノ虞アルニヨリ成ルヘク事後監督ノ方法ヲ用フヘキモノナリト雖モ事後ニ於テ效力ヲ失ハシムルヲ以テ足レリトセス事前ニ制止スルノ必要アルモノナキニアラス例ヘハ市町村債ヲ起シ基本財産ヲ處分スルカ如キハ事前監督ヲ必要トスルモノニシテ若シ其決行後市町村ノ財政上ヨリ其不可ナルコトヲ認ムルモ如何トモスル能ハサルカ如シ我國ニテハ佛獨等ノ大陸制度ニ倣ヒ市町村等ノ自治團體ニ對スル監督ハ行政監督ニ止ルモ英國ニ於テハ或ハ國會監督及司法裁判所監督ヲ用フルナリ監督ノ眞ノ意義ハ不法不正ノ行爲ヲ矯正シ且ツ義務ノ履行ヲ強制スルニ止ルモ監督ヲ爲ス爲ニハ自治行政ノ狀況ヲ知ルコト必要ナルニ依ル廣義ノ監督權ノ中ニハ監視權ヲ包含ス依テ廣義ノ監督權作用ヲ舉クレハ左ノ如シ

第一 監視權 (Recht der Kenntnisaufnahme)

我國ニテハ議會監督及司法監督ヲ用ヒス

市町村ニ對シ積極的ノ行政ヲ命スルニハ明文ノ根據ヲ要ス

市町村ノ自治實況ヲ知ラサレハ監督ヲ爲シ十分ニ能ハサルニヨリ監督廳ハ市町村行政ノ實況ヲ視察シ若クハ視察セシメ且ツ市町村ヲシテ自治事務ニ關シ報告ヲ爲サシムルノ權ヲ有セサルヘカラス其監視權ニ關シテハ市制第一百十七條市制第二百二十二條ニ詳シク規定セリ或ハプロローヂイヒ氏ノ如ク積極的行爲(例ハ報告ヲ命スルニモ明文ヲ要セスト説ク人アルモ之ハ誤レリ何トナレハ裁判所カ職權ヲ以テ證據ヲ集ムルニ明文ヲ要スルカ如ク監督ヲ行フノ材料ヲ積極的ニ出サシムルニハ明文ヲ要スルコト勿論ナリ)

第二 指揮命令ヲ爲スノ權

上級官廳ハ常ニ下級官廳ニ對シ自由ニ指揮命令ヲ爲スコトヲ得ルモ自治團體ニ對スル監督ノ範圍ハ前ニ述ヘタル如ク法律ノ規定ニ依テ定マルモノナルニヨリ法律ノ根據ナクシテ監督廳ハ市町村ニ對シ指揮命令ヲ爲スコトヲ得ス且又法律カ監督廳ニ對シ其指揮命令權ヲ認ルモ單ニ法律勅令ニヨリ定リタル義務ヲ市町村ヲシテ執行セシムルニ止ムヘキモノニシテ監督廳ノ自由裁量ニヨリ指揮命令ヲ爲スコトヲ許スヘキモノニアラス若シ之ヲ許スト

キハ自治ノ實ヲ失フニ至ルヲ以テナリ(府縣制第百二十九條第二項參照)或ハ法律ノ根據ヲ有セサルモ監督廳ハ市町村ニ對シ法令ノ解釋ニ關スル訓令ヲ下シ得ルモノノ如ク解スルモノアリ其理由ハ監督者ノ解釋ハ被監督者ノ解釋ニ勝ルトノ原則ノ適用ニ外ナラスト云フニアリ下級官廳ハ上級官廳ノ命令ニ服從スルノ義務アルニヨリ官廳ノ監督ニ就テハ此原則ノ適用アルモ監督廳ト自治團體トノ關係ハ之ニ異ルニ依リ此原則ヲ適用スヘキモノニアラス從テ監督廳ノ法令ノ解釋カ市町村ヲ拘束スルニハ法律ノ根據ヲ要スルモノナリ

第三 取消權

市制第六十四條町村制第六十八條ニ依リ市町村會ノ議決其權限ヲ超ヘ法律命令ニ背キ又ハ公益ヲ害スルトキハ監督官廳ハ其執行ヲ停止シテ再議ヲ命シ得ルノミナラス尙其再議ヲ改メサルトキハ監督廳タル府縣參事會若クハ郡參事會ニ於テ其議決ヲ取消スコトヲ得併シ府縣參事會郡參事會ハ監督官廳ノ意見ニ拘束サルヘキモノニアラサルニヨリ監督官廳カ違法若クハ害公益ト認ムルモ府縣參事會郡參事會カ此ノ如ク認メサルトキハ其議決ヲ取消

監督廳ノ法令ノ解釋カ市町村ヲ拘束スルニハ法律ノ根據ヲ要ス

スノ必要ナキコト勿論ナリ

害公益ヲ理由トスル取消權ハ明文ヲ要スルモ違法ヲ理由トスル取消權ハ監督權ノ當然ノ作用ニシテ明文ヲ待タス蓋シ違法ナルモ尙之ヲ取消スコトヲ得サルトキハ國家行政ノ統一ヲ保チ得サルヲ以テナリ

違法ナルヤ否ハ解釋ノ問題ナルモ公益ヲ害スルヤ否ハ認定問題ナルニヨリ監督廳ハ之ヲ理由トシテ取消ス場合ニハ其濫用ニ陥ラサル様特別ノ注意ヲ要ス故ニ獨逸ノ新自治制度ニ於テハ之ヲ許ササルノ例ナキニアラサルナリ

第四 認可權

認可ハ市町村會議決ノ效力發生ヲ停止條件ニ係ラシムルモノニテ若シ其議決カ違法若クハ害公益ナルヲ理由トシテ(理由トシテ認可ヲ拒ムコトヲ得ス)監督廳ニ於テ認可ヲ與ヘサルトキハ其議決ハ始メヨリ效力ヲ生セサルニヨリ認可ハ監督權ノ作用トシテ嚴重ナル手段ノ一ナリ故ニ認可ハ監督權ノ當然ノ作用ニアラス法律カ特ニ認メタル場合ニ於テノミ監督廳ニ於テ認可ヲ用フルコトヲ得而シテ認可ヲ要スル市町村會ノ議決(他ノ機關カ代決シタル場合モ同様ニ認可)

スヲ要)ハ認可ヲ得テ始メテ其效力ヲ發生スルモノナルニヨリ妻ノ行爲ニ對スル夫ノ民法上ノ許可ノ場合ト異リ若シ認可ヲ受ケスシテ其議決ヲ執行スルトキハ單ニ取消シ得ヘキモノニアラスシテ全ク無効タルモノナリ例ヘハ市町村カ監督廳ノ認可ヲ受ケスシテ其所有ノ不動産ヲ賣却スルモ全ク賣買ノ效力ヲ發生セサルカ如シ

市制町村制カ認可ヲ要スト定メタルモノヲ列舉スレハ

一、内務大臣ノ認可ヲ必要トスルモノ

1. 市町村條例ノ設定及改正

此市町村條例ノ中ニハ市町村ニテ議決スルモノノミナラス府縣參事會、郡參事會ニテ議決スルモノヲモ含ム例ヘハ區會ニ關スル條例ノ如シ

2. 學藝、美術、歴史ニ關シ貴重ナル物品ノ賣却、讓與、質入、抵當、交換又ハ大ナル變更

二、内務、大藏兩大臣ノ認可ヲ必要トスルモノ

1. 起債及負債ノ増加(償還期間三年以内)

市制町村制ニ依リ監督廳ノ認可ヲ要スルモノ

- 2. 市町村特別税、使用料、手数料ノ新設、増額、若クハ變更
- 3. 制限外ノ附加税賦課
- 4. 間接國税附加税ノ賦課
- 5. 法律勅令ノ規定ニ依リ國庫ヨリ補助スル歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事

三、府縣參事會(市會ノ議決ニツキ)郡參事會(町村會ノ議決ニツキ)ノ認可ヲ必要トスルモノ

- 1. 市町村營造物ノ規則設定及改正
- 2. 基本財産ノ處分
- 3. 市町村不動産ノ賣却讓與質入抵當(交換ハ認可ヲ要セス)
- 4. 各個人使用ノ市町村有土地使用法ノ變更
- 5. 各種ノ保證ヲ與フルコト
- 6. 法律勅令ニ依テ負擔スル義務ニ非スシテ向五箇年以上ニ亘リ新ニ市町村住民ニ負擔ヲ課スルコト
- 7. 均一ノ税率ニ據ラスシテ國税、府縣税ニ附加税ヲ賦課スル事

8. 營造物修築保存ノ費用ヲ數個人又ハ市町村ノ一區ニ賦課スル事

9. 直接市町村税ノ準率ニ依ラスシテ夫役現品ヲ賦課スル事

市制第百十五條第二項町村制第百十九條第二項ハ特ニ認可權ノ委任ノ事ヲ規定シ市町村ノ行政ニ關シ主務大臣ノ認可ヲ要スヘキ事項中其輕易ナルモノハ勅令ノ規定ニ依リ其認可ノ職權ヲ府縣知事ニ委任シ得ルコトヲ明ニシタリ(明治三十三年勅令第二十號市町村行政ニ關シ主務大臣認可ノ職權ヲ府縣知事ニ委任ノ件參照)

第五 市町村機關ノ選任ニ參與スルノ權

市町村吏員ノ官吏ト異ル主點ハ統治者若クハ其委任ヲ受ケタル官廳ノ任命ニ依テ其地位ヲ得ルニアラスシテ其市町村ニヨリテ自ラ選任セララルニアリ町村長市町村助役市町村收入役カ市町村會ニ於テ選任セラレタル後府縣知事若クハ郡長ノ認可(郡長ノ認可ハ町村收入役ノみに係ル)ヲ必要トシマタ市長ハ市會推薦ノ三名ノ候補者中勅裁ニ依テ定マルモ其認可及裁可ハ任命行為ニアラスシテ監督權ノ作用ニ外ナラサルナリ裁可ハ別トシテ監督官廳カ此認可權ヲ濫用スルトキハ自治行政ハ自治團體カ自己ノ機關ヲ以テ自ラ治ムルノ精神ニ牴

認可及裁可ハ任命行為ニアラス

不認可ノ場合

觸スルコトトナルニヨリ前ニモ述ヘタル如ク其監督官廳カ町村長助役收入役ノ認可ヲ與ヘサルトキハ府縣參事會郡參事會ノ意見ヲ聞クコトヲ要スト定メ且町村長助役ノ不認可ニ對シ不服アルトキハ町村長又ハ町村會ハ內務大臣ニ認可ヲ請ヒ收入役ノ不認可ニ對シ不服アルトキハ町村長又ハ町村會ハ府縣知事ニ認可ヲ請フコトヲ得ルコトト爲セリ

第六 強制豫算

監督官廳ハ市制第百十八條町村制第百二十二條ニ依リ強制豫算ヲ命シ得ルノ權ヲ有スルモノニテ其強制豫算ノ權トハ市町村カ其必要ナル支出ヲ豫算中ニ記載セス又ハ豫算中ニ記載セルモノト雖モ臨時之ヲ支出セサル場合ニ於テ監督官廳カ自ラ必要ナル支出金額ヲ豫算中ニ記載シ又ハ自ラ支拂命令ヲ發シテ其支出ヲ爲サシムルコトヲ云フ
豫算ハ市町村制第百八條ニヨリ市町村會ノ議決ヲ經タル後監督官廳ニ報告スヘキモノナルニ依リ監督官廳ハ之ニ依テ必要ナル支出カ豫算ニ記載サルルヤ否ヤヲ見ルコトヲ得ルナリ

強制豫算ノ範圍

法律上ノ必要ノ支出ニ對シテハ監督廳ハ明文ヲ待タス監督權ノ當然ノ作用トシテ強制豫算ヲ命スルノ權ヲ有スルモ市隨意支出ニ對シテハ法律ノ特別ノ根據アルヲ要ス而シテ市町村制ニハ法律上ノ必要支出ニ對シテノミ(市制百十八條町村制第二百二十二條ニハ法律勅令ニ依テ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依テ命令スル處ノ支出ヲ定額豫算ニ載セス云々)強制豫算ヲ認ルモ隨意支出ニ對シテハ強制豫算ヲ認ルコトナキナリ

第七 代決議及代執行

監督官廳ハ自治行政事務ノ廢弛ニ歸スルコトヲ防止スルノ職責ヲ有スルモノナルニヨリ市町村ノ議決機關カ議決ヲ爲ササルトキハ府縣參事會郡參事會ニ於テ代決ヲ爲シ市町村ノ執行機關カ缺位ナルトキハ即市町村長助役收入役カ再度迄裁可認可ヲ得ルコト能ハサルトキハ裁可認可ヲ得ルニ至ルマテ監督官廳ハ臨時代理者ヲ選任シ又ハ市町村ノ費用ヲ以テ官吏ヲ派遣シ以テ其職務ヲ行ハシムルコトヲ得ルモノト爲セリ

第八 懲戒處分

前ニ述ヘタル如ク監督廳ノ市町村吏員ニ對スル懲戒權ハ單ニ市町村長ノミナラスヘテノ市町村吏員ニ及フモノナリ併シ之ハ當ヲ得タルモノニアラス市町村ハ國家ヨリ見レハ直接ノ機關ナレトモ市町村吏員ハ國家ヨリ見レハ間接ノ機關ナリ故ニ市町村内部ニ於テ懲戒スルヲ得サルモノ例ハ市町村長ノ如キハ監督廳ニ於テ懲戒スルノ必要アリト雖モ市町村長カ懲戒シ得ルモノハ監督廳ニ於テ懲戒セサルヲ寧ロ至當ト考フ然ルニ現行市制町村制ハ市町村長以下ノ吏員ハ市町村ニ於テ監督シ得ルニ拘ハラス尙府縣知事郡長ニ其懲戒權ヲ與ヘタリ之レ監督廳ノ懲戒權ヲ不當ニ擴張シタルモノト云フヘシ或ハ此ノ如ク爲ストキハ吏員カ其職責ヲ盡ササルニ拘ハラス尙市町村長カ情實上之ヲ等閑ニ付スルノ虞アリト考フルモノアルヘシト雖モ監督廳ハ市町村長ニ對スル懲戒權ヲ有スルニヨリ若シ市町村長カ其吏員ニ對スル懲戒上ノ責務ヲ怠ルトキハ之ヲ理由トシテ監督廳ハ市町村長ヲ懲戒スルヲ得ルニヨリ此ノ如キ虞ナシト信スルナリ

監督廳ニシテ市町村吏員ヲ懲戒セシムルハ當然ノ得タルモ

第九 解散權

市制第二百二十四條町村制第二百二十四條ニヨリ內務大臣ハ市町村會ヲ解散スル

解散ノ手續
ハ一層鄭重
スニ爲スヲ要
ス

コトヲ得併シ市町村會ハ市町村ノ主腦ナルニヨリ之ヲ解散スルニハ一層鄭重ナル手續ヲ執ルヲ必要ト考フ即府縣會ノ例ニ倣ヒ勅裁ヲ經ルコトヲ解散ノ要件ト爲スヘキナリ

解散ヲ命シタル場合ニ於テハ同時ニ三箇月以内ニ更ニ議員ヲ改選スヘキコトヲ命スルコトヲ要ス而シテ改選市町村會ノ集會マテハ府縣參事會、市會ニ代リ郡參事會、町村會ニ代リ一切ノ事件ヲ議決スルコトト定メラレタリ

第十 訴願及行政訴訟

市町村吏員ノ處分若クハ議決ニ對スル訴願及行政訴訟ニ就テハ市町村ノ事務ト國府縣郡ノ事務トノ間ニ區別ヲ立テサルヘカラス市町村長及其委任ヲ受ケタル吏員カ市制第七十四條町村制第六十九條ニヨリ行フ國府縣郡行政ノ事務ニ關シテハ訴願及行政訴訟ヲ許スト否トハ一般ノ法律勅令ニ從フモ市町村ノ事務ニ關シテハ訴願及行政訴訟ヲ爲シ得ル場合ヲ市制町村制ニ於テ特ニ定メタリ其例ヲ舉クレハ左ノ如シ

一、名譽職ヲ行ハサルモノニ對スル制裁(市制八條)

二、議員タルノ資格要件ノ有無失否(市制二十九條)

三、市住民及公民タルノ權利ノ有無選舉權及被選舉權ノ有無選舉人名簿ノ正否並其等級ノ當否代理ヲ以テ執行スル選舉權及市町村會議員選舉ノ效力(市制第三十五條)

四、市町村會議決執行ノ停止及再議(市制第六十四條)

五、市町村吏員ノ給料、退隱料、實費辨償及報酬ノ給與(市制七十八條)

六、市町村稅ノ賦課及市町村ノ營造物、市町村有財產並其所得使用ノ權利(市制百五條)

七、市町村吏員ノ懲戒裁判(市制第二百二十四條)

右列記ノ中(三)ノ訴願ハ市町村會之ヲ裁決シ(六)ノ訴願ハ市參事會、町村長ニ於テ之ヲ裁決スルコトニ定メラレタルニ依リ名ハ訴願ナルモ其實市町村機關ニ於テ裁決スルモノハ之ヲ訴願ト稱スルヲ得ス寧ロ異議ト唱フヘキナリ何トナレハ訴願ハ一方ニ於テ權利利益ノ被害者ニ對スル救濟手段ナルモ他ノ一方ニ於テハ行政處分ニ對スル監督手段ナルニ依リ上級行政廳ニ於テ裁決

市制町村制
ニ依リ訴願
行政訴訟
及許サレタ
ル場合

スヘキモノナリ然ルニ之ハ市町村ノ機關カ市町村ノ行爲カ果シテ反省スヘキモノナルヤ否ヲ決定スルニ外ナラサレハナリ固ヨリ大臣ノ處分ニ對シ大臣ニ訴願セシムル例アリト雖モ之ハ大臣ノ上級行政廳ナキカ爲ニ不得已コトナリト雖モ此場合ニハ市町村ノ上級監督廳アルニ拘ハラス市町村ノ機關カ自ラ裁決スルモノニテ之ト同一ニ論スルヲ得サルナリ故ニ府縣制第三十四條第三十七條第百十五條郡制第二十三條第二十六條第九十三條ニ於テハ府縣參事會郡參事會ノ決定ニ付スル選舉當選府縣稅ノ賦課郡費ノ分賦等ニ關スル不服ハ之ヲ訴願ト稱セスシテ異議ト名ツケタリ(北海道區制沖繩縣區制北海一級町村制二級町村制參)訴願及行政訴訟ニ關シテハ大體訴願法及行政訴訟法ノ規定ニ據ルヘキモノナルモ左ノ三點ニ關シ特別ノ規程アリ

一、 訴願及行政訴訟法提出ノ期限

訴願ハ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ十四日以内ニ提出スヘク(例外トシテ市町村賦課ニ關スル訴願ハ賦課令狀交付後三箇月以内)行政訴訟ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴セサルヘカラス(市制第六百二十條)

市ノ行政及
町村ノ行政
ノ意義

條町村制第
百二十條

市制第百十六條及町村制第百二十條第二項ノ市ノ行政、町村ノ行政ノ意義ニツキ一言スル必要アリ市制町村制ノ各章ノ題目ヲ見ルニ第一章總則第二章市會、町村會第三章市行政、町村行政第四章市有財產ノ管理、町村有財產ノ管理トアルニヨリ若シ市制第百十六條、町村制第百二十條ノ市ノ行政、町村ノ行政ノ意義カ市制、町村制第三章ノ市行政、町村行政ト同一ナルトキハ市町村會ノ選舉ニ關スル訴訟及行政訴訟ノ提出期限ハ市制第百十六條、町村制第百二十條ニ據ル能ハスシテ訴願法及行政裁判法ニ依ラサルヲ得サルノ結果ヲ生ス之レ果シテ市制、町村制ノ精神ニ適スルヤト云フニ市制第百十六條、町村制第百二十條第二項ノ但書ニ此法律中別ニ期限ヲ定ムルモノハ此限ニアラストアルモ此レ市町村稅賦課ニ關シ別ニ期限ヲ定メタルニ依リ專ラ夫ハ市制、町村制第四章ニ關スルモノニテ市制、町村制第三章ニ關係スル所ナシ然レハ右ノ如ク市制第百十六條、町村制第百二十條ノ市ノ行政、町村ノ行政ノ文字ト市制、町村制第三章ノ市行政、町村行政ノ文字トヲ

同一ニ解スルトキハ市制第百十六條及町村制第百二十條第二項ノ但書ハ無用ニ歸スルモノト云ハサルヲ得ス故ニ此點ヨリ考フルモ市制第百十六條町村制第百二十條ノ市ノ行政町村ノ行政ノ文字ハ廣ク市町村ノ自治行政ヲ指スモノト解釋スヘキナリ

二、 訴願ト行政訴訟トノ關係

我訴願及行政訴訟ノ制度ニ於ケル一般ノ原則ニ依レハ訴願ト行政訴訟トハ竝立ヲ許スモノニシテ只一旦上級行政官廳ニ訴願シタル以上ハ同一事件ニ關シ行政訴訟ヲ提起スルヲ得ストノ制限ヲ存スルノミナリ然ルニ市制第百十六條及町村制第百二十條ノ第四項ニ於テハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許シタル場合ニ於テハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得スト規定シ以テ訴願ト行政訴訟トハ竝立スルヲ許ササルコトヲ爲セリ故ニ國稅ノ賦課ニ就テハ訴願ヲ爲スモ行政訴訟ヲ提起スルモ自由ナリト雖モ市町村稅ノ賦課ニ就テハ行政訴訟ヲ提起スヘクシテ訴願ヲ爲スコトヲ得サルナリ

三、 處分及裁決執行ノ停止

訴願法及行政裁判法ニ於テハ訴願及行政訴訟提起ノ爲處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止セサルヲ原則ト爲スニ拘ハラス市制第百十六條及町村制第百二十條第五項ニ於テハ訴願及訴訟ノ提出アリタルトキハ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止スルヲ以テ原則ト爲セリ其原則ハ此ノ如ク相反スト雖モ何レニシテモ其反對ノ例外ヲ認ルニヨリ結局同一ニ歸着スルモノトス而シテ市制町村制ノ原則ノ例外ハ市町村稅ノ賦課市町村會議員選舉ノ效力其他市町村制第百五條及市制第三十五條町村制第三十七條ノ事項ニ關シ訴願及行政訴訟ノ提起アリタルトキニシテ此場合ニハ之カ爲ニ執行ヲ停止セサルナリ

要スルニ我現行制度上ノ監督方法ハ右ニ述フル如クナリト雖モ市町村ニ依テハ自治行政ヲ行フニ適セス地方當局者ヲシテ町村ノ行政ヲ能ク舉行セシメントスルトキハ盡ク町村長ヲシテ有給ト爲シ市ノ行政ヲ能ク舉行セシメントスルトキハ市參事會ヲ廢シ市長ヲシテ單獨ニ行政セシムルニ如カスト論スルニ至ラシメタルノミナラス實際自治體其者ノ腐敗ノ例ヲ見ルコト少ナカラサル

市制町村制
ニ於テハ
行政訴訟
及行政立
許ノ並立
訴願及行
政訴訟ノ
許サス

訴願及行政
訴訟ノ爲
提起又ハ
處分ノ執
行ヲ停止
セサルヲ
原則トス

ニ依リ或ハ或年限内自治體ニ對シ自治體剝奪ノ處分ヲ爲シ得ルノ規定ヲ設クヘシト論スルモノナキニアラス併シ之ハ重大ナル監督方法ナルニ依リ此ノ如キ規定ヲ設クルニハ十分ニ考慮スルヲ要スルナリ

第四項 市町村監督作用ニ對スル救濟手段

市若クハ町村カ訴ハルヤ爲シ得ル

市制第百十六條及町村制第百二十條第一項ニヨリ別段ノ規定アル場合ノ外凡市町村ノ行政ニ關スル監督應ノ處分若クハ裁決即府縣知事府縣參事會郡長郡參事會ノ處分若クハ裁決ニ對シ不服アルモノハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ルナリ之ニ關シ一ノ疑問トナレルハ市若クハ町村カ訴願ヲ爲シ得ルヤ否ヤノ點ナリ
市及町村ニ對スル監督作用カ其宜シキヲ得サルトキニ之ニ對スル救濟方法トシテ右ノ訴願ヲ許スモノナルニヨリ市及町村ニモ訴願權ヲ與フルコト至當ナリト雖モ市町村會ノ議決事項ニモマタ市參事會町村長ノ職務權限ニモ訴訟ノ

文字アルモ訴願ノ文字ナキニヨリ法ノ精神ハ市及町村ニ訴願ヲ爲スコトヲ許ササルモノナリト考ヘサルヲ得サルナリ
尙法文ノ意義ニツキ一言センニ市若クハ町村ノ行政ニ關スルモノトハ市町村ノ行ヒタル行政ニ關シテ府縣知事其他ノモノカ或處分ヲ爲シタル場合ヲ云フモノニシテ府縣知事其他ノモノカ市町村ノ行ヒタル行政ニ關係ナク國ノ處分トシテ初ヨリ自己單獨ニ爲シタル處分ヲ包含セサルコト勿論ナリ

第九節 郡

第一款 郡制定ノ沿革

大寶令ニ於テハ郡ヲ大郡上郡中郡下郡小郡ノ五級ト爲シ郡司ヲ置キテ所部ヲ撫養シ郡事ヲ檢察セシメタルカ其以後ニ至ルモ郡ハ行政區劃タリシニ止リ郡ヲ以テ自治團體ト爲シタルコトナシ然ルニ明治ニ至リ府縣及區町村ニ於テ府縣會及區町村會ヲ設ケ漸次自治ノ實ヲ舉クルコトト爲シ遂ニ明治二十一年市制町村制ヲ發布シテ市町村ノ自治制度ヲ確立シ以テ明治二十三年府縣制ヲ發

郡制ニ依
リ初メテ
郡ノ自治
體ハ爲レ

布シテ府縣ノ自治制度ヲ定メントシタリ茲ニ於テ府縣ト町村トノ間ニ介立スル郡ヲモ自治團體ト爲サントシ府縣制ト同時ニ郡ノ爲ニ郡制ヲ發布シタリ併シ郡ノ區劃大小一ナラス直ニスヘテノ郡ニ劃一的ニ郡制ヲ施行スルコト困難ナリシニ依リ郡制ハ府縣知事ノ具申ニ基キ内務大臣ニ於テ其施行時期ヲ定ムルコトト爲シ他ノ一方ニ於テハ郡制施行ノ準備トシテ郡ノ廢置分合及境界變更ヲ漸次行ヒタリ然ルニスヘテノ府縣ニ郡制ヲ施行スルニ及ハスシテ明治三十二年郡制ヲ改正シ其第二百二十條ニ於テ此ノ法律ハ明治二十三年法律第三十六號郡制ヲ施行シタル府縣ニハ明治三十二年七月一日ヨリ之ヲ施行シ其他ノ府縣ニ關スル施行ノ時期ト府縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣之ヲ定ムト規定シ今日ハ最早全國ニ郡制施行ヲ見サルナキニ至レリ郡ノ數ハ延喜式時代ニハ五百九十二ニシテ今日モ之ニ大差ナク五百四十五ナリ

第二款 郡制廢止ノ可否

第二十一回議會ニ於テ衆議院ヨリ郡制廢止案提出セラレタルモ政府ハ極力之

郡制廢止
ハ貴族院
ニ於テ反
對ヲ受ク

ニ反對シタリ程ナク内閣交迭シテ政友會内閣成立シ第二十二回議會ニハ政府ヨリ郡制廢止案ヲ提出シタリ衆議院ニ於テハ固ヨリ之ヲ可決シタルモ貴族院ニ於テハ會期切迫ノ爲其儘不議了トナレリ次ノ第二十三回議會ニ政府ハ再ヒ郡制廢止案ヲ提出シタリシカ衆議院ニ於テハ前回議會ノトキノ如ク固ヨリ之ヲ可決シタルモ貴族院ニテハ斷然之ヲ否決シタリ明治二十三年郡制ヲ初メテ制定セントスルニ當リテヤ保守的思想ヲ抱ケル官權主義ノ人カ之ニ反對シタルニ拘ハラス近時ノ郡制廢止案ハ却テ衆議院ヨリ顯ハレ其衆議院ニテ多數ヲ以テ可決シタルニ拘ハラス貴族院ニ於テ却テ排斥セラレタルハ奇ト云フヘシ此ノ如ク郡制廢止案ヲ衆議院ニ於テ發議シ多數ヲ以テ之ヲ可決シタルハ一ハ經費節減ノ名ヲ成スカ爲ナルヘシト雖モ一ハ郡長ニ關スル現制ニ反對スルカ爲ナリト信ス固ヨリ政府ハ郡制廢止ハ郡役所廢止ニアラスト聲言シタルモ衆議院ノ郡制廢止論者中ニハ郡役所廢合ノ必要ナルコトヲモ公言シタルモノ少ナカラス殊ニ衆議院カ郡制發布後年々郡長公選案ヲ議場ニ提出シタルヲ以テ見ルモ其後ノ理由カ主因ニアラサルヤヲ疑ハサルヲ得サルナリ

郡制廢止
論者ノ主張

其裏面ノ理由ハ兎ニ角郡制制定後十數年ヲ經過シ郡制ヲ全國ニ施行シタル後數年ヲ經過シタル今日ニ於テ郡制ヲ廢止セントスルニハ十分ナル理由ナカルヘカラス郡制制定當時ニ於テハ郡制發布ノ必要アリヤ否ヤヲ論スレハ足ルモ現行ノ郡制ヲ廢スルニハ之ヲ廢止セサルヘカラサルノ積極的理由ナカルヘカラス今郡制廢止案賛成者ノ廢止主張ノ理由ヲ見ルニ大要左ノ數點ニアリ

第一、地方自治體ハ之ヲ既往ノ實驗ニ徴シ將來ノ趨勢ニ察スルニ府縣ト市町村トノ二階級ニテ足レリ特ニ其中間ニ郡ナル自治體ヲ存置スルノ必要ヲ認メス

第二、地方自治ノ制ハ自治ノ實體ヲ具ヘテ然ル後之ヲ制定スヘキモノナリ然ルニ郡ハ古來ノ沿革上嘗テ自治體タリシコトナク又現在ノ實況ニ就テ之ヲ觀ルモ事業ノ見ルヘキモノ極メテ乏シク殆ント自治體タルノ實體ヲ具セサルニ依リ特ニ之ヲ自治區トシテ存スルノ必要ヲ認メス

第三、地方公共ノ事業ニシテ其性質竝ニ事件ノ大小等ニ依リ府縣事業ト爲スニ適セス又町村ノ事業ト爲スヲ得サルモノニ就テハ町村組合ヲ設ケテ之ヲ

處理セシムルヲ得ヘク或ハ水利組合等ヲ設ケテ處理セシムルヲ得ルニ依リ特ニ郡ナル自治區ヲ存置スルノ必要ヲ認メス

第四、郡制廢止ノ結果トシテ郡ノ複雜ナル機關ヲ廢スルトキハ郡長ヲシテ專ラ力ヲ町村監督ニ致サシメ以テ其事業ヲ改善セシムルコトヲ得

第五、町村ニ對スル監督ハ郡長ヲ以テ第一次ノ監督官應ト爲セルカ故ニ郡長ハ自ラ之ヲ專行セサルヘカラス然ルニ現今ハ郡長ハ郡參事會ト共ニ協同シテ町村監督權ヲ施行スルノ實アリ是ヲ以テ其監督ヲ完フスル能ハサルノ憾アリ若シ郡制ヲ廢止スルトキハ是等ノ不便ヲ全ク除去スルヲ得ルヲ以テ監督權ノ行使ヲ完フセシムルコトヲ得

第六、郡ヲ自治體ト爲ストキハ郡會郡參事會等ノ機關ヲ置カサルヘカラサルヲ以テ地方行政ノ複雜ヲ來シ且ツ多額ノ經費ヲ要シマタ議員ノ選舉ニ就テハ地方ノ紛擾ヲ招致シ之カ爲メ勞費ヲ要スルコト少ナカラス

第七、明治三十六年度郡費總額ハ五百三十六萬餘圓ナリシニ明治三十七年度ニ於テハ減シテ三百二十萬餘圓トナレリ是レ日露戰爭ノ爲メ殊ニ減額シタ

郡制廢止
ノ反對論者
ノ主張

ルモノナリ今明治三十八年度ニ於ケル郡費ニ就キテ之ヲ見ルニ其中郡事業費ト認メ得ヘキモノハ百六十萬圓ニシテ其他ハ補助費事務費ニ屬スヘキモノナリ故ニ是等不生産的ノ費用ハ郡制廢止ニ依リ消滅セシムヘキモノトス而シテ之ニ對シ反對論者ノ主張シタル所ハ大略次ノ諸點ニアリタリ

第一 廢止論者ハ實驗ニ徴シテ郡制必要ナラスト云フモ郡制ヲ全國ニ施行シタルハ明治三十三年ニシテ全國内ノ郡制施行ノ經驗ハ僅ニ數年ニ過キス故ニ之ニ依リテ不必要ナルコトヲ斷スルヲ得サルノミナラス郡費ノ總額明治三十三年ニハ殆ント四百萬圓明治三十六年ニハ五百三十萬圓明治三十八年ニハ日露戰爭ノ影響ヲ受ケタルモ猶其額三百二十萬圓ニ達ス之ヲ以テ見ルモ郡ニ自治制ヲ施クノ必要ナシト云フヲ得ス

第二 廢止論者ハ郡ニ自治體タルノ沿革ナキニヨリ之ヲ自治體トシテ存置スルノ必要ナシト云フモ府縣モ古來ノ沿革上嘗テ自治體タリシコトナク府縣會規則及地方稅規則施行後稍々自治ノ形ヲ備ヘタルニ過キサルモノナルニ依リ此論旨ヲ以テスレハ府縣制モ廢止スヘシト云ハサルヲ得サルニ至ラン

第三 廢止論者ハ郡ノ事業ハ之ヲ府縣若クハ町村組合ニ移スヲ得ルニヨリ郡ノ必要ヲ認メスト云フモ若シ郡ノ事業ヲ府縣ニ移ストセンカ郡ノ事業ハ元來一局部ノ利益關係ノモノナルニヨリ府縣會ノ同意ヲ得テ其事業ヲ繼續スルコト困難ナルヘク若シ府縣會カ其事業ヲ存立セシムルトスルモ利益交換、縣費濫用、不急事業勃興ノ弊ヲ生スルヤ必セリマタ之ヲ町村組合ニ移ストキハ各事業毎ニ別ノ組合ヲ必要トシ其結果一郡内ニ數組合ヲ生シ一郡統一ノ下ニ處理スルニ比シ一層煩雜ニシテ多額ノ事務費ヲ要スルニ至ルヘシ

第四 廢止論者ハ郡長ノ町村ノ監督不行届ノ原因ヲ郡ノ複雜ナル機關ノ存在ニ歸スルモ之ハ誤レリ郡長ノ町村ニ對スル監督行届カサルハ(一)郡長ノ人選其宜シキヲ得サルコト(二)町村長ヲシテ府縣郡ノ議員、參事會員ノ職ヲ兼ヌルヲ許スニアリ故ニ郡長ヲシテ町村監督ヲ十分ナサシメントスルトキハ郡長ノ待遇ヲ改善シテ適材ヲ求メ且町村長カ府縣郡ノ議員、參事會員ヲ兼任スルヲ禁シテ忌憚ナク町村長ヲ督責スルヲ得セシムルニアリ若シ然ランニハ郡ニ所謂複雜ナル機關存スルモ町村監督ノ實ヲ舉ケ得サルノ理由ナキモノト

第五 廢止論者ハ郡參事會アルカ爲ニ郡長カ町村監督ニ力ヲ專ニスル能ハスト云フモ之ハ府縣知事ハ府縣參事會アル爲ニ内務大臣ハ帝國議會アル爲ニ力ヲ監督ニ專ニスル能ハスト云フト同一筆法ニシテ其眞ノ理由ヲ解スルヲ得ス

第六 廢止論者ハ郡ヲ自治體ト爲ストキハ郡會郡參事會ノ設置ヲ必要トシ從テ多額ノ經費ヲ要スト云フモ此論鋒ヲ以テスレハ市町村府縣ノ自治モ廢スヘク帝國議會モ廢止スヘシト論セサルヲ得サルニ至ル元來郡會郡參事會ノ要否ハ郡制ノ要否ニ伴フモノナルニヨリ郡會郡參事會ノ存置スヘカラサルヲ理由トシテ郡制ノ廢止ヲ主張スルモ郡制必要ナラサルカ故ニ郡制廢スヘシト云フニ異ラサルモノトス

第七 廢止論者ハ郡事業費ト認メ得ヘキモノハ百六十四萬圓ニシテ其他ハ補助事業費ニ屬スヘキモノニシテ不生産的ノ費用ナリト云フモ明治三十八年度ノ郡費豫算ヲ見ルニ

一 會議費	三五一、六三六圓	(明治四十四年度)	四五四、三四五圓
一 土木費	五二九、四五四	(同)	一九七六、九四五
一 教育費	四九七、一八六	(同)	一、三一八、五八九
一 勸業費	五〇七、一九三	(同)	一、〇八八、一〇二
一 衛生費及病院費	一一四、六〇二	(同)	一五一、七四一
一 土木補助費	七六、九二四	(同)	四五二、一九二
一 教育補助費	一〇八、九八一	(同)	三〇七、四二〇
一 勸業補助費	四五三、九〇九	(同)	九七〇、二二七
一 衛生及病院補助費	一五、六六九	(同)	三五、七一〇
一 徵發費	二五四、三二	(同)	二、一二四
一 積立金	一二九、五一二	(同)	一三七、六六四
一 其他諸費	四〇四、二九四		
總計	三二一四、七九二		

ニシテ其中土木、教育、勸業、衛生諸費以外ノモノカ全然郡制廢止後不用ニ歸ス

ルヤト云フニ決シテ然ラス

一、會議費 三十五萬圓餘

新ニ町村組合ヲ組織シテ郡ノ事業ヲ行ハシムルトキハ其組合ノ會議費ノミナラス組合ノ事業費ヲモ要ス故ニ郡制ヲ廢スルモ此費用ハ全然不用トナルモノニアラス

二、補助費 六十五萬圓餘

補助費トシテ全然不用ナレハ今日ニ於テモ郡ニ對スル監督權ヲ以テ之ヲ節約シ得若シ必要ノモノナレハ郡制廢止後モ府縣若クハ國庫ヨリ之ヲ補助スルノ必要生ス

三、徵發費 二萬圓餘

之ハ郡制ヲ廢止スルモ不用ニ歸スルモノニアラス

四、積立金 十二萬圓餘

之ハ消費スルモノニアラサルニヨリ郡制廢止ノ爲ニ利益トナルモノニアラス

五、其他諸費 四十萬圓餘

此中ニハ郡會議員選舉費ノ如キ郡制廢止ノ結果全然不用ニ歸スルモノアルヘシト雖モ郡金庫費ノ如キハ新ニ町村組合ヲ設クレハ其金庫費必要トナリマタ豫備費ノ如キハ直接支出ノ費目ニアラサルニヨリ郡制廢止ノ爲ニ節約トナルヘキモノニアラス故ニ郡制廢止ノ爲ニ不用トナルモノハ此費用ノ中ノ一部ニ過キス

然レハ百六十萬圓餘ノ事業費以外ノ郡費ハスヘテ不生産的ニシテ郡制廢止ト共ニ消滅ニ歸スヘキモノナリトノ廢止論者ノ主張ハ粗雜ナリトノ非難ヲ免ルヲ得ス

第八 尙其他廢止論者ノ中ニハ郡アルカ爲ニ不用ナル學校ヲ興シ其結果中學校、實業學校等ニシテ其設備不完全ナルモノ少ナカラス之レ畢竟無用ナル郡制存スルカ爲ナリト論スルモノアルモ明治三十八年度ノ郡豫算ニ依レハ郡費ヲ以テ設立セラレタル校數及其經費ハ左ノ如クニシテ教育ノ爲ニ貢獻スル所少ナカラス若シ郡制ヲ廢止スルトキハ其中消滅ニ歸スルモノ多々アル

ヘク若シ從來ノ郡ノ學校カ無事ニ府縣及町村組合ニ繼續スルトスルモ乙種ノ實業學校ノ如キハ將來容易ニ設立セラレサルヘシ之レ教育行政ノ爲惜ムヘキコトナリ廢止論者ハ郡アルカ爲ニ無用不完全ノ學校設立サルルト云フモ之ハ監督官廳ノ監督不行屆ノ結果ニシテ郡制存置ノ罪ニアラサルナリ

教育事業	數	經費
一 圖書館	二	四、三二七圓
一 女子技藝學校	一	四、〇七六圓
一 蠶業學校	五	一九、九七四圓
一 工業徒弟學校	二	六、二四二圓
一 高等女學校	一	九〇、五二四圓
一 染織學校	七	二七、五五八圓
一 中學校	五	三九、六九九圓
一 水産學校	三	一四、三三三圓
一 航海學校	一	九、九九九圓

一 農林學校	七	三六、三一六圓
一 農學校	二七	一一、二四一六圓
一 商船學校	二	二〇、〇〇四圓
一 職業學校	二	一〇、五六七圓
一 山林學校	一	六、六五七圓
一 實業學校	三	一三、七〇五圓
一 實業補習學校	四	一三、六八五圓

經費總計四十三萬八十二圓也

郡制廢止案カ議會ニ提出セラレタルトキノ贊否ノ論旨大略右ノ如シ今日新ニ郡制ヲ制定スルノ可否ニ至リテハ予輩マタ別ニ説アリト雖モ現存スルノ郡制ヲ廢止スルニハ五百餘ノ自治團體ノ存廢ニ關スルニ依リ廢止論者ノ主唱以上ノ根據ヲ要ス廢止論者主張ノ理由ニヨリ郡制ノ必要ナルコトヲ見ルヲ得ルモ廢止セサルヘカラサルノ必要ニ至リテハ其理由極メテ乏シ町村監督經費節減ノ二點ハ稍其理由ト見ルヲ得ルモ町村監督ノ點ハ廢止反對論者ノ唱フル如ク

郡制ヲ主張スルハ
止テ主張スルハ
郡制ニ存
置スルハ
ナキハ何
リヤナク
リヤナク
要明スル
テ

郡制ヲ廢止セサルモ其實ヲ舉クルヲ得ヘクマタ經費節減ノ點ハ郡事業カ府縣及町村組合ニ於テ能ク遂行セラルルヤ否ニ關係スルモノニシテ予輩ハ郡制ヲ廢止スレハ郡事業ノ大半ハ頽廢ニ歸スルコトヲ虞ルルニヨリ右ノ理由ニ賛成シテ郡制ヲ廢止スルコトニ賛成スルヲ得サルナリ併シ事實ニ於テハ郡事業ノ中ニハ必要ニ迫ラレタルニアラス郡制アルカ爲已ムヲ得ス企劃シタリト認メラルルモノナキニアラサルニヨリ之ハ今後モ郡ノ監督廳ニ於テ十分監督スルノ必要アルコト勿論ナリ

茲ニ尙之ニ關聯スル一ノ問題アリ即將來町村ノ合併ヲ大ニ行ヒ今日一萬有餘ノ町村ヲ二三千ニ減シテモ尙ホ郡制ノ必要アリヤ否ヤノ點ナリ若シ此ノ如ク町村ヲ減少スルトキハ町村ト府縣トノ間ニ郡ナル自治團體ヲ存置セシムル必要ナシト雖モ固ト町村ノ自治ハ隣保共同ノ精神ニ基クモノニテ町村制第三條ニモ「町村ハ從來ノ區域ヲ存シテ之ヲ變更セス」トアルモノナルニヨリ濫リニ町村ノ合併ヲ企ツヘキモノニアラス然レハ一萬數千ノ町村カ容易ニ二三千ニ減少スルコトアルヘカラス故ニ此ノ如キ問題ハ數十年後ニ研究スルモ未タ遲シト爲ササルナリ

ト爲ササルナリ

佛國

終リニ歐洲ノ自治團體ノ階級ヲ參考ノ爲ニ述ヘンニ佛國ニ於テハ行政區劃ヲ縣 (Departement) 郡 (Arrondissement) 郷 (Canton) 町村 (Commune) ノ四階級ニ分テタルモ

普國

其中自治團體タルハ縣及町村ノ二級ニシテ郡ハ郡會ヲ有スルモ自治團體トシテ公法上ノ人格ヲ有スルモノニアラス普國ニ於テハ行政區劃ハ州 (Provinz) 縣 (Regierungs bezirk) 郡 (Kreis) 市 (Stadtkreis) 町 (Stadtgemeinde) 村 (Landgemeinde) ニ分タレ縣ノ上ニ州アルノ外我國制ニ同キモ其中自治團體タルモノハ州郡市町村ニテ縣ニ縣參事會アルモ公法上ノ人格ヲ有セサルナリ我國ノ自治制度ハ大體普國ノ制度ニ倣ヒタルモ普國ニテハ縣ノ上ニ州アリ而シテ州ノ數ハ十二ニシテ縣ノ數ハ三十五ナルニヨリ州ヲ最高自治團體トナシ縣ヲ單ニ行政區劃タルニ止メタルモノナリ

英國

英國ニ於テハ十九世紀ノ終ニ縣 (County) ト町村 (Parish) トノ間ニ郡 (County-district) ヲ設ケ從來改良法區 (Improvements-district) 衛生區 (Sanitary-district) 道路區 (Highway-district) ニテ處理セシ事務ヲ此郡ニテ取扱フコトト爲セリ固ヨリ英國ニテハ其他區及

組合ト名クル特別ノ團體成立スルモ大體ニ於テハ三段ノ自治組織ヲ爲セルコト我國ト同キナリ

第三款 郡ノ廢置分合

現今各國一般ニ行ハルル制度ニ依レハ地方公共事務ヲ行フ爲ニ自治團體ヲ設クルトキハ其區域ヲ國ノ行政區劃ト一致セシムルヲ普通ノ例トス故ニ我國ニテモ市町村郡府縣ヲ通シテスヘテ此原則ニヨリ一方ニ於テ自治團體ノ區域ト爲スト共ニ他ノ一方ニ於テ國ノ行政區劃ト爲スモノトス從テ郡ト云ヘハ公法上ノ人格ヲ有スル自治團體ヲ意味スルト共ニマタ國ノ行政官廳タル郡長ノ所管ニ屬スル行政區劃ヲ指示スルモノナリ

行政區劃ノ廢置分合ハ勅令ヲ以テ實行シ得ルモ自治團體ノ廢置分合ハ法ノ認メタル人格ノ消長ニ關スルニヨリ法律ノ根據アルニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス併シ廢置分合其モノヲ法律ヲ以テ定ムルノ必要ナシ蓋シ廢置分合ハ一ノ行政行爲ニシテ法規ヲ設クルコトニアラサレハナリ然ルニ我郡制第三條ニ

自治團體ノ區域ハ同時ニ國ノ行政區劃タリ

郡ノ廢置分合ハ法律ヲ以テスルヲ要ス

ハ郡ノ廢置分合ヲ要スルトキハ法律ヲ以テ之ヲ定ムト規定シタリ其理由ハ恐ラク郡ノ如キ大ナル自治團體ハ町村ノ如ク行政機關ニ依テ自由ニ廢置分合ヲ許スヘキモノニアラストノ主旨ニ出タルモノナルヘシト雖モ市ハ東京京都大阪ノ如キ大市ナルモ尙ホ其廢置分合ヲ府縣參事會ニテ決議シ得ルニ拘ハラス郡ハ大小ヲ問ハススヘテ法律ヲ以テ廢置分合スヘシト爲スハ權衡上當ヲ得タルモノニアラス故ニ予輩ハ府縣ハ兎ニ角郡ハ市ト同一ノ手續ヲ以テ廢置分合スルコトヲ許スヘキモノト考フルナリ

此ノ如ク郡ノ廢置分合ハ法律ヲ以テ定ムルヲ要スルニヨリ郡制廢止案ノ議會ニ提出セラレタルトキ裏面ノ理由トシテ「内務當局者ノ意ハ郡制ヲ存在セシムルニアルモ現今郡數巨多ニシテ冗費多ク交通ノ便開ケタル今日ノ事情ニ適セス此冗費ヲ節スルニハ郡ノ廢合ヲ行ハサルヘカラス併シ郡制ノ存在スル限リハ郡ノ廢合ハ法律ヲ以テ定メサルヲ得ス而シテ利害關係上郡ノ廢合ニ關スル法律ハ衆議院ヲ通過スルコト難シ故ニ郡制ヲ犧牲トシテ之ヲ廢止シ郡ヲ一ツノ行政區劃ト爲シ勅令ノ範圍ニ歸シテ以テ大ニ郡數ヲ減少セントスルニアリ」

トノ說一般ニ傳ハリタリ其真相ノ如何ヲ知ラスト雖モ現行郡制ノ下ニ於テハ郡ノ廢置分合ノ容易ニ行ハレサルコトハ疑ヲ容レサルナリ

第四款 郡ノ要素

第一項 郡ノ住民

現行郡制ニハ郡住民ニ關スル規定ヲ全ク缺クニヨリ郡ノ要素ハ町村ニシテ住民ヲ以テ其要素ト爲ササルモノノ如ク考ヘラルルト雖モ我郡制制定ノ參考トナリシ普國ノ郡制ニ於テモ郡ノ人的基礎ハ町村及私領區ニアラスシテ郡内ノ住民ナルニヨリ我郡制ノ精神モ郡ノ住民ヲ以テ其人的要素ト爲スモノト考フルナリ

郡ノ組織要素ハ町村ニシテ住民ナリ

第二項 郡ノ區域

郡ノ區域ハ前ニ市村ノ區域ニ就テモ述ヘタル如ク郡ノ自治權ノ行ハルル區域ニシテ其效果トシテ積極的ニ云ヘハ郡内居住者ハ住民タルト一時ノ滯在者

郡ト市トハ相對立ス

タルトヲ問ハス其支配ヲ受ケ消極的ニ云ヘハ他郡市ノ自治權ハ絕對ニ其區域ニ侵入スルコトヲ排斥セラルルモノトス(此點ヲ國ノ領土ニ於ケルト同シ)故ニ嚴格ニ論スレハ他ノ郡市ノ役所及營造物ハ之ヲ他郡ニ設置スルコトヲ許ササルナリ
郡ノ區域ニ就テハ郡制第一條ニ「郡ハ從來ノ區域ニ依リ町村ヲ包括ス」ト規定シ而シテ市制第一條ニ「此法律(市制)ハ市街地ニシテ郡ノ區域ニ屬セス」トアリマタ府縣制第一條ニハ府縣ハ從來ノ區域ニ依リ郡市及島嶼ヲ包括ス」トアルニヨリ郡ト市トハ相對立スルモノニテ互ニ相包括スルモノニアラサルナリ
郡ノ境界變更ハ其廢置分合ノ場合ト同シク法律ヲ以テ定ムヘキモノト規定セラル之マタ理論上ヨリ云ヘハ行政行爲ヲ以テ爲シ得ヘク法規ノ設定ヲ要セサルモノナリト雖モ法律ヲ必要トシタルハ廢置分合ヲ法律ヲ以テ定ムルコトト爲シタルト同一ノ理由ニ出ツルモノナリ併シ之ニ例外アリテ郡制第三條第二項ニ郡ノ境界ニ涉リテ市町村境界ノ變更アリタルトキハ郡ノ境界モ亦自ラ變更ス町村ヲ變シテ市ト爲シ若ハ市ヲ變シテ町村ト爲シ又ハ所屬未定地ヲ町村ノ區域ニ編入シタルトキ亦同シト規定セラレ郡ノ境界ニ他動的ニ變更サルヘ

キ場合ニハ法律ヲ要セサルコトト爲サレタリ

郡ノ廢置分合及境界ノ變更ノ處分ニツキ財產處分ヲ要スルトキハ内務大臣ハ關係アル府縣郡市參事會及町村會ノ意見ヲ徵シテ之ヲ定ムルナリ

第三項 自治權

郡ノ自治權ハ市町村ノ自治權ニ比シ左ノ點ニ於テ其範圍狹キモノトス

第一 郡長ハ官吏ニシテ郡ニ於テ公選スルモノニアラス

自治ノ本旨ヨリ云ヘハ屢々述ヘタル如ク自己ノ機關ヲ以テ自己ノ事務ヲ處理スヘキモノナルニヨリ郡ヲ自治團體ト爲ス以上ハ之ヲ公選ト爲スヘキモノナリト雖モマタ一方ヨリ云ヘハ郡ハ町村ヨリ大ナルニヨリ郡ノ行政カ市町村ノ行政ニ比較シテ國家全般ノ利害ニ關係ヲ及ホスコト多シ從テ郡ニ對シテハ市町村ニ對スルモ自治ノ分子ヲ多ク加味シテ自治權ノ範圍ヲ制限シ以テ國家全般ノ利益ヲ保護スルノ必要アリ故ニ郡長ヲ公選ト爲サスシテ官吏ヲ用ヒタルナリ郡制施行後屢々郡長公選ノ議生シタルモ行ハレスシテ依

郡長ヲ官
吏ト爲シ
タル理由

然トシテ官吏郡長ノ制今日ニ行ハルルモノナリ

第二 郡條例ヲ發行スルコトヲ得ス

市町村制ニハ市町村ノ事務及市町村住民ノ權利義務ニ關シ市町村條例ヲ發シ得ルコトヲ規定セリト雖モ郡制ニ於テハ之ニ關シ毫モ規定スル處ナシ或ハ郡條例ノ規定ナキモ郡ハ其自治權ヲ以テ法規ヲ發シ得サルノ理由ナシ今日現存スル郡令ノ中ニモ郡長カ地方官應ノ資格ヲ以テ發シタル郡令ト自治團體タル郡ノ機關トシテ發シタル郡令トノ二種アリトノ見解ヲ有スルモノナキニアラスト雖モ郡長カ果シテ郡ノ機關トシテ廣ク郡令ヲ發シ得ルヤ否ヤニ就テハ疑ナキヲ得ス郡制第七十九條ニ郡ノ事務ニ關スル處務規程ハ郡長之ヲ定ムト規定シタルモ之ハ明文ヲ俟タサルコトニテ郡長ハ法律ノ根據ナクシテ處務規程ヲ定メ得ルモノナリ蓋シ處務規程ハ機關内部ノコトニシテ内部統一ノ責務ヲ有スルモノニ於テ之ヲ定メ得ルハ當然ノコトナレハナリ此ノ如キ當然ノコトヲ一方ニ規定シ乍ラ郡條例若クハ郡令ヲ發シ得ルコトニツキ何等ノ規定ヲ設ケサルヲ以テ見レハ寧ロ反對ニ之ヲ發シ得スト論定セサルヲ得サルナリ

郡長ハ明
文ヲ俟タ
スシテ處
務規程ヲ
定メ得

第三 名譽職ヲ以テ郡ノ行政廳ヲ組織セス

郡參事會
ハ行政機
關ニアラ
ス

名譽職ヲ以テ行政セシムルコトハ自治ノ要素ニアラスト雖モ成ルヘク名譽職ヲシテ行政ヲ爲サシムルハ自治ノ本旨ニ適合スルモノナルコトハ已ニ之ヲ述ヘタリ故ニ町村ニ於テハ町村長ヲ名譽職ト爲シ市ニ於テハ市長ヲ有給職ト爲スモ尙ホ市參事會ト云フ合議體ヲ以テ市ノ行政機關ト爲シ其合議體ヲ組織スル多數ノモノハ之ヲ名譽職ト爲シタリ而シテ郡ニ於テモ主トシテ名譽職ヲ以テ組織スル郡參事會ナルモノアルモ之ハ一ノ議決機關タルニ止リ郡ノ行政廳ハ單獨體ニシテ郡長ノミヲ以テ之ヲ組織セリ此ノ如ク名譽職ヲシテ郡ノ行政廳ノ組織ニ關係セシメサルハ即郡民ノ參與權ヲ制限スルモノト云フヘキナリ

第四 郡ノ議決機關ハ只法カ特ニ其權限ニ屬セシメタル事項ヲ議決スルニ過キス

郡ノ議決機關ハ市町村ノ議決機關タル市町村會ニ比シテ其權限狹シ其狹キ點ヲ云ヘハ市町村ノ議決機關タル市町村會ハ專ラ市町村ノ意思ヲ作成スル

郡ノ議決
機關ハ郡
會及郡參
事會ナリ

モノニテ反對ノ規定ナキ以上ハ市町村ニ關スルスヘテノコトヲ議スルノ權限ヲ有シ市町村ノ行政機關ハ只其議決ヲ外部ニ施行スルニ過キサレトモ郡ノ議決機關ハ特ニ列記シタル事項ノミヲ議決スルノ權限ヲ有スルニ止リ其以外ノコトハ行政機關カ自己ノ意思ノミヲ以テ之ヲ外部ニ施行スルコトヲ得ルモノナリ

此ノ如ク郡民ノ選舉ニ係ル議決機關ノ權限狹キハ法カ郡ニ對シテ市町村ニ於ケルカ如キ廣キ自治權ヲ認メサルヲ見ルニ足ルナリ

第五款 郡ノ機關

第一項 議決機關

議決機關トハ團體ノ意思ヲ作ルコトニ參與スル機關ニシテ行政機關ニ對スルモノナリ而シテ郡ノ議決機關ハ郡會及郡參事會ナリ

第一目 郡會

第一 郡會ノ組織

一、選舉方法

郡會選舉議員ノ基礎ハ町村公民タルニシテ

複選制度ヲ用ヒシ

郡會ハ郡會議員ヨリ組織セラレ其議員ハ郡民ノ選舉ニ依リテ出ツルモノナリ明治二十三年ノ郡會議員ノ選舉方法ハ普國ノ郡會議員選舉ノ如ク複選即間接選舉ニシテ町村會ニ於テ之ヲ選舉シタリシヲ明治三十二年ノ郡制即現行郡制ハ之ヲ直接選舉ニ改メ郡内ノ町村公民ニシテ町村會議員ノ選舉權ヲ有シ且其郡内ニ於テ一年以來直接國稅年額三圓以上ヲ納ムルモノカ郡會議員ヲ選舉スルコトト爲セリ

前ノ郡制ニ於テ複選制度ヲ採リタルハ左ノ理由ニ基キシモノナリ

1. 選舉ノ手數ト費用トヲ省ク
2. 町村會議員ハ一般人民ニ比較シテ選舉上ノ智識ヲ有スルニヨリ議員トシテノ適材ヲ選出スルノ望多シ
3. 町村會議員ハ其地位ノ上ヨリシテ選舉ノ通弊ナル賄賂脅迫ヲ生セシムルコトナシ

複選制度ヲ廢セシ理由

然ルニ前ノ郡制施行後衆議院ヨリ屢々複選廢止ノ議ヲ出シ政府ハ常ニ之ニ反對シ來リタリ然ルニ明治三十二年ノ郡制改正ニ當リ政府モ複選說ヲ棄テ其結果遂ニ直接選舉ト改マリタルモノトス而シテ其複選廢止主張ノ理由ハ左ノ點ニアリシナリ

1. 複選ハ人民ノ意思ニ反スルノ結果ヲ生スルコトアルヲ免レス
2. 複選ハ町村會議員ノ競争ヲ激烈ナラシメ政黨ノ弊ヲ町村ニマテ波及セシム
3. 複選ハ人民ヲシテ公共事務ニ冷淡ナラシム

元來間接選舉ハ選舉人ノ智識ノ程度極メテ低キ時代ニ於テハ必要ノコトナリト雖モ選舉人ノ智識一般ニ上進シテ各選舉人カ選舉權ヲ自ラ行フヲ得ルノ時代ニ至リテハ議員選舉ノ爲ニハ直接選舉ヲ用フルヲ至當トス固ヨリ今日ニ於テモ市參事會員郡參事會員府縣參事會員等ヲ市會郡會府縣會ニ於テ選舉スルノ例アリト雖モ此等ノモノハ行政事務ニ關係スルモノニシテ其地位一般議員ト異ルニヨリ別ノ理由ニ依テ然ルモノナレハ一律

尙前ノ郡制ニ於テハ町村會選出ノ議員ノ外大地主議員ナルモノヲ有シタリ大地主トハ郡内ニテ一萬圓以上ノ地價ノ土地ヲ有スルモノヲ指シタルモノニテ郡會議員總數ノ三分ノ一ハ此大地主ノ互選ニ係ルヘキモノト爲シタルナリ抑モ大地主議員ノ制度ハ普國郡制ヲ模範トシタルモノニテ其立法上ノ目的ハ等級選舉ノ制度ト同ク多額ノ納稅負擔者ニ多クノ選舉上ノ權利ヲ與ヘントスルモノナリト雖モ尙ホ其他普國ニ於テハ大地主カ嘗テ行政權司法權ヲ有シタリシ歴史ヲ無視スル能ハサルノ結果ニ出テタルモノナリ而シテ此後ノ理由ハ我國ニテハ適用ナキコトナルニヨリ我郡ノ大地主非難生議員ノ制度ハ徒ラニ外國ノ制度ヲ模倣シタルモノナリトシ且實際ニ於テ一夜作りノ大地主生スルノ惡弊ヲ發シタルカ爲大地主議員廢止ノ案ハ複選廢止ノ案ト共ニ年々議場ニ現ハレ遂ニ現行郡制ニ於テ此大地主議員モ廢セララルルニ至リタルモノナリ又我市町村會議員ノ選舉ハ前ニモ述ヘタル如ク等級選舉ノ方法ヲ用フル

ニ拘ハラズ現行制度ノ郡會議員ノ選舉ハ府縣會議員衆議院議員ノ選舉方法ト同シク平等選舉ノ方法ニ依ルコトトナセリ故ニ選舉人ノ間ニ階級ヲ設ケサルノミナラス一人一票ノ制ナリ

二 選舉區

郡會議員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉スルモノニテ其選舉區ハ原則トシテ町村ノ區域ニ依ル併シ特別ノ事情アレハ郡長ハ郡會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ得テ數町村ノ區域ヲ以テ一選舉區ト爲スコトヲ得ルナリ又町村組合ニシテ町村事務全部ヲ共同處理スルモノハ選舉區ニツキ之ヲ一町村ト看做スモノナリ

各選舉區ニ於テ選舉スヘキ郡會議員ノ數ハ郡會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ムルヲ要ス而シテ郡制第五條末項ニ基キ發セラレタル明治三十二年內務省令第十八號第二條ニハ議員配當ノ更正ヲ要スルトキハ改選ノ際ヲ俟テ之ヲ行フ但シ選舉區ニ増減アリタル場合ハ此限ニアラスト規定シタリ故ニ選舉區ニ増減アル場合ニハ常ニ議員ノ改選ヲ要ス

選舉區ノ合併ハ其地位ヲ失フモ
然其地位ヲ失フモ
スノニアラス若シ其地位ヲ失ハシメントスルトキハ特別ノ明文ヲ要スルナリ

ルモノノ如ク解セラルルト雖モ衆議院議員選舉法第七條ニモ規定アル如ク議員ハ選舉區ノ代表者ニアラサルニ依リ選舉區ノ區域變更ノ場合ハ勿論選舉區其モノカ他ト合併ノ爲消滅スルモ當然議員ハ其地位ヲ失フヘキモノニアラス若シ其地位ヲ失ハシメントスルトキハ特別ノ明文ヲ要スルナリ

三、投票方法

選舉ハ投票ニヨリ之ヲ行フモノニテ其投票ハ選舉人一人ニツキ一票ニ限ラレタリ

投票ハ單記投票ニシテ選舉區ハ一區一人(議員)ニアラサルニヨリ衆議院議員ノ選舉ト同ク大選舉區單記投票ナリ其目的ハ少數代表ノ結果ヲ得セシメントスルニ外ナラサルナリ

投票ハ前ノ郡制ニテハ記名ナリシモ現行郡制ニテハ無記名投票トナレリ我國ノ議員選舉中初メハ市町村會議員ノ選舉ノミ無記名投票ニシテ郡會、府縣會、衆議院ノ議員選舉ハスヘテ記名投票ナリシモ記名投票ナルトキハ

賄賂脅迫等ノ選舉上ノ弊害甚シキニヨリ遂ニ盡ク無記名投票ト改メタルモノナリ

無記名投票ノ主旨ヲ貫クカ爲代筆ヲ許ササルコトトナシ且ツ明文ヲ以テ自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサルモノハ投票ヲ爲スコトヲ得スト定メタリ

市町村會議員ノ選舉ニ於テハ選舉人カ投票ヲ選舉會場ニ於テ書スルモ自宅ニテ書シテ選舉會場ニ持參スルモ自由ナリト雖モ郡會議員ノ選舉ニ於テハ選舉會場ニ於テ選舉人自ラ成規ノ投票用紙ニ被選舉人ノ氏名ヲ記載シテ投函セサルヘカラサルナリ
マタ市町村議員ノ選舉ニ於テハ投票用紙一定セサルモ郡會議員ノ選舉ニ就テハ投票用紙ハ郡長ノ定ムル處ニヨリ一定ノ式ヲ用ウヘシト定メラレタリ

左ノ投票ハ無効タルモノトス

1. 成規ノ用紙ヲ用キサルモノ

選舉人自
ラ投票ナ
シテ投票
用紙ヲ投
函セサル
ヘカラス

2. 一投票中二人以上ノ被選舉人ヲ記載シタルモノ
 3. 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ(誤字脱字アルモ確認シ得ラレル以上ハ有効ナリ)
 4. 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
 5. 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 投票ノ拒否並効力ハ選舉立會人之ヲ議決シ可否同數ナルトキハ選舉長之ヲ決スヘキナリ

四 選舉人名簿

町村長ハ選舉期日前ヲ期トシ其日ノ現在ニヨリ選舉人名簿ヲ調製シ數區村ノ區域ニヨリ選舉區ヲ設ケタル場合ニ於テハ選舉ヲ管理スル町村長ニ之ヲ送付スヘキモノナリ

選舉管理者タル町村長ハ選舉前五十日ヲ期トシ其日ヨリ七日間町村役場又ハ其他ノ場處ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ縦覽ニ供スヘシ一タヒ縦覽ニ供シタルトキハ町村長ニ於テ其中ニ誤アルコトヲ發見スルモノ之ヲ訂正

スルヲ得ス併シ關係者ニ於テ其選舉人名簿ニツキ異議アルトキハ右期限内ニ町村長ニ中立ツヘク町村長ハ其申立ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ決定スルヲ要ス其決定ニ不服アルモノハ訴願ノ順序ヲ追テ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

府縣知事郡長町村長モ選舉人名簿ニ關シ訴願及行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ルナリ

右ノ異議ノ決定ニヨリ訴願ノ確定裁決ニヨリ若クハ行政訴訟ノ判決ニヨリ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ選舉ノ期日前七日迄ニ修正ヲ加ヘテ確定名簿ト爲スヘキモノナリ

確定名簿ノ有効期限ハ一年ニシテ確定後一年以内ノ選舉ニ之ヲ適用スヘキモノナルモ名簿確定後訴願ノ裁決若クハ行政訴訟ノ判決ニヨリ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ選舉ノ期日前七日マテニ修正スヘク而シテ修正スレハ必ス公告スヘキモノナリ

確定名簿ノ效力トシテハ之ニ登録セラレサルモノハ選舉權ヲ行フコトヲ

確定名簿
限ノ有效期

確定名簿
ニ登録セ
ラレタル
カ爲選舉
權ヲ得ル
モノニアル
ヲモス

得サルニアリ只例外トシテ選舉人名簿ニ登録セラルヘキ確定裁決書若クハ判決書ヲ所持シ選舉ノ當日選舉會場ニ到ルモノハ選舉ヲ爲スコトヲ許サルルノミ併シ確定名簿ニ登録セラルルモ選舉權ヲ有セサルモノハ選舉ヲ爲スコトヲ得サルナリ

異議ノ決定若クハ訴願ノ裁決確定シ又ハ行政訴訟ノ判決アリタルカ爲名簿無効トナリタルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘク而シテ其無効名簿ニヨリ選舉ヲ行ヒタルトキハ郡制第二十四條第一項本文ノ適用ニヨリ全然其選舉ハ無効タルヘキモノナリ

五 選舉權

郡會議員ノ選舉權ヲ有スルニハ左ノ二要件ヲ具フルヲ要ス

1. 郡内ノ町村公民ニシテ町村會議員ノ選舉權ヲ有スルコト
 2. 郡内ニ於テ一年以來直接國稅年額三圓以上ヲ納ムルコト
- 直接國稅年額三圓以上トハ其一種ニ付テ納ムルト二種以上ニ就テ納ルトヲ問ハス通計三圓以上ヲ納ルヲ以テ足レルモノニテ又其納ムルトハ

町村公民
ニアラサ
レハ被選
權ヲ有セ
ス

單ニ賦課ニ止ラス實際納ムルコトヲ必要ト爲スナリ一年以來ノ年限ニ就テハ郡制第六條ニ郡會議員ノ選舉權及被選舉權ノ要件中其年限ニ關スルモノハ府縣郡市町村ノ廢置分合若クハ境界變更ノ爲中斷セララルコトナシト特ニ規定セラレタリ

選舉會場ハ選舉人ニ對シテノミ公開セラルルト雖モ選舉人ハ選舉會場ニ於テ協議又ハ勸誘ヲ爲スヲ得サルコト勿論ナリ

六 被選資格

郡内ノ町村公民ニシテ町村會議員ノ選舉權ヲ有シ且其郡内ニ於テ一年以來直接國稅年額五圓以上ヲ納ムルモノ被選舉權ヲ有スルナリ市町村議員ノ選舉人ト被選舉人トノ間ニハ納稅上ノ區別ナキモ衆議院議員ノ選舉人ト被選舉人トノ間ニハ納稅上ノ區別アリテ其選舉人タルニハ直接國稅年額十圓以上ヲ納ルノ必要アルモ其被選舉人タルニハ全ク納稅上ノ要件ヲ必要トナサス然ルニ郡會議員及府縣會議員ノ選舉ハ之ニ反シテ被選舉人ノ納稅ノ要件ハ選舉人ノ納稅ノ要件ヨリモ高キモノト定メラレタリ其立

被選權ナ
キ者

法上ノ理由ハ衆議院議員選舉法ニ於テハ選舉人ニ信用ヲ置キ議員ニ不適當ナルモノハ選舉人ニ於テ選舉セサルヘケレハ從テ被選舉人ノ範圍ヲ制限スルヨリモ寧ロ廣ク無資産者ノ中ニモ議員ノ適材ヲ求メシメントノ主旨ニ出タルモノナルモ郡制府縣制ニ於テハ納稅セサルモノ若クハ納稅少キモノヲ議員ニ舉クルトキハ郡費府縣費ノ負擔ヲ議スルニ當リテモ自己ノ利害關係少キカ爲自ラ其議事ニ冷淡ナルノ虞ナキニアラサルニヨリ郡及府縣ノ豫算ニ利害關係深キモノヲシテ議事ニ參與セシメントスルノ目的ニ出タルモノナリ

左ニ掲クルモノハ郡會議員ノ被選資格ヲ有セス其之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セツル場合ニ於テモ同ク被選資格ナキナリ

1. 所屬府縣ノ官吏及有給吏員

此中ニ府縣立中學校高等女學校其他府縣立學校ノ職員ヲ包含セサルナリ

2. 其郡ノ官吏及有給吏員

被選權ナ
與ヘサル
理由

此中ニ郡立學校ノ職員ヲ包含セサルナリ

3. 判事、檢事、警察官吏及收稅官吏
4. 神官、神職、僧侶其他諸宗ノ教師
5. 小學校教員

右列記ノモノニ被選資格ヲ有セシメサルノ理由ハ前ニ市町村會議員ニ就テ述ヘタルト同一ナリ即此等ノモノハ人民ニ對シテ多少ノ勢力ヲ有シ得ヘキ地位ニアルヲ以テ其勢力カ選舉人ノ意思ヲ左右シ選舉ノ公正ヲ期シ得ラレサルコトヲ恐ルルカ爲ナリマタ其職ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサルモノニモ同ク被選資格ヲ有セシメサルハ在職中其勢力ヲ利用シテ地盤ヲ作り選舉間際ニ其職ヲ去リテ議員ノ候補ヲ爭フモノヲ防止スルカ爲ナリ

右ノ列記以外ノ官吏ニシテ當選ヲ承諾セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受ケサルヘカラサルナリ

選舉事務ニ關係アル吏員ハ其選舉區ニ於テ被選資格ヲ有セス其之ヲ罷メ

タル後一箇月ヲ經過セサルモノモ同シク被選資格ナキナリ
 郡ノ爲請負ヲ爲ス者又ハ郡ノ爲請負ヲ爲ス法人ノ役員ハ其郡ノ郡會議員
 ノ被選資格ナキモノトス之ハ市町村議員選舉ニツキ規定セラレサリシモ
 他府縣會議員衆議院議員ノ選舉ニ就テモ同一ノ規定ヲ有セリ其ハ市町村
 制制定ノ當時此規定ノ必要ヲ感セサリシモ後請負者ノ議員トナルノ弊ヲ
 認メ此規定ヲ設クルニ至リタルモノナリ其請負ノ文字ニツキ從來屢々疑
 義ヲ生シタルニヨリ其意義ニツキ一言センニ元來請負ナル文字ハ民法ニ
 於テ一定ノ意義ヲ有シ即民法第六百三十一條ニ依レハ當事者ノ一方カ或
 仕事ヲ完成スルコトヲ約シ相手方カ其仕事ノ結果ニ對シテ之ニ報酬ヲ與
 フルコトヲ約スル契約ヲ指スモノトス故ニ郡制ノ此請負ノ文字モ民法ノ
 意義ニ從テ解釋セサルヘカラサルナリ然ルニ之ヲ民法以外ニ於テ解釋セ
 ントスルモノハ郡制府縣制ニ於テ請負ナル文字ヲ果シテ民法ト同一ノ意
 義ニ用キタルヤ否ハ疑問ナリ元來法律上ノ用語ハ各法律ニ於テ特別ノ意
 義ヲ有スルモノニテ同一ノ語ハスヘテノ法律ニ通シテ同一ニ解釋セサル

請負ノ文
 字ノ意義

ヘカラサルモノニアラス郡制府縣制ニ於テ郡府縣ノ爲ニ請負ヲ爲スモノ
 及請負ヲ爲ス法人ノ役員ニ被選資格ヲ與ヘサルノ主旨ハ郡府縣ヨリ特殊
 ノ利益ヲ受ケ郡府縣ノ工事其他ノ事業ニツキ直接ナル利害關係ヲ有スル
 モノカ郡府縣ノ議決機關ニ參與シ自己ノ私利ヲ營ムノ弊ヲ防カントスル
 ニアリ然ルニ請負ナル文字ヲ民法ノ請負ト同一義ニ解スルトキハ郡府縣
 ニ對シ物品供給ノ契約ヲ爲スモノノ如キモ其取引請負ノ形式ニ依ラサル
 カ爲ニ被選資格ヲ有スルノ不都合ナル結果ヲ生ス故ニ郡制府縣制ノ請負
 ハ民法上ノ請負ノ如ク狭キ意義ノモノニアラスシテ通俗ニ所謂請負ト同
 一意義ニ解セサルヲ得スト論シマタ大審院モ衆議院議員選舉法ノ請負ナ
 ル文字ヲ此論ト同シク廣義ニ解シ電燈供給業ハ被選資格ナシト判決セリ
 ト雖モ契約ナル文字ハ民法上ノ用語ナルニヨリ特別ニ反對ノ規定ナキ以
 上ハ民法ニ從テ之ヲ解釋セサルヘカラサルト同シク請負ナル文字モ民法
 上ノ用語ナルニヨリ反對ニ推測スヘキ根據ナキ場合ニ於テハ民法ノ請負
 ト同一義ニ解釋スヘキモノナリ

或ハマタ請負ナル文字ヲ一層狹義ニ解釋スルモノアリテ郡制府縣制ノ請負トハ主トシテ郡府縣ノ道路橋梁堤防其他建物等ノ土木工事ノ請負ヲ意味シ銀行ニシテ金庫ノ事務ヲ取扱ヒ新聞社ニシテ令達ノ公布ヲ引受クルカ如キハ其請負ノ中ニ包含セズ其理由ハ金庫事務取扱及令達公布引受ノ如キハ事實毫モ私利ヲ營ムノ餘地ナケレハ其請負ノ爲ニ被選資格ヲ失ハシムヘキモノニアラスト論スルモノアリト雖モ郡制府縣制ノ明文ニ請負ノ意義ニツキ毫モ制限ヲ加ヘタルモノナキニヨリ若シ民法ノ請負ノ中ニ包含スヘキモノナルトキハ其業務ノ種類ヲ問ハススヘテ郡制府縣制ノ請負ノ中ニ入ルヘキモノト解釋セサルヲ得サルナリ

又請負ヲ爲スモノト云ヘハ現ニ請負契約ヲ爲シツツアルモノノミナラス所謂御用商人トシテ郡府縣ノ爲請負ヲ爲スコトヲ常業ト爲スモノハ現ニ請負契約ヲ爲シツツアルト否トニ拘ハラヌスヘテ其中ニ包含サルモノナリ

又請負ヲ爲ス法人ノ役員トハ外部ニ對シテ法人ヲ代表スルノ權限ヲ有ス

請負者ノ範圍

ル一切ノ役員ヲ指スモノニシテ顧問及書記以下ノ使用人ノ如キハ此中ニ含マレサルナリ

七、選舉告示

郡會議員ノ選舉ハ郡長ノ告示ニヨリ之ヲ行フモノニテ其告示ニハ選舉ヲ行フヘキ選舉區投票ヲ行フヘキ日時及選舉スヘキ議員ノ員數ヲ記載シ新ニ選舉人名簿ヲ調製シテ選舉ヲ行フ場合ニハ少クトモ七十日前其他ノ場合ニハ少クトモ十四日前ニ之ヲ發スヘキモノナリ市町村會議員ノ選舉ハ七日前ニ公告スヘシトアリテ其日數ニツキ兩者ノ間ニ差異アルハ區域ニ廣狹ノ別アルヲ以テナリ故ニ府縣會議員ノ選舉ハ二十日前衆議院議員ノ選舉ハ三十日前ニ定メラレタリ

選舉ノ場處ヲ全ク變更シタルトキハ(從來郡役所ト變シタルカ如キ市)更ニ告示ヲ爲シ法定ノ期間ヲ隔テテ選舉ヲ爲スヘキコトハ疑ナシト雖モ場處其モノカ轉居シタルトキハ(例ヘハ郡役所ヲ選舉場處ト爲シタルカ如シ)更ニ告示ヲ要スルヤ否ヤカ疑問ナリ即選舉ノ場處(wahlraum)トハ地點ヲ指スヤ或ハ或特定ノ

選舉ノ場
處トハ地
點ヲ指ス
ラスニア
ラス

場處ヲ指スヤカ疑問ナリ予輩ハ選舉ノ告示ニ地點ヲ示サスシテ單ニ場處ヲ明記シタルトキハ其場處ノ轉居ニ更ニ告示ヲ要セスト考フルナリ

八、選舉機關

1. 選舉管理者

町村長選舉ノ管理者トナルモノニシテ數町村ヲ以テ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ郡長ニ於テ其管理者タル町村長ヲ指定スルナリ
選舉管理者ハ選舉ノ日ニ於テ選舉ノ管理ヲ爲スノミナラス町村役場以外ニ選舉會場ヲ設クルトキハ其場處ヲ指定スルノ權ヲモ有スルモノナリ

2. 選舉長及選舉立會人

選舉管理者タル町村長ハ臨時ニ選舉人中ヨリ二名乃至四名ノ選舉立會人ヲ選任シ町村長自ラ其選舉長ノ任ニ當ルモノニテ其立會人ハ名譽職タルモノナリ

九、當選決定

議員ノ選舉ハ有效投票ノ比較的多數ヲ得タルモノヲ以テ當選者トシ投票同シキトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ選舉長抽籤ヲ以テ當選者ヲ定ム當選者定リタルトキハ選舉長ヨリ郡長ニ之ヲ報告スルト共ニ當選者ニ之ヲ告知ス其告知ヲ受ケタル當選者ハ五日(官吏ハ二日以内)以内ニ其當選ヲ承諾スルヤ否ヲ郡長ニ申立ツヘク若シ期限内ニ其申立ヲ爲ササルトキハ當選ヲ辭シタルモノト看做サルナリ

市町村公民カ市町村會議員ニ當選シタルトキハ之ヲ擔任スル義務アルモ郡會議員ニ當選シタルモノハ之ヲ承諾スルノ義務ナキニヨリ其當選ヲ承諾スルト否トハ全ク其自由ニ屬スルモノナリ
當選者其當選ヲ承諾シタルトキハ郡長ハ直ニ當選證書ヲ附與シテ之ヲ告示ス併シ議員ハ選舉ニヨリ其地位ヲ得ルモノニテ當選證書附與若クハ其告示ニヨリテ始メテ議員トナルモノニアラサルニヨリ議員ノ任期ハ選舉ノ日ヨリ之ヲ起算スヘキモノナリ

十、選舉訴訟當選訴訟

郡會議員
ノ當選者
ハ承諾
シタル
義務ナシ

選舉管理
者ノ職務
範圍